

町田市障がい者青年学級

実践報告集



2020年度 第46号

はじめに

2020 年度町田市障がい者青年学級事業について、「実践報告集第 46 号」を刊行いたしました。この報告集は、障がい者青年学級（以下「青年学級」）の活動の様子を綴り、分析して課題を明らかにし、さらに今後の活動の展望を語ることを目的に編集したものです。編集にあたっては、日頃から活動をご支援いただいている「担当者」（ボランティアスタッフ）の皆様にご尽力いただきました。

2020 年度の青年学級の活動を振り返りますと、3 つの学級に 164 名の学級生が参加しました。それぞれ 4 名と各 1 名の新たな仲間を迎えた公民館学級、ひかり・土曜学級では、新人学級生を交えての学級活動が他の学級生にも刺激を与え、新たな学級活動を生み出す土台になりました。なお、3 年連続での希望者全員が青年学級に参加できたことは、一つの成果であり実績と捉えています。

学級活動は、初回の緊急事態宣言解除がされた 6 月中旬からのスタートとなりました。3 蜜回避が求められる中での活動内容を模索する 1 年となりました。青年学級では、3 蜜を前提とした活動が多く、対策として試行されたことは、日ごろの健康管理の徹底、食事を挟まない半日での活動、慣れないマスクをしながらの活動、1 行動 1 消毒など数多くの取り組みが行われました。また、合宿や旅行についても様々な対策が検討したものの、やむなく中止とし、代わりに通常の学級日として活動したり、地域のアイドルを招待してコンサートを実施したりするなどの取組もありました。

なお、学級日の運営を担う各学級の担当者の判断を尊重しつつ、苦渋の決断として学級日を中止とする判断も生涯学習センターとして行いました。

また、担当者体制は、コロナ禍を受けて辞退する人がいる中、担当者募集のために市内外の大学・専門学校の授業などで積極的な P R 活動をすることもできず、結果としてわずか 5 名の方に留まりました。このため、一部の学級では半日での運営でなければ対応できない事態にも追い詰められました。

一転して、青年学級に参加する学級生を取り巻く環境は、ここ数年目まぐるしく変化しています。2014 年 1 月、我が国は「障害者権利条約」を批准しました。国連総会で採択された 2006 年以後、障害者虐待防止法や障害者総合支援法の施行、障害者差別解消法の成立、障害者雇用促進法の改正など、さまざまな制度改革を経たのち批准しました。この条約は様々な分野における権利実現のための取り組みを締約国に対して求めています。教育を受ける権利についても規定しています。

また、町田市においても町田市障がい者プラン 21-26 が策定され、障がいのある人が学び続けられるように社会教育の機会や内容の充実が重点施策として取り上げられています。

これらの権利保障がされる中、2016 年の津久井やまゆり園事件、2019 年には旧優生保護法による強制不妊手術の訴えが棄却、2020 年 3 月には不要不急や自粛要請という言葉で抑圧される社会状況の中、マスクができないことによる非難を受けるなど、障がい差別が根強い問題となっています。このような状況の中、障がいのある人の学びの場である青年学級に求められていることは何なのか。できることは何なのかを考えさせられる日々でした。

このような時代に、障がいがあるといわれる人々が主体的に学び、社会参加し、自らの人生を肯定し、地域で生活していくためにも、社会教育事業としての青年学級をより充実させる必要があります。町田という地域に根付いた青年学級事業ですが、さらに社会の中で理解を深められ、より多くの方の協力を得て、事業を展開していけるよう努力と研鑽を重ねていきたいと考えています。

末筆になりましたが、事業の実施、「実践報告書」の作成など、日ごろから活動をご支援いただいている担当者の皆様、関係者の皆様のご尽力に改めて感謝申し上げます。

2022 年 3 月

町田市生涯学習センター

目 次

はじめに・・・・・・・・・・	3	第3章 考察・・・・・・・・・・	97
第1部 学級活動の概要・・・・・・・・	7	第4部 土曜学級	
第2部 公民館学級		第1章 班活動	
第1章 コース活動		星空ドルフィンスポーツ班・・・・・・・・	101
みんなのしあわせづくりコース・・	19	みんなのイベント班・・・・・・・・	105
まあるいゆめコース・・・・・・・・	25	あじさい班・・・・・・・・	109
さくらコース・・・・・・・・	33	青空いなずま班・・・・・・・・	113
ハッピーハッピーくらしコース・・	39	第2章 自治運営	
さくらんぼスポーツ体づくりコース		1 班長会・・・・・・・・	115
・・・・・・・・	45	第3章 考察・・・・・・・・	116
ゆめのつづきコース・・・・・・・・	51	第5部 地域への広がり	
オンライン学級・・・・・・・・	61	第1章 サークル活動	
第2章 自治運営		1 おなべの会・・・・・・・・	121
1 班長会・・・・・・・・	67	2 とびたつ会・・・・・・・・	122
2 つどい委員会・・・・・・・・	69	3 スケッチルーム・・・・・・・・	123
第3章 考察・・・・・・・・	72	4 上を向く会～気流～・・・・・・・・	124
第3部 ひかり学級		第6部 学級を支える体制	
第1章 コース活動		第1章 担当者会・調整会・学習会・	131
エールハイキングコース・・・・・・・・	79	第2章 送迎検討委員会・・・・・・・・	134
スイートゆめいろ創作コース・・	85	第3章 父母会・・・・・・・・	136
ゆかいなフラワーコース・・・・・・・・	89	第7部 青年学級によせて	
ライブダンス 2020 コース・・・・・・・・	93	第1章 青年学級によせて・・・・・・・・	139
第2章 自治運営		第2章 新人担当者として関わって・	139
1 班長会・・・・・・・・	96	資料・・・・・・・・	145

2020年度障がい者青年学級(学級実施日)

回	月 日	活 動 内 容 (活 動 場 所)
	4.19 日	公民館学級・ひかり学級 青年学級を語る会(生涯セコロナの影響で休館
	4.25 土	土曜学級 青年学級を語る会(生涯セ) コロナの影響で休館
	5.17 日	とっておきの音楽祭(町田駅前周辺) コロナの影響で中止
1	6.7 日	公民館学級・ひかり学級(生涯セ・ひかり療育園) オンライン・中止
	6.13 土	土曜学級 開級式(生涯セ) コロナの影響で中止
2	6.21 日	公民館学級・ひかり学級(生涯セ・ひかり療育園) 1日・中止
	6.27 土	土曜学級(生涯セ) コロナの影響で中止
3・1	7.5 日	公民館学級・ひかり学級(生涯セ・ひかり療育園) 午前10時～午後4時
1	7.11 土	土曜学級(生涯セ) 午前10時～正午
4	7.19 日	公民館学級・ひかり学級(生涯セ・ひかり療育園) オンライン・中止
	7.25 土	土曜学級(生涯セ) コロナの影響で中止
5・2	9.6 日	公民館学級・ひかり学級(生涯セ・ひかり療育園) 午前10時～午後4時
2	9.12 土	土曜学級(生涯セ) 午後1時半～3時半
	9.19 土	公民館学級 合宿(大地沢青少年センター) コロナの影響で中止
6	9.20 日	公民館学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
3	9.26 土	土曜学級(生涯セ) 午後1時半～3時
7・3	10.4 日	公民館学級・ひかり学級(生涯セ・ひかり療育園) 午前10時～午後4時
4	10.10 土	土曜学級(生涯セ) 午前10時半～午後3時半
8・4	10.18 日	公民館学級・ひかり学級(生涯セ・ひかり療育園) 午前10時～午後4時
9・5	11.1 日	公民館学級・ひかり学級(生涯セ・ひかり療育園) 午前10時～午後4時
5	11.7 土	土曜学級(生涯セ) 午前10時半～午後3時半
10・6	11.15 日	公民館学級・ひかり学級(生涯セ・ひかり療育園) 午前10時～午後4時
6	11.21 土	土曜学級(生涯セ) 午前10時半～午後3時半
	12.5 土	土曜学級(生涯セ) コロナの影響で中止
11・7	12.6 日	公民館学級・ひかり学級(生涯セ・ひかり療育園) 午前10時～午後4時
	12.19 土	土曜学級(生涯セ) コロナの影響で中止
12	12.20 日	公民館学級・ひかり学級(生涯セ・ひかり療育園) 1日・中止
	1.9 土	土曜学級(生涯セ) コロナの影響で中止
	1.10 日	ひかり学級(ひかり療育園) コロナの影響で中止
13	1.17 日	公民館学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
	1.23 土	土曜学級(生涯セ) コロナの影響で中止
	1.24 日	ひかり学級(ひかり療育園) コロナの影響で中止
14	2.7 日	公民館学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
	2.13 土	土曜学級(生涯セ) コロナの影響で中止
	2.14 日	ひかり学級(ひかり療育園) コロナの影響で中止
15	2.21 日	公民館学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
	2.27 土	土曜学級(生涯セ) コロナの影響で中止
	2.28 日	ひかり学級(ひかり療育園) コロナの影響で中止
16	3.7 日	公民館学級 成果発表会(生涯セ) コロナの影響で中止
	3.13 土	土曜学級 成果発表会(生涯セ) コロナの影響で中止
8	3.14 日	ひかり学級(ひかり療育園) 午前10時～午後4時
7	4.10 土	土曜学級 特別活動(生涯セ) 正午～午後3時

第 1 部

2 0 2 0 年度

学級活動の概要

1. 青年学級のねらい

青年学級開設当初は 20 名に満たなかった学級生も、現在は十倍近い人数になり、3 つの学級にわかれてそれぞれ独自の活動を展開しています。各学級ともに、青年学級開設当初からの目標である「生きる力・働く力の獲得」のもと、「自治」「生活づくり」「文化の創造」という 3 つの柱を軸に活動を行ってきました。

ここでいう 3 つの柱についてですが、まず「自治」とは学級生自身が活動を企画し、運営していくことを意味します。一人ひとりの学級生の意見をもとに、それを取りまとめる班長・副班長を中心とした集団活動が進められ、さらにその班長や副班長によって構成される班長会で学級全体を見渡していく、というような民主的なプロセスを重要視してきました。そして何よりも大切にしてきたことは、学級生がなにものにも束縛されることなく、一人ひとりの思いを自由に語ることです。とはいうものの、月 2 回の限られた活動のなかで、企画から運営まですべてを行うということは、たやすくありません。しかし、それらを大切にしていくことで、自分自身の意見を述べる機会や経験を持ちにくかった学級生一人ひとりの主体性は、確実に培われてきたのです。

次に「生活づくり」です。これは活動のなかでお互いの要求、職場や家庭での喜びや哀しみなどのさまざまな思いを伝え合い、一人ひとりの生活の様子や課題を集団の場に出し、その思いや要求を集団で受け止め共有していくことです。そのことを通して、自らの生活を振り返り、自分自身の存在を肯定し、人を思いやる仲間づくり・集団づくりが行われてきました。この集団での経験が、現実の厳しい生活に向き合い、積極的に自分の生活上の困難に立ち向かっていく力になるのではないかと考えられます。

このような自治的な集団をもとに、学級生の生活要求や課題を反映させることでつくられていく活動は、既成のものではない独自の「文化の創造」を通して、具体的なかたちを与えられ、さらに深められていきます。そ

れにより、学級生が活動のなかで実質的な主体者となり、ひいては生活場面でも主体的な存在となっていくことを目指しています。

実際の活動では、劇や音楽、絵などの様々な創作活動を素材として取り組み、経験の幅を広げながら活動を創りだしてきました。そして、このような「文化の創造」から、学級生の要求や働くことの誇り、喜び、苦しみ、仲間への思いなど、生活実感に根ざしたものを取り入れ、オリジナルソングに代表されるような、青年学級独自の表現文化活動を作り上げ、他者へアピールする力を築きあげてきました。

このように、文化活動に積極的に関わり、「文化の創造」を担っていくことは、自らの生活を振り返り、作り上げ、学級生が主人公として人生を切り拓いていく力につながると考えられます。

「文化の創造」活動の延長として、1988 年からスタートした『若葉とそよ風のハーモニーコンサート』（以下、わかそよ）も、2019 年 5 月に 19 回目が開催され、またこれに類する催し物が開かれるなどしていますが、これまでの青年学級の実践から、地域に打って出たコンサートであり、そこでは長年培ってきた学級生の自治の力が大いに発揮されています。

「自治」「生活づくり」「文化の創造」の 3 つが歯車のように回りながら学級生たちの生活をより豊かなものにしていき、大きな力になっていくことが、これまでの実践のなかで確認されてきています。このことを踏まえ、今年度もそれぞれの学級で実践が展開されました。

2. 青年学級の概要

（1）各学級の活動の概要

青年学級は、現在、3 つの学級にわかれて月 2 回の活動を行っています。そのうち「公民館学級」と「ひかり学級」は日曜日、「土曜学級」は土曜日に活動しています。

2019 年度は 3 学級あわせて学級生 163 名（年度当初時点での在籍者数）、担当者 66 名（年度末時点で担当者または当日担当者と

して活動に関わっていたボランティアの人数)で活動を行いました。一年間の活動は6月の開級式から、秋の合宿や日帰り旅行を挟んで、3月の成果発表会までの間に公民館・ひかり学級は原則として毎月第1・第3日曜日に、土曜学級は毎月第2・第4土曜日に行い、それぞれの学級で年14～15回の活動を行いました。また、活動体制としては、土曜学級が班体制、公民館学級とひかり学級がコース制を取りました。

(2) 活動日の大まかな流れ

タイムテーブルは3学級ともに概ね次のとおりでした。

10時～	朝のつどい
10時30分～	コース・班活動 (途中、昼食を挟む)
15時30分～	帰りのつどい
16時	終了
16時～	班長会など

班長・副班長は、コースや班をまとめると共に、「班長会」に出席し、他のコースや班との連絡を取り合って、各学級全体の活動について話し合い、学級の自治活動を行いました。他にも、公民館学級では、朝夕のつどいについて話し合う「つどい委員会」が帰りのつどいの後に行われました。土曜学級では、班毎に交代制でつどいについて話し合われました。

(3) 一年間の学級活動の流れ

4月	学級を語る会
6月	開級式
7～2月	月2回の学級活動 (8月は夏休み、9～11月に合宿や日帰り旅行あり)
2～3月	成果発表会

3. 青年学級のこれまでの歩み

1974年度に開設された青年学級は体制面に着目すると、その歴史の中に大きな4つの節目をとらえることができます。すなわち、コース制の始まり(1985年)、ひかり学級の発足(1991年)、土曜学級の発足(1997年)、

とびたつ会の発足(2004年)です。そしてこの節目を境にして、5つの時期に分けることが可能となります。

(1) 青年学級の発足と実践から生まれた3つの柱

【1974年度～1984年度】

第一の時期は、青年学級の実践の方向性を模索する中から実践の中核となる3つの柱を確立した時期と言えます。この3つの柱とは、素材として表現活動を伴う文化的な創造活動を重視すること、集団のかたちとして自治的な集団をめざすこと、主題としてそれぞれの生活を活動の中心にすえることです。

こうした3つの柱は、それぞれ、劇づくりを通した仲間づくりをめざした時期(1974年～1977年)、自主的な活動を重視した時期(1978年～1980年)、生活を見つめ直した時期(1981年～1984年)という3つの時期に対応しており、実践の中から生み出されてきた柱そのものと言ってよいでしょう。また、発足当初20名だった学級生の数は、1984年度には63名になっていました。

(2) コース制のはじまりとその発展の時期

【1985年度～1990年度】

第二の時期は、コース制の実施によって始まる時期ですが、第一の時期の成果を受けて、内容別のコース活動に分かれ、それぞれのコースごとにその内容をじっくり深めていく中で、生活づくりをめざすこととなりました。

この時期の生活づくりというねらいが具体的な成果となってあらわれた例に、「わかそよ」が産声を上げたことが挙げられるでしょう。それぞれの生活の中で感じている想いを歌に託して地域に向けて発信することを通じ、一人ひとりの新たな生活の創造が始まったと言えます。

また、こうした活動の中から、全国障害者問題研究会の全国大会に参加したり、パリで開催された国際会議に参加したりする学級

生が現れるようにもなってきました。

生活づくりという目標のもと、地域にアピールしていく活動は、いろいろなところで実を結び始めたと言ってよいと思います。

この間、参加希望者は増加を続け、1990年度には学級生が99名を数えるようになりました。活動の充実が、青年学級の存在を広く市民にアピールしたことも、希望者の増加に一役買っていると言えることができるでしょう。

（３）ひかり学級への分級による２学級体制の時期

【1991年度～1996年度】

第三の時期は、学級生の増加という事態に対応するためにひかり学級の誕生から始まる時期です。

学級生が増加する中で、言語的コミュニケーションが難しく、多くの介助を必要とする障がいのある重い学級生の姿も見られるようになりました。そうした生活上の困難を抱えた学級生がいる一方で、問題が差し迫っていない学級生も少なからずいるという状況は、学級生の多様化も意味していました。

こうした状況下では、学級全体としての共通の目標を以前のように維持することは、しだいに困難になってきました。しかしながら、それは一方で今までの流れを継承しつつ、多様な要求に応える実践を繰り広げてきた時期であると言えるでしょう。

社会への大切なアピールの場「わかそよ」も、青年学級の大規模化のため、隔年開催となりましたが、ミュージカルという新しい表現を盛り込みながら発展を遂げています。またこの時期、海外研修の機会を与えられる学級生が何名か生まれました。

（４）土曜学級の誕生による３学級体制の時期

【1997年度～2003年度】

第四の時期は、土曜学級の誕生によって３学級の体制が始まった時期です。土曜学級は、最初、休日の小学校の校舎を借りるかたちで発足しました。活動の際、車いすの方が一部

利用できない場所がありましたが、2002年に公民館が現在のビルに移ってからは、公民館で活動できるようになりました。「自治」「生活づくり」「文化の創造」の３つの柱を土台にしながらも、公民館学級、ひかり学級、土曜学級のそれぞれが独自の活動を展開するようになりました。

この時期、公民館学級の学級生である高坂茂さんが、日本で最初の本人活動の会「さくら会」結成の中心メンバーとなり、町田の青年学級にも本人活動の成果を持ち帰ろうという思いで活動を始めましたが、2000年３月に志し半ばで職場の事故で亡くなるという大変大きな出来事がありました。「町田にも本人活動を」という動きは、こうした中で芽生え始め、高坂さん亡き後は、その遺志を引き継ぐかたちでいろいろな試みがなされ、とびたつ会の発足へとつながる流れを作り出しました。

（５）とびたつ会の誕生 ～青年の活躍の拡がり

【2004年度～現在】

第五の時期は、青年学級からとびたつ会が生まれ、市主催事業としての青年学級と自主サークルとしてのとびたつ会が、並び立つ体制を開始した時期です。とびたつ会は、形式的には、青年学級とは別の組織ですが、青年学級の活動を通して本人活動の重要性を自覚したメンバーによる会です。しかし、とびたつ会にも青年学級に参加した経験のない青年が加わるなど、次第に独立した活動をするようになりましたが、学級の終わった後の交流や学級行事などへのとびたつ会メンバーの参加、「わかそよ」や、それに類する催し物の共同開催など、両者は深い関係を今後も持ち続けていくことになると思われます。

また、とびたつ会の発足によるメンバーの移動が、結果的に学級生の受け入れ能力を超えてしまった青年学級に新たなメンバーを受け入れる余地をもたらしました。しかし、短期的には学級をひっぱっていくリーダー的存在が抜けることを意味しており、学級活動に影響をもたらすことになりました。しか

し学級生の中からは新しくリーダーシップを発揮する存在が現れ始め、そのリーダーシップのもとで新しい活動の展開が見られるようになりました。

またコミュニケーションの多様化によって、これまであまり発言ができていなかった青年たちの主張が学級活動に反映され始めています。それは自ら発話や文字を書くことができずコミュニケーションが難しいため、これまで話し合いや作文など「ことばを使つての活動」にはあまり参加できなかった青年たちが活躍するようになったということです。

これは「スイッチパソコン」や「指文字」など、支援方法の充実が図られたことが大きいのですが、コミュニケーションが難しいとされる青年たちのことばの世界が拓かれたということ以上に、学級の場面での存在感が大きく増したという変化がありました。

学級では表現活動を通じて主体性を獲得する場面が多くあります。例えば実際に歌うことはできなくても学級ソングの作詞をして発表の舞台に上がるという経験を通じて主体性を獲得する青年たちが出てきました。

こうした青年たちが表舞台に出ることで、学級の雰囲気にも変化の兆しが生まれています。これが社会に受け入れられるにはまだまだ厳しい状況ですが、40 年を越える学級の歴史で貫かれている理念に新しい芽吹きとなったともいえるでしょう。

4. 3 学級に関わる今後の課題

（１）新人学級生の継続的受け入れと担当者体制の充実

青年学級の抱える課題として、新人学級生の継続的な受け入れの問題があります。当初 20 名弱の人数からスタートした青年学級も毎年 10 名程度の新たな学級生を受け入れてきましたが、担当者不足などの理由から新人学級生を受け入れられない状況が 2001 年から発生していました。しかし、将来構想検討委員会での話し合いもあり、新人学級生を 2010 年からは募集できるようになりました。

それに伴って学級生の人数も 3 学級全体で 163 名となりました。

また、会場面でも生涯学習センターとひかり療育園だけでは限界があります。現在の 3 学級体制（公民館学級、ひかり学級、土曜学級）で、どこまでの学級生を受け入れることができるか、会場や規模の面からの検討も必要となっています。

2019 年度には若干名の募集に対し、5 名の応募がありましたが、全員を受け入れることができませんでした。

また、担当者体制が厳しい状況であることに変わりありません。現在の担当者募集方法（「広報まちだ」での募集記事、地域の自治会等を通じての担当者募集のビラの配布やポスターの掲示、近隣の大学・専門学校へのポスター掲示及び授業やガイダンス等での担当者募集の説明など）に加え、大学のボランティアサークル等との連携やボランティア講座の活用など、担当者を継続的に安定して確保する方策が模索されてきました。

担当者体制は単純にマンパワーの問題だけではありません。担当者として主体的に学習活動に関わる以上は、単に「一市民としてのボランティア」として参加する以上の資質と取り組みが求められます。そのために担当者会を充実させ、参加を促していくことも必要とされています。これまでの方向性を検証し、人材確保・育成についても検討が必要な段階になっています。

（２）青年を取り巻く環境の変化への対応

学級に参加する青年の状況も大きく変化しつつあります。障がい者施策の影響もあり学級生を取り巻く生活環境や就労状況もここ数年大きな変化ができています。新しく参加している学級生でも一般企業で働く人がいる一方で、高度なケアが必要な人も増えています。

長年学級に参加してきた青年も、グループホームや通勤寮、生活寮を利用し、仕事に就いて得られた給料の使い方の訓練を受けたり、自らの将来について考えたりするなど、自立にむけて活動するようになってきました。

た。特にここ数年、市内にもグループホームが増え、自宅からグループホームへ移る青年も増えています。現時点ではグループホームへ移ったことにより青年学級に通えなくなるということはありませんが、学級生の置かれている状況を把握することがこれまで以上に重要となってきました。

加えて、こうした家族の高齢化や生活環境の変化により、送迎の必要性も高まってきています。これまでも送迎検討委員会で青年学級における送迎の課題について検討し、一時送迎を行ってきていますが、今後、より一層、送迎に対するニーズが高まってくることが予想されます。

そして、これらの青年学級の将来像や、青年を取り巻く状況の変化、送迎等の課題について、生涯学習センター職員や担当者、家族だけでなく、青年学級の主体者である学級生と一緒に考えていき、その中で本来的な青年学級の意味を再確認し、これからの発展について将来的な展望を持っていくことが、今後の大きな課題となっています。

体制面の語句の説明

青年……発足当初より、学校を卒業して社会に出た知的障がい者の社会教育の場は「青年学級」という名称で活動が進められ、社会的にも認知され今日にいたっています、その経過の中で学級生に対して青年という呼び方が定着しています。実際には青年期を越えた学級生が多数をしめるわけですが、その活動の若々しさなどもあって、違和感をあまり覚えることなく使われてきたと言えます。

担当者……青年を支援し、共に活動する人。参加資格は18歳以上の人。学級日の運営だけではなく、担当者会や総括会議への参加、学級ニュースの作成、実践報告集の校正作業なども活動に含まれています。

当日担当者……仕事や授業などの都合により、担当者会への参加が難しいため、学級日のみ参加する担当者のこと。(役割は担当者と同様)

コース・班制……青年学級での自治活動を展開するための、10～20人の基礎集団。やりたいこと(音楽・料理・スポーツ・工作など)を参加者が選び、希望別に分かれた集団のことです。

つどい……コース・班活動に入る前に、学級参加者全員が集まって歌をうたったり、見学者の紹介をしたり、近況報告をする場。朝と帰りに行っています。

成果発表会……年度の終わりに、1年間の活動の成果を発表する場。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で十分にはできなかった。

青年学級を語る会……学級生が年度の初めに学級活動について話し合う場。前年度の反省と新年度の活動について学級ごとに話し合いを行なっています。

とびたつ会……青年学級よりも、より青年が主体的に活動することをめざした本人活動の会で、発展学級としての性格も併せもっています。2004年に発足。

担当者会……青年学級に参加する担当者が集まって、週に1回開かれる会議で、学級ごとに行っています。月2回の活動の準備や反省、活動やその他の場面での

学級生との関わりの中で青年が表現する中から、青年の求めていることは何なのか、その実現に向けてどうしたらよいのか、それをどのように今後につなげていくのかを話し合います。各学級の担当者会で2名程度の「学級主事」が選出され、会の進行をしています。

調整会……担当者から選ばれた学級主事と生涯学習センター職員で構成。青年学級を実施するにあたっての全体的な条件整備や調整を行い、担当者会に提示します。また学級間の情報交換・共有を図る会です。

父母会……青年の家族が、青年たちが現在抱える問題や将来の生活に抱える不安などを改善・解消するために設けている話し合いの場、及びその集団です。

送迎検討委員会……各学級から選出された数名の担当者(送迎委員)で構成される委員会。青年の通級に欠かせない送迎の保障について話し合い、取り組んでいます。

将来構想検討委員会……生涯学習センター長、生涯学習センター職員、各学級から1～3名程度ずつ代表として選出された担当者(将来構想検討委員)、とびたつ会支援者で構成される委員会。青年学級の中長期的な将来像を検討するために組織されていましたが、2012年度以降は開催されていません。

若葉とそよ風のハーモニー……青年学級の活動から生まれた学級ソングや劇を社会に向けて発信していく場として、1988年から町田市民ホールで行っている実行委員会形式のコンサートです。活動の中では、“わかそよ”と略されます。

活動内容の語句の説明

学級ソング……学級独自で作られ歌われる歌のこと。青年のことばや姿、口ずさんだフレーズなどを元に歌としてまとめています。こうした学級ソングはつどいの他、コース活動の中、行事などの場で一緒に歌うことで共有され、学級の一体感と盛り上がりの形成に一役買っています。

す。既製の大衆文化におけるポピュラーな曲ではなく、障がいを持つ青年たちの生活実感や思いを反映したものです。それは、民衆文化としての自分たちの「文化の創造」という青年学級で大事にされてきたテーマを象徴しています。

素材……実際の学習活動におけるテーマや取り組みのもとになるもの。具体的には青年から直接的・間接的に出される要求や生活状況などで、それを共有することで活動を展開しています。

思い起こし・近況報告……活動での話し合いの基本となるもの。青年学級での話し合いは多様な青年が参加しているため、青年の発言をまとめるだけではなく、意思表示を確認してコース・班全体で共有する作業が必要になってきます。青年一人ひとりの思いを共有するために活動の基本的なことを話したり、個人として話しやすい身の回りのことが話題にされたりしています。

作品づくり……学級では一人ひとりが絵を描いたり、ねん土を作ったり、またコース・班全体で作品づくりに取り組んでいます。いわゆる工作的なものだけではなく、作った学級ソングをレコーディングでCDにまとめたり、作文や絵画を蓄積して文集にまとめたりすること、調理活動なども含まれます。

表現活動……青年学級では二つの使い方をする活動で、一つは歌や劇といったコース・班で通常行われている「パフォーマンス活動そのもの」、もう一つは、主に成果発表会やクリスマス会など全体で行う催し物で作文を朗読したり、作った歌を披露したり、外出で調べてきたことを発表したり等、「活動内容そのものの紹介のための二次的な表現活動」との二つに分けられます。

いずれにしても成果発表会という一年の締めくくりが大きな目標になっており、成果発表会に向けて練習を重ねたり、発表のためにこれまでの活動を振り返り表現としてまとめあげたりすることで、単に青年の内部表出だけではなく、コー

ス・班全体の活動を外在化するという意義もあります。

本人活動……障がい当事者が決定権をもったグループ活動のこと。日本における本格的な本人活動の芽は、1991年の育成会全国大会本人分科会にあると言われていました。この時結成された「さくら会」には、町田からも高坂茂さんという青年学級の先輩も参加されました。

それまでは、多くの場面で能力がないとされ、意見表明や自己決定等の機会が剥奪される傾向にあった知的障がいのある人たちが、「自分たちのことは自分たちで考えよう」と自らが社会変革の担い手であることを自覚し、学習や行動をする活動に取り組み始めました。実際の活動は幅広く、福祉の制度や自分たちの権利についての学習活動や、レクリエーションなどを内容としています。

スイッチ・指文字・筆談……数年前より重度の肢体不自由や知的障がいのため、あるいはいわゆる自閉症などのために、言語的コミュニケーションが苦手とされる青年を中心に、スイッチパソコンで気持ちを話す方法が取り入れられてきました。現在では、パソコン自体は使用せず、通訳者が青年の体の一部に触れ、五十音を発音しながら一文字ずつ言葉を選び出していく「スイッチ」や通訳者が青年の一方の手（指）に手を添え、通訳者の掌に文字を書いていく「指文字」、青年が持つペンに手を添えて文字を書く「筆談」などがあり、コミュニケーション方法も多様化しています。また、言語でコミュニケーションをとる青年も思いや意見を語る際、補足的にこれらを使う青年も増えてきています。

また、パニックのような行動を見せた青年に対して気持ちを聞き、そのときの本人の考えや反応などを理解し、周囲の対応や受容につなげる実践がされています（詳細は2008年実践報告集の特集を参照）。

学級名		活動単位		自治活動	内容
日曜学級	公民館学級	コース制	◆みんなのしあわせ づくりコース ◆まあるいゆめコース ◆さくらコース ◆ハッピーハッピー くらしコース ◆さくらんぼスポーツ 体づくりコース ◆ゆめのつづきコース	班長会	各コースの班長・副班長とそれを支援する担当者と構成される学級活動後の会議。年間行事についての調整や班長会ニュースの作成を行っている。
				つどい委員	有志で集まった学級生と担当者数人で構成し、朝夕のつどいについて企画・運営を行う。また合宿・クリスマス会・成果発表会は班長会と合同で運営していた。
	ひかり学級		◆エールハイキングコース ◆スイートゆめいろ 創作コース ◆ゆかいなフラワーコース ◆ライブダンス 2020 コース	班長会	ひかり学級全体について話し合いをする会議。 合宿・クリスマス会・成果発表会などの行事についてと、コースからの連絡を行った。 (半日活動のため実施なし)
土曜学級		班制	◆星空ドルフィン スポーツ班 ◆みんなのイベント班 ◆あじさい班 ◆青空いなずま班	班長会	各班の班長・副班長とそれを支援する担当者と構成され、成果発表会等の行事や、土曜学級全体について話し合う会議。 (半日活動のため実施なし)

第 2 部 公民館学級

第 1 章 コース活動

こうみんかんがっきゅう
公民館学級 コンサート みんなの幸しあわせづくりコース

かつどう なが
活動の流れ

6月7日 がつ か	オンライン学級 がっきゅう
6月21日 がつ にち	近況報告 きんきょうほうこく
7月5日 がつ か	近況報告、自粛期間の過ごし方 きんきょうほうこく じしゅくきかん す かた
7月19日 がつ にち	オンライン学級 がっきゅう
9月6日 がつ か	午前：オンライン学級、午後：社会教育研究全国集会のオンライン分科会 ごぜん がっきゅう ご しゃかいきょういくけんきゅうぜんこくしゅうかい ぶんかかい
9月20日 がつ か	午前：くらしコースと合同でわかそよ実行委員会に向けた話し合い 午後：歌楽 うたがっき 器コース、とびたつ会 かい も加わり実行委員会に向けた話し合い じっこういいんかい む はな あ
10月4日 がつ か	くらしコースと合同でクリスマス会や成果発表会について話し合い ご ご じっこういいんかい かい せい かい けい けい かい はな あ
10月18日 がつ にち	午前：クリスマス会、コロナについて話し合い 午後：学級に來られていない仲間への色紙づくり ご ご がっきゅう こ な か ま し き し
11月1日 がつ たち	午前：学級に來られていない仲間への色紙づくり 午後：うたづくり ご ご がっきゅう こ な か ま し き し
11月15日 がつ にち	午前：わかそよについて話し合い、 午後：わかそよ実行委員会、東京町田サルビアロータリークラブからの寄付金贈呈セレモニー ご ご じっこういいんかい とうきょうまちだ き ぷ きん ぞうてい
12月6日 がつ か	午前：クリスマス会コース発表リハーサル 午後：わかそよ実行委員会 ご ご じっこういいんかい
12月20日 がつ か	午前：話し合い、午後：クリスマス会 ご ご はな あ
1月17日 がつ にち	12時～1時30分：新年のつどい、午後：わかそよ実行委員会 ご ご じっこういいんかい
2月7日 がつ か	午後：ハロハロのつどい、スチレン版画、わかそよについて話し合い はん が はな あ
2月21日 がつ にち	午後：ハロハロのつどい、ハローハロー公民館のダンス撮影 こうみんかん だんす ざつえい
3月7日 がつ か	成果発表会、約2年間の活動の振り返り せい かい けい けい かい やく ねんかん かつどう へ かい へ

1. コンサートづくりコースの特徴

(1) コースができるまで

一昨年度からスタートした「コンサートづくりコース」というコースは、文科省による障がいをもつ方の生涯学習支援の取り組みがきっかけになったものの、「学級活動内で“若そよ（若葉とそよ風のハーモニーコンサート）”に向けた取り組みを行いたい」という思いからも生まれたものでもありました。

従来「若そよ」は、青年主体による実行委員会形式で企画・運営が行われていましたが、①メンバーは実行委員会に出席できるメンバーに限られていたこと、②準備に本格的に取り組める時期が通年の学級活動が終わった3月頭以降のため準備に充てられる時間に限りがあったこと、の大きく2つが課題としてあがり、そのような背景から誕生したのがこのコースでした。

一昨年5月に開催された第19回「若そよ」が終わったあとこのコースもこれに伴い活動を一旦終える選択肢もありましたが、若そよだけでなく、「とっておきの音楽祭」をはじめとした学級外のステージ出演について考えるコースを作ろうということで、コンサートづくりコースは翌年も継続し、「若そよの開催」からまた別の新たな目標に向かって活動をスタートすることとなりました。

(2) メンバーの特徴

新型コロナの影響でコース編成の変更を行えなかった今年度は、メンバーもほとんど変わることはありませんでしたが、新たに学級のメンバーとなった青年が一名このコースにも加わって、男性2名女性9名の計11名となり、コースにはま

た新しい雰囲気が生まれることとなりました。

メンバーそれぞれ「自分だけでは歌ったりできないけど、コンサートでどういことを伝えたいか考えて、思いをたくさんの人に伝えていきたい」というような明確なやりたいことをもってコースに参加していて、話し合いも活発に行われました。

今年度は、20回目となる「わかそよ」についての思いと、コロナ禍で抱えるそれぞれの思いや今後の自分たちの生活について語られることが多かった一年となりました。

2. コース活動の様子

(1) 欠席している青年に向けて

今年度の学級活動は、新型コロナ感染拡大の影響もあり、遅いスタートとなりました。通常のような開級式でのコース分けも今年度はなかったため、メンバーはほとんど変わることなくコースは構成されましたが、感染を危惧し長く欠席する青年もいたため、活動は毎回平均して半数ほどの人数での活動となりました。

欠席している青年の中にはオンラインで参加するメンバーもいましたが、それでも顔を合わせられない人も少なくなく、「コロナのせいで学級にこ来られない人がいるのはとても悲しい」などの意見も話し合いでは多く挙がりました。



今年度の前半は、もともとのこのコース活動の目的としていた「次回の若そよについてベースを作る」ための話し合いを重ねましたが、自らのコロナ禍での生活について報告もする機会も多い中で、「僕たちには人と繋がっているという感覚が常に必要で、学級に来られない仲間にも僕たちがいることを伝えたい」などの意見から、「自分たちがこの場にいないメンバーのことをいつも忘れてはいない」ということを伝えるための活動を模索し始めることとなりました。

活動中には欠席しているメンバーのもとに電話をして話を聞くという時間を設けたりもしましたが、「みんなの思いを手紙などの形にした」というような意見から、メッセージをみんなで記し、送ろうという話が沸き、次第に「色紙作り」という形で意見がまとまっていきました。

10月の活動では、長く欠席している3名のメンバーに向けて、それぞれのイメージに合った色の色紙を用意して、各々が絵やメッセージを書き入れました。ミサマガ作りが得意な青年は自作のミサマガもそれに添えたいと話し、皆の思いが込め

られたプレゼントは完成しました。

(2) 発表に向けた取り組み

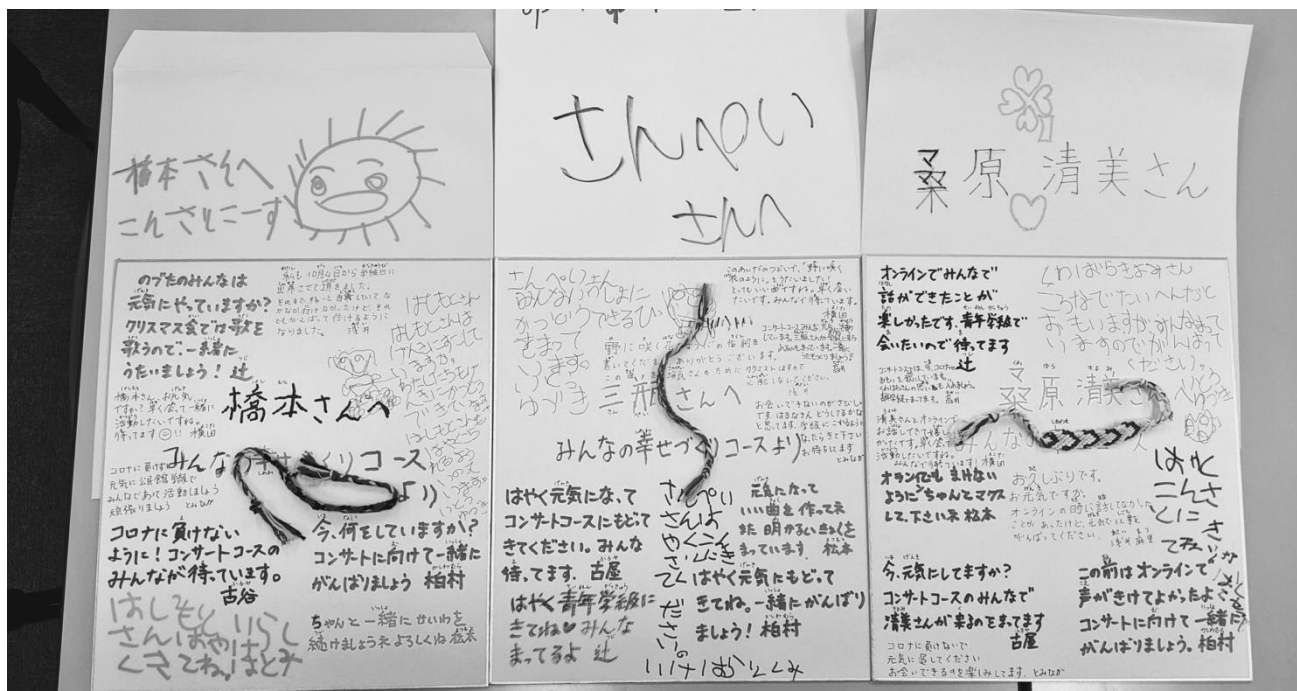
クリスマス会が近づき、コース内ではその発表内容について話し合われるようになっていきました。活動では、コロナと向き合う自分たちについて語られる事が多く、それがそのまま、会での発表の内容となっていました。

長く青年学級で活動している FY さんは、昨年度亡くなった EK さんの置かれていた状況と今の自分たちを重ねて作文にしました。

【作文】EK さんについて (FY さん)

KE さんのことを話したいです。KE さんはずっと一緒にいたのですが、昔は自分で話したり動けたりしたのですが、障がいが重くなって、少しずつできることがなくなっていきました。

KE さんはそうなんても色んなことを考えていたと思います。津波のうたは KE さんが考えて生まれた思いが詰まっています。私たちには思いが沢山あっても、できなくなることが沢山あります。

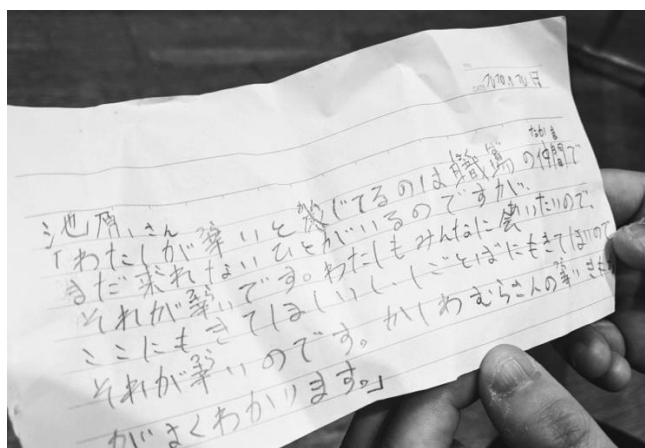


それがこの病気と似ていると思います。コロナと言わないのは、コロナも一つですが、私たちがなにかできなくなるのはコロナのせいだけではないからです。

私たちは、いま外に出られなくなり、人と話せなくなりました。それはきっと今だけのことでありません。KEさんはそういうつらさを抱えて必死に生きていたのだと思います。KEさんの思っていたことを今もう一度振り返って、考えたいです。

コロナによる影響と自分たちのことについての発表内容は、コロナがまだ感染拡大する前に、このコンサートづくりコースで「みんなで顔を合わせて思いを伝え合うことの大切さ」について表現した学級ソング「わたしのいい居場所」と合わさる部分が多く、発表ではこの歌も一緒に歌われることになりました。

発表は事前に撮影した動画による発表になりましたが、それぞれの抱えている思いが伝わるものになったかと思われま



(3) 新曲づくり

いつも話し合いや活動をリードする役割だった青年のKAさんは、当初コロナにより活動に参加することができませんでしたが、学級に参加した

思いを自身のグループホームの職員に伝え、年度途中から参加することができるようになりました。

参加できるようになりすぐに、外に出られなかった日々について作文を書き、皆の前で発表しましたが、その文章を歌にしたいというKAさんの意見が、新曲づくりに繋がっていきました。

KAさんは活動終盤、再度学級を欠席することになりましたが、歌は完成させようというメンバーの思いから、そのまま歌づくりは進み、成果発表会ではその歌を発表することができました。

タイトルはいくつか候補があがり、『今の気持ちを』、『あきらめないで』などが挙がる中、最終的には欠席をしているKAさんに電話で意見を聞き『大切な自由』に決まりました。

練習し、皆が歌えるようになった後には、電話でKAさんにもメンバーの歌声を届けることができ、よりその歌に込められた思いを皆で共有できたのではないかと思います。

【作文】コロナについて (KAさん 原文ママ)

私は今までつらい事がおおくて、泣いたことがありました。外に出られず、家にとじこめていました。みんなとあうのは、いつになったら、合うのかしらね？と考えていました。

コロナのびょうきは、おそろしいびょうきで、人にうつされるびょうきです。テレビでコロナの事がおおくて、たまりませんでした。早くコロナがおわってほしい。そしてヘルパーさんと、出かけられるといいな？と、私は、思いました。みなさんに、あえなくてさびしいきもちでいっぱいになりました。私は、ときどきストレスがたま

っていましたが、コロナがあつたりすると、いやなきもちになります。せいかつが、^{たの}楽しくすごすのは、ふあんでいっぱいになりました。きもちがおちつかない^ひ日もありました。

^{わたし}私は、コロナのびょうきはきらいです。^{はや}早くもとのせいかつにもどれる^ひ日を、しんじて、^{あか}明るく^{げんき}元気にすごしていきたいと、^{わたし おも}私は思いました。そして、いつかグループホームのみなさんでこうりゆう^{かい}会をしたいと^{おも}思います。^に二〇^{にじゅうねんしちがつ}二十年七月から

^{すこ}少しずつ、^{そと}外に^で出られていますが、まだまだおわりではないけれど、^{なが}長びいていました。^{わたし}私は、あまりにも^{なが}長すぎて、とても、つらい思いをしてばかりです。どうして、こんなにつらいんだろう？

^{わたし}私ははじめてコロナがあつたりするのは、まったくしりませんでした。^{いま わたし}今、私はゆめにむかってがんばっていきます。コロナにまけないように、^{ちから}力いっぱいがんばっていきたく^{おも}と思います。そしてゆうきときぼうをもっていきたいとねがっています。

たいせつ ^{じゆう}自由 大切な自由に

C Am F G
わたしのくらはかわってしまった

C Am F G C
だいすきなことだってじゆうにできない

Am Em F G
どうしてこんなにっらいかなしいのかと

Am Em F G
そのきもちもつたえることができなくて

F Em F Am
ゆめやきぼうをもっていきたい

F G G7 C
あきらめないでおもいをうたに

こうみんかんがつきゅう
公民館学級 楽器 まあるいゆめコース

かつどう なが
活動の流れ

6月7日	オンライン学級
6月21日	近況報告
7月5日	午前、コース活動。新入学級生を迎えて自己紹介。昨年度成果発表会ができなかったため、今年度も同じコースを継続することを確認。午後、つどい。
7月19日	オンライン学級
9月6日	午前、オンライン青年学級。 午後、社会教育研究全国集会のオンライン分科会。
9月20日	午前、コース活動。コロナと歌について話し合い。「いのち」という詩の発表。午後、わかそよ実行委員会の準備会。「新しいいのちのうた」を歌う。
10月4日	午前、コース活動。クリスマス会の話し合い。詩の話し合い。「きずな」の詩の発表。午後、コース活動。第19回わかそよのビデオ鑑賞。
10月18日	午前、生涯学習センターまつり用の学級ソングの動画撮影。 午後、クリスマス会の話し合い。歌づくりの話し合い。
11月1日	午前、コース活動。クリスマス会とわかそよについて話し合い。 午後、歌づくりの話し合い。タイトルが「きずなのうた」に決まる。
11月15日	午前、コース活動。歌の練習。クリスマス会、わかそよの話し合い。 午後、わかそよ実行委員会。
12月6日	午前、コース活動。クリスマス会の話し合い。発表動画の撮影。わかそよについて話し合い。劇の案「コロナ大王の物語」の発表がある。
12月20日	午前、コース活動。自己紹介。午後、再会のつどい。クリスマス会。2コースずつ3部屋に分かれる。発表は撮影したものを視聴。亡くなった仲間の追悼。
1月17日	緊急事態宣言により午後からの活動。オンライン参加あり。新年のつどい。
2月7日	緊急事態宣言により午後からの活動。オンライン参加あり。つどい。わかそよの話し合い、スチレン版画の2班に分かれて活動。
2月21日	緊急事態宣言により午後からの活動。オンライン参加あり。つどい。ハローハロー公民館の動画撮影。わかそよ実行委員会、スチレン版画、薬師池公園の3班に分かれて活動。
3月7日	緊急事態宣言により午後からの活動。オンライン参加あり。コース活動。成果発表会で話すメッセージの話し合い。成果発表会。全コース集まる。発表は撮影したものを視聴。

1. まあるいゆめコースのまとめ

今年度の活動は、現在も続いているコロナ禍により昨年度の成果発表会が行えなかったため、各コースで、同じコースを2年間で継続するか話し合いを行い、同じメンバーで継続して活動することに決まりました。

たくさん話し合いを行いました、常にみんなの真ん中にあったのは「学級に参加できない仲間とのきずな」でした。そのことが重要なテーマとなった1年間の活動のまとめです。

2. 歌づくり・きずなのうたの完成

9月20日の活動で、ATさんからみんなでコロナに負けない歌を作りたいということで「いのち」という詩の発表がありました。

「いのちはいつでもみんなとともに糸をよりあうようにつよめていくものだから 僕はだれひとりその糸の仲間からはずれてはいけないとおもう みんなでいつもひとつのいのちになってがんばらなくてははいけない 今僕たちの糸をバラバラにしようという 邪悪なところをもったコロナウイルスが僕たちをおそっているけれど、僕たちはやっぱりひとつにならなくてははいけないとおもう」

学級に来ることができない仲間を思うやさしさが感じられる詩でした。

その詩を聞いて「とてもこころが震えるものでした」という感想もありました。

10月4日の活動では、新たに仲間との「きずな」をテーマにした詩の発表がありました。これは、9月20日の詩をうけて他のメンバーが作ったものです。

「みんなのところに一本の糸がやどっている。はかなくきれよわい糸だけれど、仲間の糸とよりあわせれば少しづつつよい糸になり、すてきなかがやきを放ちはじめだろう。かがやきを放ちはじめた糸たちをもう一度たばねていくと、今度は強いひもになる。ひもを結べばみんなのこころをたばねた美しいかざりものも作れることだろう。ひもを集めてきれいなきずなをつくってみよう。きずなが大きな社会をつなぎ、いつかみんなが敏感なやさしさをつなぎあわせて美しいアフターコロナの新しい世界がうまれることだろう」

コロナの重苦しさをふりはらうような詩にみんな感動して、この詩をひろげて歌を

つくることに決めました。

10月18日の活動では、メロディーを考えたメンバーがいて、みんなでその音と詩を合わせていきました。以下は、その活動の様子の一部です。

「みんなの心^{こころ}に一本^{いっぽん}のすてきな糸^{いと}がやど
ってる はかなく切れるよわい糸^{いと}だけれど
仲間^{なかま}とよりあわせれば」という詩に「ドミフ
ァソラソファミ ラソファラソ ドシラソ
ラソミ ラソミレド レレレレミファソ
ラソファラソ ラソラドシラソ ラソファ
ミファラソ」と筆談でメロディーの階名^{かいめい}を
伝えてきました。

「だんだんつよい糸^{いと}になりかがやく糸^{いと}に
なるだろう」という部分^{ぶぶん}は「糸^{いと}」が続くので
誰^{だれ}かが歌詞^{かし}を考えた方^{かんが}がよいけれど、メロ
ディーはできています」と次々にメロディー
ができあがっていきました。

「ララララシドレ ファミレミレ ファミ
レレミレド ドシラシド」

「すてきなゆめになる」とかにしたいと
ころですが誰^{だれ}か考えつくひとはいませんか？
か？」という意見^{いけん}に対し『すてきな光^{ひかり}をは
なつだろう』にしたら」と提案^{ていあん}があったので
すが、「すてきなひかり『を』だと字^じあまり
になるので『すてきな光^{ひかり}はなつだろう』で

どうですか？」と意見^{いけん}が出され、『ゆめのひ
かりを』ではどうですか」と提案^{ていあん}があり、「ゆ
めのひかりをはなつだろう」に決まりました。

次に「かざりものがほしいとき ひもを
まとめてうつくしく ゆびからゆびへあみ
あわせ こころのかたちにしてみよう
今度はみんなで手をつなぎこころをつない
できずなにしよう」という部分^{ぶぶん}について SK
さんから「こころをつなぎ きずなにしよ
う」にすると言葉^{ことば}がきれいにおさまるとい
う意見^{いけん}が出ました。たくさんの素敵^{すてき}なアイ
ディアが出てくるめんばーに対して、「すご
すぎる」という声^{こえ}や、「みんなのメロディー
で歌^{うた}が作れるということに感動^{かんどう}しています」
という声^{こえ}が出てきました。

こうして、この日の活動^{かつどう}ではメロディー
が完成^{かんせい}して、歌詞^{かし}は3番^{ばん}の途中^{とちゅう}までできた
のです。

11月1日の活動^{かつどう}では、最後の部分^{さいご}の歌詞^{かし}を
考えてきたメンバーがおり、「コロナがきず
なをたとうとしても きずなはぜったい切
れたりしない きずなを大きな合唱^{おおがっしょう}にのせ
せかいのはてまでとどかせよう」という歌
詞^しを発表^{はっぴょう}しました。家でずっと考えていた

という言葉^{ことば}に対して、「これからもうやっ
て歌^{うた}や詩^しを作り^{つく}続けて^{つづ}いてほしいと思^{おも}
っています」と絶賛^{ぜつさん}の声^{こえ}があがりました。

そして最後^{さいご}に、歌^{うた}のタイトルについて話^{はな}
し合い、「きずなのうた」と意見^{いけん}が出^でて、み
んなも賛同^{さんどう}して「きずなのうた」に決まり歌^{うた}
が完成^{かんせい}しました。

みんなの感想^{かんそう}です。「コロナで新曲^{しんきょく}はむず
かしいと思^{おも}ったけど、こんなふうにして
うれしいです。」「みんなで作り^{つく}上げていく
という作業^{さぎょう}はとてもいいですね。」「こころ
の中^{なか}でいろんな歌^{うた}を歌^{うた}ってきたのが伝わっ
てゆめでも見^みているようです。」（作曲^{さつきょく}をし
た SK さん）「とっても感動^{かんどう}しています。」「私^{わたし}
たちの仲間^{なかま}の詩^しと曲^{きょく}で歌^{うた}ができるところま
で青年学級^{せいねんがっきゅう}は来^きましたね。」

こんなふうになんか「きずなのうた」の
完成^{かんせい}を喜^{よろこ}び合^あい、一体感^{いつたいかん}のある活動^{かつどう}づくり
となりました。また、今年^{こんねん}度^どから学級^{がっきゅう}に入^{はい}
った新^{あたら}しいメンバーも、こうして歌^{うた}作りを通^{とお}
して、生活^{せいかつ}のこと、自分^{じぶん}の気持^{きもち}を話^{はな}しなが
ら少しづつなじんしていくことができました。

コロナ禍^かという社会^{しゃかい}のこの状^{じょう}況^{きょう}は現在^{げんざい}

もまだ続^{つづ}いていますが、学級生^{がっきゅうせい}の居場所^{いばしょ}が
あり続けること、そして、社会^{しゃかい}と向き合^{むきあ}って
いくためにも、できることを考^{かんが}えながら活
動^{どう}を続^{つづ}けていくことが大事^{だいじ}だということが
確^{たし}かめられました。そして仲間^{なかま}と歌^{うた}うこと、
仲間^{なかま}を思^{おも}って歌^{うた}を作^{つく}ること、歌^{うた}楽^が器^きコース
として音楽^{おんがく}を通^{とお}して届^{とど}けられるメッセージ
はたくさんあるということが確^{たし}かめられま
した。

3. クリスマス会^{かい}・学級^{がっきゅう}ソングの物語^{ものがたり}

クリスマス会^{かい}についての話^{はな}し合^あいでは、
亡^なくなった仲間^{なかま}の追悼^{ついでう}をしたいという意見^{いけん}
がたくさん出^でましたが、特^{とく}に以前^{いぜん}、出生前^{しゅっしょうまえ}
診断^{しんだん}に関する議論^{ぎろん}の中^{なか}で作^{つく}られた「ひとつ
のいのち」と、その1番^{ばん}の歌詞^{かし}を書^かいた K さ
んとの思^{おも}い出^でを語^{かた}り合^あいました。

あるメンバーから、K さんが「わかそよで
はこの歌^{うた}は歌^{うた}わないでください。この歌^{うた}を
歌^{うた}ってしまうと私^{わたし}はもうこれで学級^{がっきゅう}に來
られなくなるような氣^きがするから」と話^{はな}し
ていたというエピソードが語^{かた}られました。
そして、それからしばらくしてほんとうに K
さんは学級^{がっきゅう}に來^こられなくなり、亡^なくなられ
たのでした。

他にも「僕はKさんとHさんと一緒に生活
コースだった。今うちで写真を飾っている。
亡くなったKさんの写真を」という意見が
出され、Kさんのこと「ひとつのいのち」を
大切に想っていることが伝わってきました。

歌詞の一部の「小さいときから施設暮らし」というのは、Kさんの実体験であること
や「うまれてきてよかった」という歌詞がと
ても素敵だということなどをみんなで話
しました。

そして、クリスマス会のコース発表の
動画は、昨年度、歌楽器コースで作った「新
しいいのちのうた」、学級に来られない仲間
とのきずなについてのメッセージと「きず
なのうた」、「ひとつのいのち」を歌いました。
そして、作品の最後に、Kさんとの思い出が
語られました

学級ソングは、作った人の人生や、一人ひ
とりの思いが歌になっています。みんなで
歌声を合わせて歌うこと、歌のエピソード
を大事にしていくことの重要性が確かめら
れた話し合いでした。

4. コロナ大王の物語

「わかそよ」についてコースで話し合い
をする中で、あるメンバーから、コンサート
の劇の案を考えた「コロナ大王の物語」
の発表がありました。

「コロナの大王がやって来てみんなをズタ
ズタにってしまったあと、みんなが一人ず
つ一本の糸を集めてきてひもにして、心の
形をつくってコロナをやっつけてしまう。」
という、「きずなのうた」とつながりのある
物語でした。

その案を元に、他のメンバーが物語をひ
ろげていきました。

以下は省略したストーリーです。

「ある日、地球に宇宙からコロナ大王が降
ってきました。コロナ大王のあの顔は、一度
見ると忘れられない角だらけの顔ですが、
本当はコロナ大王の中にも人と同じような
心が宿っているのですが、まだ、誰もそれ
は知りません。コロナ大王はあの怖い顔を
して地上に降ってくるときに自分の分身を
いっぱい作ったのです。

コロナ大王が一番嫌いなのは「ウソ」です。

ウソを聞くとコロナ大王は取り乱してしま
います。

実はコロナ大王は、地球を本当のウソの
ないところにしようとやって来て、本当は
誰ひとり犠牲者を出さないやわらかなウイル
スのつもりだったのです。コロナウイル
スに隠れた秘密というのは、実はコロナウ
イルスをたちきるといのは本当は人の心
の中の美しいものが繋がって人々の輪がで
きたときに、コロナウイルスは静まってい
くというものなのです。まず、最初にみんな
それぞれの握り合っていた手を離し始めま
した。そうやって地球の人々はみんな一人
ひとりばらばらになっていきました。そん
なふうにして人の繋ぎ合った手が離れるこ
とによって社会の中の様々なもの壊れてし
まいました。

そこで大事なものはAT君みたいな人が登場
します。もしかしたらここは僕たちの出番
なのではないかと感じたというかたちで現
れます。なぜなら、僕たちはずっと障がい
を持っていたから、なかなか手を繋ぐ場所
がなかったので、手を繋ぐことができない
人の苦しみはよく知っているから、その僕
たちが気づいている本当のことをみんなに
伝えなくてはいけないのではないかという

ことです。

ここで、心の中の本一の糸が登場してき
ます。本当は人々は弱い弱いものなのだけ
れど美しい絹糸のような糸を心の中に秘
めています。その糸はよりあわせていくと、
最後はつよい絆になる。その知恵をしっか
りと社会に届けることこそが世界を救う方
法になります。

ある日、ふと空を見上げると美しい鳥が
飛んできました。その鳥はこう告げたので
す。

「みんなの心の中の糸を今よりあわせると
きが来ましたよ。」と、本当の心の糸を持っ
ている人たちに声をかけていました。

誰かが「この糸で心の形を作ってみよう」
と言い出したので「ハートの形がいいかし
ら」といいました。次に出了提案は、7角形
の形こそが心の本当の形なので、その 7
角形を作ったら4つの心の形が生まれまし
た。その4つの心の形を合わせると、今度は
7角形の葉っぱが4枚集まった四つ葉の
クローバーになりました。その四つ葉のク
ローバーをたくさん作っていくと、今度は

大きなクローバーの葉っぱをつけたきれいな樹木になります。これが地球を救う森になるのです。

そうやって人々の心が森の形でつながっていくときに、コロナ大王はだんだん人々の心の中に見えてきたものがあります。それは、「やっぱり人と人の絆こそが大切である」という考えでした。そして、コロナ大王は突然自分のコロナの仮面を脱ぎ捨てて、本当にぼくが求めていたのは、人と人との絆であったのだと気づく。」という物語でした。

物語の壮大さに、みんな驚いていましたが、コロナ禍を仲間とのきずなで乗り越えることを伝えるために考えられた劇の案でした。

5. 成果発表会

今年度の成果発表会は、ホールに集まって各コースの発表を視聴しました。オンライン参加は、親御さん、他学級の方、来賓の方でも参加できる形で行いました。

コース発表の内容は、緊急事態宣言によりコース活動が思うようにできなかったの
で、クリスマス会の動画に、新たにメッセー

ジを添えて発表を行いました。

メッセージは、筆談で話す人と独力で話す人とで協力して「目に見えないきずなをうたにしました。ぼくたちのきずなが深まりました。」という言葉表現しました。「コロナでむしゃくしゃしてたけど学級にいられてよかったです。ぼくはこのコースのみんなでがんばってきました。」と話したメンバーもいました。

2年間の活動で、より深まった仲間とのきずなを改めて確かめることができました。

オンライン参加の人たちから感想を聞いているときのみんなの表情に、仲間とのつながりを大事にしながらここまで作ってきた活動を、成果発表会を通して届けたいという気持ちがあふれていました。

例年とは違う形になりましたが、来るこ
とができない学級生とどうしたらつながりをつくりながら活動を続けられるかを模索して、続けてきたからこそできた成果発表会になりました。

こうみんかんがっきゅう
公民館学級 ものづくり さくらコース

かつどう なが
活動の流れ

6月7日	オンライン学級
6月21日	近況報告
7月5日	近況報告、自粛期間の過ごし方、今後のコース活動についての話し合い
7月19日	オンライン学級
9月6日	午前：オンライン学級、 午後：お世話になった担当者への感謝のメッセージ作成
9月20日	モザイクアート完成、地下鉄の絵を描く、次回の活動の話し合い
10月4日	クリスマス会について、今後に向けた話し合い、粘土づくり
10月18日	話し合いの続き、芹が谷公園で版画鑑賞
10月1日	版画鑑賞の思い出、クリスマスツリー飾りづくり
11月15日	クリスマスツリーに飾りつけ、キャンドルづくり
12月6日	クリスマス会の動画撮影、一年間の振り返りと目標、プラバンづくり
12月20日	午前：プラバンづくり、午後：クリスマス会
1月17日	午後：新年のつどい
2月7日	午後：ハロハロのつどい
2月21日	午後：ハロハロのつどい、版画作成
3月7日	成果発表会、約2年間の活動の振り返り

1. 集団の特徴

男性7名、女性1名の計8名で昨年度に引き続き同じメンバーで構成されています。介助を必要とする青年はおらず、自分の意思で自ら表現する青年が多く集まっていることも特徴の一つです。ものづくりが好きな青年が集まっており、作業を始めると集中し取り組む姿が印象的です。特に今年度はコロナウイルス感染の恐れがありましたが、ものづくりコースの青年は学級への参加率が高く非常に意欲的である姿が見られました。

2. 活動のねらい

- ・個性を大切に、それぞれの表現の方法を尊重する。
- ・さまざまな創作活動を通してものづくりの楽しさを共有する。
- ・自分の思いを視覚化し、相手に伝えることで自分の思いを大切にしていける

3. 活動の様子

(1) ものづくり

①近況報告・話し合い

今年はコロナ禍ということもあり、お互いの近況を報告しあう時間を十分に確保することができました。クリスマスやお正月の予定、興味あることなどそういった話から、コースでの思い出話などをしました。

②モザイクアート完成

腰を痛めて長らく休んでいた青年が学級に復帰し、最後の仕上げをしてもらい完成しました。完成した作品はクリアファイルにして青年に記念品として贈呈し、わかそよのポスターにも採用し

ました。作品には様々な思いが込められています。また全員で一つの作品を作ることに大きな意味がありました。細かい作業が多く大変なこともありましたが傑作を作ることができました。作品が完成した後の青年の嬉しそうな表情は感慨深いものでした。

③絵

今年は絵を描く作業が多かったように思います。その考えられる要因の一つとして担当者間の準備不足があげられます。ですが青年たちは一度、絵を描き始めると集中し真剣な眼差しで作業をしました。丁寧で上手な絵を描く人もいれば、かわいらしいキャラクターの絵を描く人もいました。絵を描くということだけでもその人らしさが現れ、個性あふれる作品となりました。



④粘土

粘土づくりでは動物をテーマにしました。形を先に作り、その上から絵の具で色を塗り仕上げました。ハムスターやキャラクター、像や運転手など器用に仕上げました。没頭して作品作りをしている青年たちの姿を見ているとものづくりに対する愛と完成した作品への想いを感じることができます。



⑤版画鑑賞

今年度の大作の一つとして「版画」をやりたいとの声があり、そのヒントを得るために荻が谷公園敷地内にある版画美術館を訪れました。西洋と日本の繊細な版画作品には興味津々でした。そこから作品作りへのヒントをもらう機会となりました。みんなで荻が谷公園までのんびり話をしながら歩いたこともかけがえのない貴重な思い出となりました。普段の活動では部屋での作業が多くあるのでみんなで外出をし、且つ外部の芸術的な作品を鑑賞できたことは見て楽しむだけではなくインスピレーションを受けました。作品作りとは自分の気持ちをどのように表現するかが大事であり、その表現方法を学ぶことが出来ました。



⑥クリスマスツリー飾りづくり

当初の予定では大きな立体的なクリスマスツリーを作るつもりでしたが話し合いを進めていくうち

に飾りをたくさん作りたいと意見がまとまりました。楽しそうに笑顔で作る様子はコロナウイルスにより生活や活動に制限がある苦しさを忘れさせてくれるような時間でもありました。大きなクリスマスツリーに飾りが溢れるほどみんなで力を合わせて作成しました。担当者と一緒に作成した折り紙のリースや、サンタクロースは唯一無二のかわいらしい仕上がりとなりました。



⑦キャンドルづくり

クリスマスツリーの飾りを作成している際に一人の担当者がキャンドルづくりをするのはどうか、とひらめいたことをきっかけに美しいキャンドルをみんなで作りました。ろうそくを溶かし、そこに好きな色のクレヨンをまぜ、型に流し込みました。予想していたようにはうまく仕上がらず、きれいな色にはならなかったものの楽しかったという声が沢山あり、1個だけではなく2個、3個と作る青年もいました。このキャンドル作りは機会があればリベンジをしたいです。そしてきれいなキ

ヤンドルを作りたいです。



⑧ プラバン作成

キャンドル作りの際に少し時間が余ってしまい、急遽、担当者の一人がプラバンをやろうと案を出してくれたことをきっかけに始めました。プラバンを知っている人が少なかったために焼き上がりまでうまくいくか不安ではありましたが、うまくいったらいいなという思いで取り組みました。公民館にトースターがなかったのでオーブンを使いましたが、結果はうまく焼くことが出来ず失敗してしまいました。それでも青年たちは残念そうな顔をするのではなく嬉しそうに見つめていました。その姿から、作品作りは成功させることは確かに大事なことでありますが、それよりも気持ち大事だと感じました。

(2) 仲間との活動・青年学級への想い

今回、コロナ禍ということもあり、感染を恐れる声がかなりある中、ものづくりコースの青年は学級への参加率が非常に高かったです。そして、このような状況の中でも学級には行きたいという強い想いを語る青年もいました。ものづくりコースは比較的作品作りが好きな青年が多いですが、今回のような状況下でも参加することができたのは作品を作ることで自分の思いを形にするこの重要性を改めて確認できたからだと思い

ます。一人で作品作りをしているようで実はコースの仲間たちと共に作品を作っています。共に時間を共有すること、みんなでのんびり他愛もない話をする時間が愛おしく、その雰囲気が一ひひとりの作品に影響しているのです。

4. 課題と展望

(1) 課題

どのコースにおいても言えることですが、円滑に活動を進めるうえでは事前準備が非常に重要です。特にものづくりコースでは実際に創作活動を行うため担当者の準備不足が目立ってしまいます。今年はコロナ禍ということもあり思う様に活動が進められなかったからこそ担当者間での事前の話し合いが大事だったと思います。一日の限られた時間内で青年たちの想いが形となるような活動をするために必要なことは意外にも担当者同士の話し合いだったと思います。なぜなら担当者の「じゃあこれをやってみよう」という一言で素敵な作品を仕上げる青年たちの姿を何度も見たからです。また、活動がどうしても絵を描くということに偏ってしまったことも反省点の一つです。絵を描くということ以外にも青年の魅力を引き出す方法は沢山あると思います。時には他コースの担当者や青年の力を借りて心に残る作品を仕上げていきたいです。

(2) 展望

コースの特徴の一つとして新人の若い担当者がかかるようになりました。それにより今までとは少し違った雰囲気の中で活動することが出来ました。それは青年たちが担当者を支えたことです。どうしていいのかわからず困っている担当者を青

年^{ねん}たちは温^{あた}かな目^めで見守^{みまも}り、時^{とき}にはアドバイスを
しながらこの一年間^{いちねんかん}共に走^{はし}り抜^ぬけました。コミュ
ニケーションとは同じ空間^{おな くうかん}を共に過^とごし、また
作業^{さぎょう}は違^{ちが}っても気持^{きも}ちを一つ^{ひと}にすることでなされ
ます。そしてこそ全^{ぜん}員^{いん}が楽^{たの}しく過^すごせるのだと
改^{あらた}めて感^{かん}じました。この一年間^{いちねんかん}を糧^{かて}にさらなるス

テップに飛躍^{ひやく}するために今後^{こんご}はものづくりをただ
の作業^{さぎょう}として考^{かんが}えるのではなく大切^{たいせつ}なコミュニ
ケーションとして捉^{とら}えたいです。ものづくりを通^{とお}
して思^{ひようげん}いが表^{ばし}現^{げん}される場所^{ばしょ}、それこそまさ^りに理^り想^{そう}
のコース活^{かつどう}動^{どう}だと思^{おも}います。



こうみんかんがっきゅう
公民館学級 くらしハッピーハッピーコース

かつどう なが
活動の流れ

6月7日	オンライン開級式
6月21日	再会のつどい（午前・午後に分かれての活動、コース活動はなし）
7月5日	AM コース活動（大切にしている言葉について話し合い） PM 3 コース合同のつどい
7月19日	オンライン学級（感染者増加のため来館は中止）
9月6日	AM コース活動（近況報告等の話し合い） PM オンライン学級
9月20日	AM わかそよに向けた話し合い PM わかそよ実行委員会に参加
10月4日	コンサートづくりコースと合同で実施 AM クリスマス会に向けた話し合い PM コロナのこと、仲間のこと
10月18日	クリスマス会について、休んでいる仲間にできることを話し合う
11月1日	AM クリスマス会のコース発表内容について話し合い PM 仲間へのメッセージづくり
11月15日	AM 最近あった「いいこと」「感動したこと」について話す PM わかそよ実行委員会に参加
12月6日	クリスマス会発表内容の練習、PM わかそよ実行委員会に参加
12月20日	AM クリスマス会のコース発表練習 PM クリスマス会
1月17日	新年のつどい（獅子舞、書初め、わかそよ実行委員会）
2月7日	全体のつどい（ハローハロー公民館の練習、スチレン版画、わかそよの話し合い）
2月21日	全体のつどい （ハローハロー公民館の練習・撮影、スチレン版画、わかそよ実行委員会）
3月7日	活動の振り返り、成果発表会（録画したものを視聴）

1. 集団の構成・特徴

くらしコースは男性6名、女性1名、合計7名という最少人数で構成されています。学級生の学級歴は8～44年と幅広く、学級歴がいちばん浅く、最年少であるメンバーが班長を担っています。

グループホームで生活している1名がコロナの影響で外出が制限されており、オンラインで参加しています。また、身体の不調により施設で療養中のメンバーが長期で活動を休んでいたりと、コロナを懸念して活動への参加を自粛するメンバーがいたり、活動に参加するメンバーは少なくなっています。

所属するメンバーは皆、言葉でのやりとり(意思表示)が可能です。昨年度同様、より深い意見や考えを述べるために半数ほどがコミュニケーション手段(筆談)を用いて意見を伝え、活動が進められています。コミュニケーション手段の扱いに関しては、活動内で学級生から発言があったことでコース全体で検討・共有ができ、スムーズな話し合いが確立されています。

2. 活動のねらい

・仕事やくらし、仲間のことに関する話し合いや作文を書くことで、自分たちの想いを伝えあい、互いの想いを共有し、そこからより良い生活について考える。

・職場やグループホームの見学、調理などの活動を通して、生活の中の楽しさや豊かさを見つめなおす。

・自分たちのメッセージを社会に対して発信することで、自信を持って生活していく力を身につける。

る。

3. 活動の様子

(1) 話し合いの進め方

活動に参加するメンバーは少なくなりましたが、筆談を用いた話し合いのやり方や進行方法は変わらずに活動しました。ももとの構成人数からさらに少ない人数になったことで、学級生同士の意見の交わし合いがさらに増え、より深く濃い話し合いがされた印象があります。言葉と筆談、メンバーによって意思表示や思いの発信に際しての手段はそれぞれでしたが、自身でその時に応じた手段を選択し、発言していました。こうして進められる活動をメンバーは「愛のある活動」「のんびりした時間」と表現していましたが、今年度は「濃い時間」という表現も新たに加わりました。

(詳しくは昨年度の実践報告集をご一読ください)

(2) 仲間を想う活動

コース活動では自粛期間中に感じていたことや考えていたことを話し合い、共有しました。コロナウイルスの影響から学級に足を運ぶことができない人たちのこともよく話にあげました。

「僕たちはつながりが制限されてしまうと本当につらさを感じます。電話でもいいし手紙でもどんなやり方でもいいのでつながっていることを早く伝えたい。」

「僕たちには人とつながっているという感覚が常に必要です。来られていない仲間に「僕たちがいる」ことを伝えたい。」

「つながりを取り戻せるような言葉で手紙をつづ

って贈^{おく}りたい。

—この苦し^{くる}さに立ち向^むかう言^{こと}葉^ばをみんなのために
考^{かんが}え、贈^{おく}りたい。

—以前^{いぜん}入^{にゅう}院^{いん}した際^{さい}に、学^が級^{きゅう}の仲^な間^{かま}に寄^よせ書^がきや
絵^えをもらってうれしかったので、そういうもの
を贈^{おく}ったら心^{こころ}が伝^{つた}わるのでは。

—来^こられていない人^{ひと}は心^{こころ}を失^うしなような生^{せい}活^{かつ}なの
で、手^て紙^{がみ}や寄^よせ書^がき、絵^えを贈^{おく}るのが良^よい。

—メッセー^かジを書^かいてニユー^{にゅう}スに同^{どう}封^{ふう}して送^{おく}るの
はどうでしょうか。

—私^{わたし}たちで^{だけ}でなく、た^くさ^んの^{ひと}人^{ひと}からメッセー
ジを集^{あつ}めたら^{いい}と思^{おも}う。

自^じ分^{ぶん}だ^ったらこ^うしてほ^{しい}い、仲^な間^{かま}はこ^{んな}風^{ふう}に
感^{かん}じてい^るの^{では}ない^か等^{など}の意^い見^{けん}が交^かわさ^れ、他^た
コ^{ひと}ースの^{ひと}人^{ひと}たち^{にも}に^きょう^りょく^あお^よが^が
完^{かん}成^{せい}しま^した。ど^{んな}こ^とを伝^{つた}えたい^か内^{ない}容^{よう}を^{せい}整^{せい}
理^りする^ために^{した}が^きを^したり、よ^り見^みやす^くする
た^めに^かき^なお^しを^したりと、仲^な間^{かま}を大^{たい}切^{せつ}に想^{おも}う^き気^き
持^もち^が形^{かたち}と^なり、無^ぶ事^じ、そ^の想^{おも}い^を届^{とど}ける^こと^が
で^きま^した。こ^うして、し^っか^りと^した^ぎろ^ん・^{けん}検^{けん}
討^{とう}の^もと^さっ^きゅう^{こう}ど^うに^{うつ}移^{うつ}す^こと^がで^きる^のは、
少^{しょう}人^{にん}数^{すう}で^{かつ}ど^う活^{かつ}動^{どう}す^くら^しコ^{とく}ースの^{とく}ち^{ょう}う^{つよ}特^{とく}徴^{てい}で^{あり}強^{つよ}
み^なの^だと^{おも}い^ます。「い^いこ^とが^あり^まし^た。こ^の
間^{あい}だ^のニ^{ュー}スに^みん^なで^か書^かいた^よ寄^がせ^はい^い書^しき^が入^い
っ^てい^たこ^とで^す」「描^かいた^え絵^えが^みん^なに^{とど}届^{とど}いた^こ
と^がう^れし^かつ^た」「み^んな^のこ^とを^{かんが}考^{かんが}え^る時^じ間^{かん}
が^{ぼく}僕^{ぼく}にと^って^はい^い時^じ間^{かん}で^す。み^んな^のこ^とを^{かんが}考^{かんが}
え^てい^る、と^いう^こと^を伝^{つた}え^られ^てよ^かつ^た」等^{など}、
メ^ッセ^ージ^を届^{とど}け^られ^たこ^とへ^の安^{あん}堵^{んど}の^こえ^き声^こを^き聞^きく
こ^とが^でき^まし^た。

(3) クリスマス会^{かい}に向^むけた^{かつ}ど^う活^{かつ}動^{どう}

活^{かつ}動^{どう}が^{せい}げ^ん限^{げん}さ^る中^{なか}、今^{こん}後^ごの^{かつ}ど^う活^{かつ}動^{どう}に^はん^なについて話^{はな}

し合^あいが^{おこな}行^{れい}わ^{ねん}れ、例^が年^{ちゅう}行^しわ^れて^いた^合宿^{しゅく}が^中止^し
に^なると^{ほう}告^{こく}さ^れま^した。

—合^が宿^{しゅく}が^{ざん}で^きない^のは^{ざん}残^{ねん}念^{かん}。肝^{かん}心^{じん}な^{ひと}人^{ひと}と^{かん}肝^{かん}心^{じん}な^よ
時^じ間^{かん}が^す過^すご^せる^そん^なイ^ベン^トを^したい。

(通^{つう}例^{れい}で^ある) クリ^{かい}ス^{かん}マ^{たん}ス^よ会^{かい}は^{かん}簡^{かん}単^{たん}で^も良^よい^の
で^あの^{ふん}雰^い囲^き気^あを^か味^かわ^える^やり^{かた}方^{かた}が^でき^れば^と
思^{おも}う。

—い^いつ^もの^{よう}に^{おお}勢^{ぜい}で^も盛^もり^あが^る会^{かい}は^する^こと^が
で^きない^ので、「^お厳^ごかな^{せい}聖^{せい}なる^よ夜^いを^わ祝^かう^会」
に^したい。

—コ^りロ^{ゆう}ナ^{こう}ウ^{なか}イ^{かん}ル^{たん}ス^ん流^{りゅう}行^{こう}の^{なか}中^{かん}で^{たん}簡^{かん}単^{たん}な^こと^では^な
い^が、頑^かた^くな^{せん}選^{たく}択^{せん}は^しな^くて^も良^よい^ので^はな^い
い^かと^も思^{おも}う。み^んな^が本^{ほん}当^{とう}に^{やり}たい^こと^を
い^っしょ^{かん}に^{かんが}考^{かんが}え^てい^きま^しよ^う。

と^いった^い意^い見^{けん}が^だ出^でさ^れ、学^が級^{きゅう}と^{して}下^か記^きの^{かん}感^{かん}染^{せん}
対^{たい}策^{さく}を^{こう}講^{こう}じ^た上^うで^{おこな}行^{こう}わ^れる^こと^にな^りま^した。

・会^{かい}場^{じょう}を³つに^わ分^{おこな}け^て行^{こう}う

・コ^はース^つ発^{はつ}表^{びょう}は^{ろく}録^{ろく}画^がした^しもの^を視^し聴^{ちやう}する

・プ^{こう}レ^じゼ^じン^しト^し交^じ換^{かん}は^じ実^じ施^ししない

こ^ーす^はは^つび^{ょう}お^{こな}こ^うは^なし^すす^すこ^うす^すコ^うース^す発^{はつ}表^{びょう}は^{ほう}行^{こう}う^は方^か向^{きやう}で^か話^わが^{すす}進^{しん}み[、]「活^{かつ}動^{どう}で^で
出^{こと}た^ば言^い葉^はを^みん^なで^{いう}の^はど^うで^しよ^うか。

さ^くぶ^んみ^じか^{ぶん}し^{ょう}い^いけん^いけん^い文^{ぶん}章^{しやう}で^も良^よい^ので」^のと^の意^い見^{けん}に^み
な^{さん}賛^{さん}同^{どう}し[、]ど^{んな}内^{ない}容^{よう}を^は話^はす^かに^ついて^{けん}検^{けん}討^{とう}しま^した。

—かん^{かん}たん^{たん}に^おま^{おも}か^いな^いに^{とき}家^{いえ}に^{いた}時^{とき}の^こと^を話^はした^い。

—が^がつ^きき^{ゅう}たい^せつ^じょう^きき^{ょう}せい^{ねん}が^がつ^きき^{ゅう}ひ^ら学^が級^{きゅう}の^{たい}大^{たい}切^{せつ}さ[、]こ^の状^じ況^{きやう}で^{せい}青^{せい}年^{ねん}学^が級^{きゅう}が^{ひら}開^{ひら}
れ^てい^るこ^とへ^の感^{かん}謝^{しゃ}を^{つた}伝^{つた}え^{たい}。

—じ^じょう^きき^{ょう}で^もみ^んな^でひ^とつ^にな^って^{かつ}ど^う活^{かつ}動^{どう}を^つく^つて^いく^{よろ}こ^こ喜^きび^を感^{かん}じ^てい^る。そ^のこ^とを^{かん}
感^{かん}じ^たま^まに^{つた}伝^{つた}え^られ^たら。

—くら^よ暗^{あん}い^な世^せの^な中^{ちゅう}に^なつ^たけ^ど、そ^れに^ち立^たち^む向^むか^つて

がっきゅう けつい つた
学級を続ける決意を伝えたい。

など はな かん かんが
等が話され、それぞれ感じたことや考えたことを
まとめました。以下、コース発表で読まれた文章
を紹介しします。(原文ママで記載)

【MM さん】

コロナのせいでこんな風な書いたりする活動がで
きなかったので、とても不安な日々を過ごしてい
ましたが、このことはまた、自分のいのちを守る
ことなのでなんとか辛抱することができました。
こうしてまた、みんなでみんなのことを考えるこ
とができてとてもうれしく感じています。

こんな風に書いたりしたことを発表できること
も、また、幸せなことであると思っています。
こんな状況ですが、ぼくの気持ちのいいことを
伝えたいのが不思議ですが、これもぼくの
ほんとうの気持ちですので、MM の気持ちとして伝えら
れたらと思います。

【ST さん】

コロナはとてもこわくてかなしいことですが、こ
のことから感じたことがたくさんあります。みんな
がみんなのことをとても考えていることがよく
わかりました。その時の気持ちを書いたりして
共有できたこともよかったことのひとつです。

こうしていのちの大切さを伝えられることがこん
なにもうれしいことであるということがわかりま
した。

こうみんかんがっきゅう じょうきょうか かいさい
公民館学級がこの状況下で開催されているのも
感謝しています。

書いたりできることが困難な状況で脱するため
に必要なことだったのでしょう。書いたりするこ
とが気持ちを落ち着かせるために必要なことだっ

たのでしょう。

こんな風にみんなでみんなのことを考えること
がこんなに心強く感じることはありません。いい
言葉をたくさん書いて書いた言葉を発信してい
きたいです。

いい言葉をたくさん言えるとは限りませんが、こ
うして話すことでところが落ち着くのはこんなこ
とができる学級のおかげだと思います。学級を
開催してくれてありがとうございます。

【AK さん】

こんなことがあって活動が行えない時期が長く
ありました。こんな状況だから気づけたことや
学んだこともあります。こんな風にいい言葉が書
けるのもいいことが考えられるのもいい活動が
できるのもいのちあつてのことだと思います。

こんなことがあってぼくらのように社会から殺さ
れたような存在であった人たちの気持ちが少しで
もいいこととして濃い時間のなかで共有された
こと、こんな気持ちでいることがいろんな人にわ
かってもらえたので、少し先が明るくなりました。
こんな風にみんなで考えているということをい
ろんな人に知ってもらえるように活動していきたい
と思っています。

【SK さん】

しんがた かんせん もんだい せの なか か
新型コロナウイルス感染の問題で、世の中は変わ
り、外出もままならない生活の中で、困る人が多
くなり自殺する人も増えてきた。

いちじ そと である おお そと
一時は外を出歩くことにバッシングが起きて、外
に出てはいけないと思う雰囲気もあった。

そんななか GoTo キャンペーンで旅行や外食、

ネットを通じてズーム飲み会とかが増えて、以前ほどは窮屈ではないくらいになってきた。

学級に来られない人もいるが、今は辛抱してがんばって希望を持ち続ければ道は開けると思う。

10年前の東日本大震災では大きな被害で絶望的な状況だったが、被災地でも復興して地域で暮らし続けられることがなんとかできつつある。

僕は車椅子の生活になり外出がままならなくなったが、青年学級に入り自然コースで外出して車椅子を担いでもらったりしながらあちこち行けるようになり世界が広がった。

最後にコロナに打ち勝つ、みんなの団結力がいっそう強まったと思います。ワクチンもできつつあるそうなので、希望を見失わずがんばっていきましょう。

クリスマス会前の活動で動画撮影をし、当日視聴しました。クリスマス会が始まる際、学級ソング『ハッピークリスマス』の歌詞にある言葉を引用してSTさんが話した「“今日という日をみんなで迎えられた”という歌詞が心にこだましています。今日ここに集まれなかったメンバーにも思いを馳せて過ごしましょう」という言葉が印象深く残っています。

4. 課題と展望

世界中がコロナに翻弄された一年となり、青年学級もその影響を大きく受けました。活動の自粛や感染への不安が叫ばれる中、その中でできることを模索し、情勢が好転・暗転と変化するたび

に「仲間と繋がり続けるために、いま、できることは何か」「どうしたら命・暮らしを守れるか」を問い続けた一年となりました。

・話して伝えたり、筆談をつかって書いて伝えたり、それぞれのやり方で意見を発することができた。それをみんなが認め、コース活動に反映し、行動に移すことができた。

・人数も少なくのんびりとした活動だったが、くらしにしっかりと向き合った活動をすることができた。コロナのことや震災(地震や災害)のことなど社会情勢についても話し合うことができた。

・感動的な活動をつくるのではなく、ここに集まったみんなが感じたことを話し、それを共有できた。仲間がいることの心強さを感じられた一年だった。

コロナの影響で学級の開催や活動時間などが制限されコース活動は例年より少ない時間となりましたが、上記にあるように、一年間を振り返る中で話されたことは前向きな言葉たちでした。

青年学級は「みんなでみんなのことを考えることができる場所」、言い換えると「自分たちのことを自分たちで考えられる場所」として位置づいていること、忘れてはならない根底にある部分を再認識することができました。これからも自分たちのことを考える中で社会とのつながりや家族・仲間・いのちのこと等、くらしに直結する様々な話がされていくことでしょう。そしてそれらをより良い形で、少しでも多く、体現していくことができたと思っています。

～青年学級のなかまへ～

せいかつがこういふたしなす
ふしうあつたしなす。せいかつがこういふ
なすしなす。



こんなしょうきょうですか
みんながいていいなことに
しょうでんしてはす。
さんなですかまななや
きぎがたかくもす。

みんなではやくきょうしなれて
みんなのことをみんなとまじりあ
みんなでもまだわからないこと
またあうみでかくまわれてる。



みなさんへ
おねんがっさうでけんきに
かつとつしています。
まっています。

川は"さくさく"



みんなね
がんばらうかい
またあいまう
きくたい

たしめんたい
たしめんたい
たしめんたい

コロンで「食いつくあふをいれていふ」となすに
 けしはていするけをコロンがふふ。ちがひ
 やアスでいつまで「か」か「は」てはくいで
 ぬきなで「みよていすないて」さうがまけ
 ばいばくいで「あ」



この10月1日～10月31日
700円以上のお買い物を
おこなうと、元金に
合います。

2307年8月1日
二つ又八分は
三(五・一)

おれんしです!!

お礼状、青年学級
の方にきてください。

青年学級に、ぜひ来て下さい。
みんなで待ってます。
コナガ、おちつくといいいですね。

せいねんがくせい
～ 青年学級のなかまへ ～

Vol. 2



コロナにまけずーに
がんばらなくていい
さしー



のんびいして
くまのこ
をわす
てない
から

おはようへ
せいなんが、きょうでたのしいまつどつ
しましう。げんきをあそびたい。
あまうしています。

かみはアミ
んかのな
ばあさん
ううう
で

わん(は)わん
い(は)い
お(は)お
き(は)き
き(は)き
き(は)き

みんなで、たのしく、うたを
けりましょね、ほんとに、まて
ります。かなうを、まよーけんだ
といふ、まています。

学級日に、きこ下さい
あっています。元々な
お顔を覚えて下さい。
コロナが落ちてくるといい
ですね。できたら、オー
ンで、さんかまで、きこ
いれたいと思っています。色
な仲間やスタッフ、ガル
まちをしていきます。仲間
を助けてください。いっしょ。



21/15 7.1 8. 2017
 21/15 7.1 8. 2017
 21/15 7.1 8. 2017



皆々此の事を云はれり
早くこの事を知りて
再会するを望みしは



こうみんかんがつきゅう けんこう さくらんぼスポーツ体づくりコース
公民館学級 健康

かつどう なが
活動の流れ

6月7日	オンライン学級2名参加
6月21日	再会のつどい（午前・午後に分かれての活動、コース活動はなし）
7月5日	新入学級生と新職員に自己紹介、今年度の活動の話し合い、七夕短冊に願い事を書く、ラジオ体操を行う、行いたいスポーツを話す
7月19日	<オンライン青年学級>（コース活動なし）
9月6日	AM オンライン学級 PM夏休み期間の様子や自分のコロナ予防について発表、外出 ボッチャ投げのみ練習、つどい班長会再開
9月20日	20年度活動の確認、係決め、近況報告、若そよで伝えたい事など話し合い
10月4日	1日学級活動開始 AM ハロウィンのリースづくりを計画、クリスマス会の件を話し合い PM 芹が谷公園でスポーツを行う
10月18日	AM リースづくり、PM散歩、製作
11月1日	AM話し合い（クリスマス会の発表内容と発表方法、この冬のインフルエンザ予防接種について話し合い）学級参加できてない人へ手紙づくり、散歩 PM わかそよ実行委員会
11月15日	話し合い（クリスマス会の内容）散歩
12月6日	話し合い（クリスマス会発表の台本作り）製作クリスマスリース、ビデオ撮り 散歩、わかそよ実行委員会参加2名
12月20日	AM見学者へ自己紹介、次回の活動の話し合い
1月17日	<新年の会はコロナ感染自粛のためコースの出席者なし>
2月7日	PM ハローハローのつどい 1名参加
2月21日	PM外出
3月7日	発表の練習、成果発表会参加

1. 集団の特徴

「身体を動かしたい」「どこかへ出かけたい」「健康に過ごしたい」「スポーツをしたい」という目的を持った、20代男性4名、30～40代女性2名、男性2名、新入学級生1名、担当者4名のコース編成で活動しました。うち1名がグループホームでの生活ですが、ほとんどの学級生は家庭で生活しています。

今年度は、新たなコース編成をせず、昨年度と同じメンバーでの活動のため、活動当初から仲間意識は高まっていて、仲間関係はスムーズでした。

2. 活動のねらい

「スポーツをしたい」「散歩をして健康になりたい」「健康に過ごすにはどうしたらよいかという事を考えていきたい」という前年度のねらいで引き続き活動することをコース全員で確認しました。学習活動では、自分を表現するのが苦手な学級生が多いので、活動時に、それぞれの得意なところを引き出せるよう支援し、自身の達成感から自信につながるよう、またそれを仲間同士が認め合えるような学級づくりを目指しました。そして学級生一人ひとりの表現の仕方を尊重し、支援していく事を昨年度同様のねらいとしました。

3. 活動の様子と評価

(1) 話し合い

①コース活動運営の話し合い

当初2名の新入学級生を迎え、全員で自己紹介をしました。午後の活動で「今年度は19年度の活動を継続して行いましょう」という事を全員で再度確認しました。

健康コースとしての行いたい活動では、「作文

を書いて、新曲づくりをしたい」「健康コースだから伝えることができる、コロナ予防について話し合いたい」と積極的な発言がありました次回は「係決めをしたい」「ボッチャをしたい」「出来たら外出をしたい」「新曲について考えたい」と具体的な話も出ました。今年度、行いたいスポーツを話し合ったところ卓球、野球、キックベース、バレーボール、サッカーをしたいと発言があり、コース全員が今後のコース活動を楽しみにしていました。しかし、この後に新型コロナウイルス感染症が拡大しオンライン学級を余儀なくされ、スポーツを取り組めないまま夏休みとなってしまうました。夏休み明けは、半日のみの活動で、メンバーも半数の参加にとどまりました。

参加したメンバーは応援者に自己紹介をしどんなコロナ予防をしているのかなど、家庭での様子を話しあいました。9月の2回目の学級日にやっと1日の活動が始まり、コース学級生同士の久しぶりの顔合わせができました。20年度のコース活動で最初に必要な「係決めをしよう」と経験の長い学級生からの声があがり、コース活動が動き始めました。職場では、「手洗いうがい、熱を計ることをしている」「マスクをして通所している」「コロナ対策で使う段ボールの仕切りの組み立ての仕事が増えた」「睡眠、食事に気を付けている」とコロナ禍の生活を語り合いました。

②若そよ実施の話し合い

話し合いでは、今年亡くなった仲間への思い「僕らの輝き」と命の大切さを伝えたい。「僕らの輝き」とは、学級ソングを歌うことで僕たちの輝きが多くの人に伝わる」という意見が出ました。他には「折り紙をして「自分の輝き」をアピールする」

「写真を見て、僕らの活動してきた時間が輝く」
と感じている。と発言する学級生もいました。

20回目の若そよ実施についての話し合いは外出時の休憩時間でも話題になりました。若そよ参加状況や、若そよのテーマ案について話し合い、実行委員会に代表で参加する学級生に意見を託していました。

③ハロウィーンリース作りの話し合い

学級歴の長いリーダー的な学級生から提案された担当者と一緒にハロウィーンとは何かを調べ、コロナ感染除けということでリースを作ることが決まりました。

そこで全員で一つのものを作るか、一人ずつ作るのか、大きさのイメージや、飾りの購入などが話されました。そして既成のリースがどんなものかを代表の2名の学級生が100円ショップに調べに行くことになりました。また、家庭に向けて出欠連絡時に、素材の牛乳パック持参の協力をお願いし、日頃散歩している公園で自然物を拾い、飾りにすることを担当者が提案したところ参加者の同意があり、葉っぱや、どんぐり拾いの外出活動につながりました。

④クリスマス会について

クリスマス会は今年も行いたいし、コース発表もしたいという意見がほとんどでした。プレゼント交換は難しい。「歌をうたってケーキを食べたい」との意見がありましたが、歌を歌うことは飛沫感染予防のため歌えないので歌の録音を流すので心で歌うことを担当者から伝えました。クリスマス会の発表内容と発表方法は、学級生からの意見が出なかったため、19年度成果発表していないがクリスマス会で発表するのはどうです

か？と担当者から提案しました。「発表しなくちゃね、折角みんなで台本を作ったのだから」と経験の長い学級生の言葉に、他のメンバーも同意しました。「台本をみんなで作りなおして、発表しよう！」と発言した学級生のリードで19年度活動の成果発表会の台本と写真を見ながら思い返し、参加者で読み合わせをしました。台本の中でカットするところや新たに付け加える言葉を話し合いました。また、コロナ予防のスローガンも作りしました。「写真もあるしね、作ったリースも発表したい」と今年度の活動の発表も行い発言も出たので、発表の仕方についても話し合われました。19年度の写真をスクリーンに映し、クリスマスリースは、「ライブでクリスマスリース作製の思いを発表したい」ということでした。クリスマスといえば 柊の葉なので、参加者で 柊の葉を飾る意味を調べました。みんなで確認した後に、発表の台本に入れる事になりました。いつもの年と違うコロナ禍バージョンのクリスマス会でしたが、1年間感染せず、それぞれが顔を合わせることができたことは幸いです。

⑤評価

夏休み後からの活動開始となりましたが、前年度からの継続メンバーでしたので、コースの仲間の気持ちも通じ合っていて、経験の長い学級生にリードされながら、行事などの活動に向けスムーズに話し合いを行うことができました。1名の学級生は、コミュニケーション支援をうけながら、気持ちよく発言する姿が見られました。

(2) 製作

①七夕の短冊

7月に入り、20年度初めてのコース活動が始まりました。話し合いの合間に「七夕も近いので、七夕の短冊に、願い事を書きましょう」と、経験の長い学級生からの発言があり、色紙に、マジックや鉛筆で、文字や絵を書きました。

願いはやはりコロナの早い終息が目立ち、他にはこれから行いたいスポーツを楽しみたい外出をしたいと、それぞれの気持ちを短冊に込めていました。

②ハロウィーンのリース

夏休み明け後、3回目の活動で、通常の1日のコース活動が始まりました。

いろんなことに関心のある、経験の長い学級生から、ハロウィーンのリースを作ろうと提案がありました。担当者と一緒にハロウィーンとは何かを調べたところ、日本のお盆のように、亡くなった方を偲ぶという事、災害や疫病など災いを追い払う、収穫を祝うなどを込めたヨーロッパを中心に行われた行事という事を参加者で確認しました。100円ショップに学級生2名が行き、リースの大きさや飾りを調べに行きました。結局、リースの素材を、家庭にある牛乳パックにし、家庭からも協力をしていただきました。折り紙作りなど手先の作業の得意な学級生が、牛乳パックをリースの形に人数分切りました。それを各自が、2枚張り付け、絵の具で塗りました。

牛乳パックは水分が多いとはじいてしまい色がつかないこと、絵の具を多くしてみるとしっかりと色がつくことを経験できました。その後、飾りをどうしようかという事になりました。学級生からは、「100円ショップで購入する」との意見が出ていましたが、いつも出掛けている公園で、自然物を



使った飾りにしたらどうかと担当者が提案したところ、早速ドングリや落ち葉を探し、拾ってくることになりました。しかし生の葉は枯れてしまうので、葉っぱの葉脈の版画スタンプの製作を担当者から提案して、集めた葉っぱを切り取って版画の葉っぱが出来上がりました。版画の葉っぱを、事前に作ったリースにドングリや各自の顔をかいたカボチャの形それぞれを貼り付け、素敵な手作りリースが出来上がりました。学級生の思いのこもったコロナ感染予防リースは、公民館のロビーに飾り、おとずれる方々のコロナ除けを担っていました。

このリースは、クリスマス会でも、折り紙が得意な学級生が、緑の折り紙で折った柊の葉っぱや、赤い絵の具に漬けたドングリ、葉脈の葉っぱの版画を貼って各自飾り付け、クリスマスリースとし、再び公民館のロビーを飾りました。

クリスマス会にて、リースの紹介では、各自のリースを差し出し、それぞれ発表していました。

③学級に参加できない学級生への手紙

夏休み以後、コース活動にずっと参加できないでいる2名の学級生にエールの手紙を送ろうと、一言メッセージを書くことを担当者から提案しました。学級生から、写真付きの手紙にしたいということで、前期には参加していましたが、夏からは欠席の2名と前期に散歩したときの集合写真

を^は貼り、一言^{ひとこと}メッセージを書^かいて周^{まわ}りに貼^はろうと
なりました。文字^{もじ}を書^かくことが得意^{とくい}な学級生^{がっきゅうせい}は
丁寧^{ていねい}に一言^{ひとこと}メッセージを書^かきました。折^{おり}り紙^{がみ}や
前^{ぜん}回^{かい}の版^{はん}画^がの葉^はっぱ、ドングリ^おを折^おってカ^かードを
作^{さく}製^{せい}しました。

(3) 外^{がい}出^{しゅつ}

①近^{きん}隣^{りん}のウオーキング

ことばらんど(町^{まち}田^だ市^し民^{みん}文^{ぶん}学^{がく}館^{かん})の絵^え本^{ほん}の世^せ界^{かい}と
いうイベ^いン^んトに参^{さん}加^かしました。絵^え本^{ほん}作^{さく}製^{せい}の、絵^え
具^ぐや、パレ^ぱレ^れッ^と、筆^{ふで}が展^{てん}示^じさ^され^てい^いるのを見^{けん}学^{がく}。
原^{げん}稿^{こう}用^{よう}紙^しのオ^おブ^ぶジ^じュ^うを見^{けん}学^{がく}。絵^え本^{ほん}のキ^きャ^ゃラ^らク^くター
と記^き念^{ねん}写^{しゃ}真^{しん}を撮^とるなど近^{きん}隣^{りん}で楽^{たの}しめ^めるこ^ことにも
参^{さん}加^かで^でき^きま^まし^した。

②芹^{きん}ヶ^が谷^や公^{こう}園^{えん}でス^すポ^ぽー^うツ

近^{ちか}くの芹^{きん}ヶ^が谷^や公^{こう}園^{えん}でバ^ばト^とミ^みン^んト^んが得^{とく}意^いな
学^が級^{きゅう}生^{せい}は、久^{ひさ}し^しぶ^ぶり^りな笑^え顔^がで楽^{たの}し^しん^んで^でい^いま^まし^した。
他^たの学^が級^{きゅう}生^{せい}は、縄^{なわ}跳^とびを^をし^して^てい^いるのを見^みて「私^{わたし}も
や^やり^りた^たい」と刺^し激^{げき}を^うけ^けて^てい^いま^まし^した。そ^その^ご後^の、リ
ー^かス^さの^かざ^ざに^にす^する^るた^ため^め、ド^{ひろ}ン^のグ^のリ^の拾^{ひろ}い^いや葉^はっぱを
拾^{ひろ}い^いな^なが^がら1時^じ間^{かん}ほ^ほどウ^{たの}ォ^のキ^のン^のグ^のを^を楽^{たの}し^しみ^みま^まし^した。

公^{こう}園^{えん}で^では、木^き々^{ぎぎ}に^に目^めを^むけ^けて^て歩^{ある}き^きな^なが^がら笑^え顔^がを
見^みせ^せる学^が級^{きゅう}生^{せい}や、
急^{きゅう}な^な階^{かい}段^{だん}を^あし^{しば}ば^ばや
に^{ある}歩^がく^{きゅう}学^{せい}級^{せい}生^{せい}も
い^{いた}し^した。担^{たん}当^{とう}者^{しや}
と^{たの}お^のし^しや^やべ^べり^りを^あ楽^る
し^しみ^みな^なが^がら^あ歩^あく
学^が級^{きゅう}生^{せい}、ゆ^ゆっ^くり^り
と^{しん}慎^{しん}重^{じゆう}に^{かい}階^{かい}段^{だん}を
歩^{ある}く^おも^もい^い思^おい^い思^おい
の^{さん}散^{さん}策^{さく}を^{たの}楽^るし^しみ^みま



した。野^や菜^{さい}畑^{はち}近^あく^くを^い歩^{ある}くと、以^い前^{ぜん}、食^{しょく}品^{ひん}の栄^{えい}養^{よう}価^か
を^{しら}調^{かつ}べ^{どう}る^お活^な動^{どう}を^や行^さった^きこ^{こう}と^なら^な、野^や菜^{さい}にも^き興^き味^みが
向^むか^かい^い、里^{さと}芋^{いも}の^は葉^はや^はブ^ぶロ^ろッ^こリ^りー、大^{だい}根^{こん}、長^{なが}ネ^ねギ
な^など^どを^な眺^{なが}め^めま^まし^した。

高^{こう}ヶ^が坂^{さか}団^{だん}地^ちのイ^いチ^ちョ^ョウ^うの黄^き色^{いろ}い^は葉^はを^な眺^{なが}め^めたり、
坂^{さか}を^の上^ぼり^つ詰^あめ^{たら}て^{こう}新^{えん}しい^い公^い園^{つかく}の^{ぐん}一^な角^{かく}の^{こう}ク^ろー^ろバ^ーー
の^{ぐん}群^{せい}生^なの^な中^{ちゅう}か^ら幸^{こう}運^{うん}の^よ四^しつ^つ葉^はの^ばク^ろー^ろバ^ーーが^がな^ない
か^かと^{がん}頑^{ばん}張^がつ^て探^{さが}し^しま^まし^した。

活^{かつ}動^{どう}後^ごの感^{かん}想^{そう}で^なは、長^{なが}い^さか^かみ^みち^ちの^{がん}坂^{さか}道^{みち}を^あ頑^{がん}張^ばつ^てよ^よく^あ歩^{ある}
き^きま^まし^した」「お^おば^ああ^あさ^さん^んが^が、ホ^{ほう}ウ^うレ^{れん}草^{そう}や^や野^や菜^{さい}を^と採^と
つ^つて^てい^いた」「長^{なが}い^だい^いす^すべ^べり^り台^{だい}が^お面^{めん}白^{しろ}そう^{そう}だ^だつ^つた^た滑^{すべ}り^りた^た
か^かつ^つた」とい^いつ^つた^た声^{こゑ}が^あが^がり^りま^まし^した。休^ちま^まず^ず着^ち着^く実^{じつ}
に^あ歩^{ある}き^き、み^あな^あさ^あん^ん、い^いい^い汗^{あせ}を^しか^かき^き、自^し然^{ぜん}の^な中^{ちゅう}を^あ歩^{ある}き
と^と通^とし^し、^から^らだ^だを^{じゅう}じ^うん^んに^うこ^こに^が動^{うご}か^かす^すこ^こと^とが^がで^でき^きま^まし^した。

③お^お花^{はな}見^み

2月^{がつ}に^{はい}入^{せい}り^{かい}、成^{せい}果^{くわ}発^{はつ}表^{ひょう}会^{かい}も^ま間^ま近^{ぢか}にな^なつ^つて^てき^きま^まし^し
た。コ^{かん}ロ^ろナ^せ感^{かん}染^{せん}を^お恐^{おそ}れ^れ、外^{がい}出^{しゅつ}で^がき^きな^ない^い学^が級^{きゅう}生^{せい}に^に、
学^が級^{きゅう}ニ^{でん}ュ^んー^すス^らく^くや^や、電^{でん}話^わ連^{れん}絡^{らく}な^など^とを^{つう}通^とじ^てて^{れん}絡^{らく}を^と取^と
り^あ合^あい^りな^りが^りら^り、無^む理^りの^かな^ない^か形^{かたち}で^{がい}外^{がい}出^{しゅつ}を^{けい}計^{けい}画^{かく}し^しま^ま
し^した。

外^{そと}の^{かつ}活^{どう}動^{どう}である^ごこ^こと^と、午^ご後^ごのみ^みである^{こと}か^から^ら、6名^{めい}と^{やく}薬^{やく}師^し池^{いけ}ハ^{かつ}イ^{どう}キ^おン^こグ^なの^な活^{かつ}動^{どう}を^お行^{こう}う^なこ^こと^とが
で^かき^かて^てい^い各^{かく}家^か庭^{てい}か^から^らや^や、公^{こう}民^{みん}館^{かん}か^から^らの^{しゅ}出^{しゅつ}発^{はつ}で^で
12時^じ15分^{ふん}に^いま^いい^やと^と、今^{てい}井^い谷^{ごう}戸^{りゅう}バ^{えん}ス^ん停^{てい}で^{えん}合^あ流^{りゅう}。ダ^だリ^りア^あ園^{えん}…
鎌^{かま}倉^{くら}古^こ道^{どう}…山^{やま}道^{みち}…風^{かざ}見^み鶏^{とり}…七^な国^{こく}山^{さん}フ^ふァ^あー^あマ^まー^まズ^ずセ
ン^{せん}タ^た…薬^{やく}師^し堂^{どう}…梅^{うめ}の^{はな}花^か鑑^{かん}賞^{しょう}…バ^{てい}ス^い停^{てい}…と^とめ^めぐ^ぐつ



て公民館に15時30分に着き、いつも通りの帰りのつどいに参加しました。ある学級生は自分の職場近くを歩くときは、施設の説明を嬉しそうにしていました。梅の花も少し開いて、学級生のよく知っている道やそれまで知らなかった道を2時間半ほど、春の自然の中を歩きました。この外出が機になり3月初めの成果発表会に6名参加することができ、20年度活動の締めくくりを行うことができました。

④評価

1日の活動が開始され、話し合いが多くなってきた頃、1時間から2時間ほどのウォーキングを行って気分転換をすると、その後の話し合いも短時間で集中して行えました。

自然の中で、体力づくりにつながるウォーキングは、前年度のコース活動の継続ということで学級生も慣れていて、リタイヤすることなく、歩くことができました。仲間意識も取れていて、遅れてくる仲間を待っている学級生の姿もありました。途切れたこともありましたが、一年間、話し合いや、製作物の素材を探したり拾ったり、目的を持った散歩も楽しめました。短時間の近隣のウォーキングを重ねてきたことで、遠出の散歩もリタイヤすることなく歩くことができました。

(4) 成果発表会

コロナ禍において、緊急事態宣言発出のため、学級活動に参加できないメンバーが出ていましたが、担当者からはニュースやその後の電話連絡で家庭での様子や、仕事場の様子など聞き取りつつ、公民館職員と連携をとりながら、ゆっくり参加できるのを待つ事にしていました。

成果発表直前の回の外出計画を機に、電話

連絡で家庭の様子を聞き取り、家庭や学級生に沿った無理のない活動にすることで、家から外に出るきっかけになりました。

また、家庭の方の入院などから長期欠席をしていた学級生が、外出からやっと参加できたことで、直後の成果発表会で終わりの言葉を言うことで発表に参加することができました。このことは、今期の学級活動の大きな区切りとなりました。

4. 課題と展望

リモート学級については、2名の参加者があり、1名の方は、にこにこうれしそうな表情はあったものの、日頃は個別でのかかわりの中で表情や、意思表示をくんで、やり取りを行っていたのでリモート画面で気持ちをわかっていくことができませんでした。また、1名の方は早々に退室してしまいました。2名とも冒頭の歌や体操などの部分で楽しんで参加していました。

今年度の活動としては、家庭の協力をいただきながら近隣の広場や公園でウォーキングや、スポーツを行うことなども考えましたが、高齢の家族への感染不安は想像以上なところもあり、情勢を見極めながらの活動となりました。次年度も状況を見ながらの活動になるかと思いますが、オリンピック・パラリンピックの刺激を受け、スポーツや外出など活発な活動につなげて行きたいと思います。



こうみんかんがっきゅう げき
公民館学級 劇・ミュージカル ゆめのつづきコース

かつどう なが
活動の流れ

がつ か 6月7日	オンライン学級（昨年度のコース活動の振り返り、新曲紹介）
がつ にち 6月21日	再会のつどい（午前・午後に分かれての活動、コース活動は無し）
がつ か 7月5日	今後の活動・自粛中に感じたことについて話し合い、歌、成果発表会の話し合い
がつ にち 7月19日	オンライン学級（感染者増加のため来館は中止）
がつ か 9月6日	AM オンライン学級。夏休み・今後の活動の話し合い、劇と歌の振り返り
がつ か 9月20日	くらし・グループホームの生活の話し合い、劇の練習・一部撮影と振り返り
がつ か 10月4日	くらし・グループホームの生活の話し合い、第7回わかそよ劇鑑賞・感想の共有
がつ にち 10月18日	劇「やまゆりベーカリー」の練習、小道具や衣装を使い撮影・確認
がつ たち 10月1日	劇の練習・撮影、劇の展開・新エピソードについて話し合い
がつ にち 11月15日	劇で伝えたいことの話し合い、歌、劇の練習・撮影、成果発表会の話し合い
がつ か 12月6日	劇の練習・撮影完成、クリスマス会の話し合い。PM わかそよ実行委員会
がつ か 12月20日	AM これまでの振り返り、生きることについて話し合い。PM クリスマス会
がつ にち 1月17日	新年のつどい（獅子舞、書初め、わかそよ実行委員会）
がつ か 2月7日	全体のつどい（ハローハロー公民館練習、スチレン版画、わかそよの話し合い）
がつ にち 2月21日	全体のつどい（ハローハロー公民館撮影、スチレン版画、わかそよ実行委員会）
がつ か 3月7日	2年間の振り返り、メッセージの話し合い、成果発表会

1. 集団の特徴

昨年度のメンバーに加え、男性の新入生を迎えて男性8名、女性5名計13名で活動しました。学級歴の長い青年、20代の若手の青年が半数ずついます。コロナの影響で来るのが難しいメンバーもいましたが、電話やオンラインで話すことができました。

昨年度の劇「やまゆりベーカリー」に継続して取り組み、話し合いと練習を重ね録画をして作品にしました。劇の練習で身体全体を動かすほか、話し合いでは劇の細かい部分や生活・仕事のこと、コロナのことなど様々な話題があがりました。

2. 活動のねらい

- ・一年を通しオリジナルの劇を作り上げる。
- ・話し合いを通し、お互いの意見を交わすことで思いを共有する。
- ・歌やダンスなどの様々な表現方法で他者に思いを伝える。
- ・仲間と共に身体を動かし、歌を歌うことで共感する楽しさを感じる。
- ・歌やダンスを共にすることで、語り合うベースを作り上げる。

3. 活動の評価

(1) 話し合いについて

① 自粛と自由

長い自粛が明けてもコロナは身近な問題であり、コースでも向き合おうと話し合いをしてきました。最後の活動から5か月後の7月、コース活動が再開した時には、自粛中の思いを語りました。

「新しい生活様式が当たり前の世の中では生き

ていけません。自分達の暮らし方は自分達でつくり伝えていきたいです。」

「世の中の動きから切り離されてしまい忘れ去られていくような怖さを感じていました。自分の思いを伝えて精一杯生きていきたいし、死ぬ時も悔いの無いようにしたいと考えています。強さを持ち生きていきたいです。」

コロナ禍で置かれている状況は、手段が限られていたり、意見が聞かれにくかったり、誰かと伝え合うことが少ない自分達の状況と似ているとの意見がありました。コースの仲間と共通していたのは、仲間と話し合うことの大切さや、生きることの意味、人と繋がることの幸せを劇を通して伝えようと言うことでした。2019年度の劇「やまゆりベーカリー」に新たなエピソードや歌を付け加えて、それらを表現することにしました。

ある青年が、自粛中仲間に向けて発信したメッセージがあります。

「僕の混乱は辛いものでした。長い間自宅でごすことになって、動きや関心が制限されてしまい、牢獄に繋がれているような気になりました。誰も僕に関心を持たずに世界から、弾き出されてしまった気がします。この気持ちはうまく伝わるかわからないけれど、知ってほしいのです。僕以外にも世界から切り離されて光が見えなくなって絶望している仲間が多くいることでしょう。僕の気持ちを伝えて、みんなに絶望しないで希望を持つと伝えて下さい。この言葉が誰か別の仲間が届くのであれば、僕は気持ちが安らぎます。どうぞ皆さん、嵐を乗り越えて、明るい空の下、皆で集まりましょう。そして歌いましょう。」

活動を続けること、話すこと、繋がることも生

きることだという強い思いが伝わる言葉です。

②くらしについて

世間で新しい生活様式が話題になる中、コースでは自分達のくらし方について話題になりました。

若手の青年から、将来は仲間と暮らしたいと考えていることや、意見や思いがしっかり受け止められて楽しく暮らせるか不安に感じているなどの意見があがりました。

グループホームに住むベテランの青年からは、「こうして学級に来られるので満足しています。困った時は精一杯伝えますが難しい時もあります。もっとこうしたいとか、やりたいことを実現できたらいいとは思いますが…。」

「一人一部屋あるけれど、他の入居者と上手いかないこともあります。一人暮らしもいいかもしれませんが。相談支援なども使って相談することも大切です。」

など、各々の生活から感じる思いを聞きました。

どんな場所でも、一人の人間としてきちんと向きあってくれる場所が必要で、そのためには学級で仲間と考えるながら思いを伝えていくのが大事だという、学級の存在の大きさを感じる言葉もありました。

世代や環境が異なる他コースや他学級・とびたつ会の仲間とも、暮らし方・生き方について話し合えれば、新たな発信が生まれるかもしれません。

③オンラインでのつながり

コースの中にはコロナ禍のため長く学級を休んでいるメンバーもいました。職場に顔を見に行くことはできましたが、コース全員で会いに行く

のは難しく悩んでいた中、ご家族の協力でオンラインで繋がることができました。

久しぶりに顔を合わせ、両画面に笑顔が溢れました。お互いの近況報告では仕事や家での過ごし方を話しました。コースのメンバーが何度も名前を呼び合う姿があり、コースの絆を感じた瞬間でした。

オンラインで参加した青年は、職場の新しい制服と帽子を着て、職場が移転したことや新しい仕事の内容、休みの日は職場の仲間とオンラインで話したことなどを語りました。新店舗にコースの仲間と来てほしいとの案内もありました。2019年の合宿で行き、劇の原点の場所でもあるため、コロナが落ち着いたらコースのメンバーで叶えたい目標ができました。

環境面の整備など多くの方の協力でオンラインで繋がることができました。多くの視点で繋がる方法を探し続けること、声を掛け続けることが大切でした。

また年明けからの全体のつどいでは、オンラインで参加していたコースの青年が、他のオンライン参加の青年や公民館にいる青年に積極的に声を掛ける姿がありました。オンラインも回数を重ねることで、同じ空間にいるような雰囲気さが少し



ずつ出てきました。今後もオンラインを併用しながら活動を継続していきます。

(2) 劇づくり

①わかそよミュージカル鑑賞 (1995)

クリスマス会の発表が録画と決まり、演出のヒントを得るために、1995年わかそよのミュージカル「すてきな笑顔を教えてください」を鑑賞しました。舞台に立つ仲間の溢れる笑顔や、熱気、観客との一体感など画面越しに熱い思いが伝わるステージでした。また、歌、踊り、演技、ことばなど表現方法も沢山あり、小道具や衣装で細かな演出にもこだわりがありました。この熱気に背中を押され、録画のいい面を取り入れたコース発表にするため、研究が始まりました。

②録画に挑戦

2019年度の「やまゆりベーカリー」に新たなエピソードを付け加える形で劇作りを進めました。ストーリーは大半完成していたため、動きながら補足部分を話し合うスタイルを取りました。ホールを広々使い大きく動けたほか、プロジェクトに絵や写真を写すなど録画ならではの取組を行いました。コロナの影響で休んでいる仲間ともオンラインで話す機会もありました。その仲間の働くパン屋を背景に写し、離れていても劇を通して、繋がりがありました。

昨年度の成果発表会間近に完成した新曲2曲は毎回歌うことで、みんなの声が揃い、息が合ってきました。学級ソングには多くの隠れた名曲があります。新しい曲をつくることも、今ある歌を歌い継ぐことも大事なことです。

シーンごとに撮影する度、映像を振り返り、声の大きさや、振り付けが少ないなど弱点を抑えら

れました。また、実際動きを付けると立ち位置、小道具や衣装や背景の準備、シーンの組換え等、話し合いでは分からない課題を早めに見つけて対応できました。

昨年度は成果発表会までの時間の無さが課題でしたが、欲張らず一つのストーリーを膨らませることで多様な表現方法に挑戦できました。

ミュージカルに必要な要素は非常に多く、昨年度は、一度に全てを表現しようとして苦戦しました。今回は動きを重視するため、歌は事前録音して用いました。それに声を重ねることで歌声に厚みが出て、移動が滑らかになりました。

劇で大切なのは、ストーリーの背景から何を訴え、伝えていくかということで、見やすさ・ボリューム等はその次に考えれば良いのかもしれませんが、練習を重ねれば自然と一番伝えたい部分は雰囲気や表情から湧き出てきます。それを2年間かけ体感できました。



③オンラインクリスマス会・成果発表会

本番まで何度も撮り直して一つの作品が生まれました。録画では字幕を付けたり、移動をカットすることでシーンの切替がスムーズになり、テンポが良く明るい劇に仕上がりました。また、セリフを言うメンバーに焦点を当てたり、衣装や小

道具を使うことで見やすくなりました。

クリスマス会以降は緊急事態宣言でコース活動ができなかったため、成果発表会はクリスマス会の動画の最後に、今のメッセージを添えて発表することにしました。

「今年はコロナでコース活動らしいことはできなかったけれど、最後まで活動できて良かったです。」

「活動ができて嬉しい反面、沢山の仲間が参加できていなくて寂しいです。繋がって生きることによって光をさせます。みなさん、コロナに負けずに仲間の存在を感じながら、思いやりながら進んでいきましょう。」

「仲間と仲間の繋がりを大切にしながら生きていける社会をつくっていきましょう。」

2年間かけてつくった「やまゆりベーカリー」の原点は、合宿で仲間が働くパン屋に行ったことです。思うようなコース活動ができなくても、発表の形を変えても、一つの舞台を2年かけて同じメンバーで作り上げることができました。たった15分の短い劇ですが、2年間の活動とかが凝縮しています。コロナ禍を共に過ごし、小さな話し合いから合宿まで、一回一回の活動の積み重ねの大切さを改めて感じた1年となりました。



4. 課題と展望



オンラインでの参加に対し、話し合いでは意見を振ることが出来ますが、劇の練習など動きのある活動では、どう声を掛ければよいのでしょうか。画面越しでも繋がりをもち続けるのは重要ですが、逆に来られない悔しさを掻き立てているのではないかと不安もあります。職場に訪問し短時間でも話した時間は、対面の必要性を感じた瞬間です。オンラインでも、視聴型ではなく参加型にするにはどうしたらよいか考える必要があります。

オンラインと公民館双方から青年と担当者が参加し、お互いの見え方や課題点を話し合う機会を設け、各々の利点を活かした活用を検討していきます。

また前半の活動では「やまゆりベーカリー」の完成を目指すほか、コロナやいのち、仲間についてなど新たに伝えたいテーマが多くあがりました。話題は沢山ありましたが、元々ある劇にストーリーを補足しながら進めたため、話し合い中心だった昨年度の課題を克服できました。ホールで広々動き、撮影では自分たちの動きを客観的に見ることで、動かないと分からない点にも気づけました。

ただ、クリスマス会の動画から一つエピソードと新曲を加え完全版を目指していたため、話し足

りなかったというのが正直なところ。コロナについてや、グループホームや職場での葛藤など話題があがっていましたが、劇や新曲に活かさせませんでした。来年度のコース活動やつどいなどで改めて話し合い、新しく表現する方法を検討していきます。

この1年は誰もが臨機応変さを求められる年でした。昨年から成果発表会、合宿等予定や目標が打ちのめされ、楽しみを奪われて、どん底に落ちそうになった時もあります。それでも学級でつどい、会えない人の気持ちに寄り添い、今を全力で活動をつくってきました。成果発表会での最後のメッセージを含め、これが「やまゆりベーカーリー完全版」なのかもしれません。

昨年度成果発表会が延期された分、2年間同じテーマの劇に取り組むことで劇で一番伝えたいことが明確になりました。録画で自分たちの姿をすることで、表現の幅も広がりました。劇で伝えたいテーマとして、今年度前半には「愛と勇気の溢れる歌」、「繋がること、伝えていくことの大切さ」、「炎のように高く燃え上がる姿」など力強い言葉が出ていました。コロナ禍でも仲間と明るく力強く生きる姿を歌や劇で表現することができました。

このコースは、劇を一から作るため、歌・ダンス・セリフ・演技等必要な要素が多いコースです。ストーリーを作るには話し合いを、演じるには動きを付けて練習が必要でどちらも長い時間を要します。そのため、ストーリーに合わせて演出方法を替えることが大切です。内容が伝わりやすくもなります。今回の収録ではシーンの切替が一瞬で済み、字幕を付け話し手にカメラを向ける

ことでテンポの良さが出ました。見る側を意識した方法です。

ではオンライン収録と、生の舞台では何が違うのでしょうか。一見、生の方が観客に凛とした表情や笑顔が伝わりやすく、会場との一体感があるように見えます。しかし合わせ方次第で伝わりやすさが出るのならば、オンラインも一つの手です。また、撮り直しが聞けるのも収録の良さです。学級内にとどまらず、近隣大学や外部の団体へ紹介動画としても活用できそうです。

どちらにしても、練習がものを言うとう実感しました。本番より実は練習に掛ける時間や熱量の方が大事なのかもしれません。2年間同じ劇を同じメンバーで追いかけてきた時間は、多くの学びと気づきがありました。「やまゆりベーカーリー」はやまゆり園の事件の後、残された仲間が強く、楽しく生活をしていることを描いています。今年度会えていない仲間のことも重なる部分もあります。コロナで悲しみに暮れる裏側では、仲間とつながり、強く生きる姿があります。それを教えてくれた劇だったのかもしれません。

本番1発勝負の生の舞台は、緊張感がありますが、終えた後舞台の上から見る言葉で表せない景色と、仲間とそれを共有できる特権があります。今後は各々の利点を活かして併用すれば、クリスマス会や成果発表会に留まらず、発表の機会が増えそうです。学級やコース活動を紹介する動画、歌詞の秘話を紹介する動画など、オンラインだからこそ伝わりやすいものもあるかもしれません。

今は再び、大勢の観客の前で最高のステージに立てる日を夢見て、準備と練習を積みたいところ

ろです。

ミュージカル「やまゆりベーカリー」^{だいほん}台本

「わたしたちは劇・ミュージカルコースです。や
まゆりベーカリーの劇の練習^{げき れんしゅう}をしています。
発表^{はっぴよう}、楽しみにしててください。」
「コロナ負けず、頑張^{がんば}っていくぞー。おー！」

ナレーター「相模原市^{さがみはらし}にある津久井やまゆり園^{つくい えん}で、
私達^{わたしたち}の生きる価値^{い かのち}を認めない悲^{かな}しい事件^{じけん}が起き
ました。19名^{めい なかま}の仲間^{めいふく}のご冥福^{いの}をお祈^なりします。長
い年月^{ねんげつ}がながれて残^{のこ}された仲間^{なかま}は、何^{なん}でも話^{はな}し合^あえ
る職場^{しよくば}、やまゆりベーカリーを開店^{かいてん}しました。」

M1仕事^{しごと}のうた

仕事^{しごと}に出^でかけよう 仕事^{しごと}に出^でかけよう
電車^{でんしゃ}に乗^のって 仕事^{しごと}に出^でかけよう
仕事^{しごと}に出^でかけよう 仕事^{しごと}に出^でかけよう
バスに乗^のって 仕事^{しごと}に出^でかけよう
仕事^{しごと}に出^でかけよう

(客^{きやく}：扉^{とびら}の方^{かた}へ移動^{いどう}する)

(店長^{てんちょう}：中央^{ちゅうおう}へ出^でる)

店長^{てんちょう}「おはようございます。今日^{きょう}も1日^{いちにち}頑張^{がんば}り
ましょう。」

みんな「おおーっ！っ！」

朝礼^{ちようれい}「いらっしやいませ。」

「ありがとうございました。」

「またのご来店^{らいてん}をお待^{まち}ちしております。」

店長^{てんちょう}「それでは、パン作り^{つく}ははじめ！」

M2 パン作り^{つく}のうた

生地^{きじ}をこねて1,2,3 卵^{たまご}を塗^ぬって4,5,6
オープンで焼^やいて7,8,9 お店^{みせ}に並^{なら}べて10

(店員^{てんいん}：キッチンの方^{かた}から走^{はし}ってくる)

店員^{てんいん}1「すみませーん。遅^{おそ}くなりましたあー。」

みんな「もー、遅^{おそ}いよー」

「頑張^{がんば}ろう。おー！」

M3拍手^{はくしゅ}

こちらは やまゆりベーカリー

コーヒー出^だしたり オーダとり

お客^{きやく}さんがいっぱいだと

頭^{あたま}がグルグル パニックになるよ

ぼくも パン焼^やきの仕事^{しごと}で

1日^{いちにち}立ちっぱなしさ

慣^なれればきつと 大丈夫^{だいじょうぶ}さ

だけどもりはぜったい ダメダメダメよ

そんな時^{とき}はお互^{たが}いに 力^{ちから}を合^あわせて頑張^{がんば}ろう

ここにすてきな 仲間^{なかま}がいるから

拍手^{はくしゅ} 拍手^{はくしゅ} 働^{はたら}くことのよろこびに

拍手^{はくしゅ} 拍手^{はくしゅ} とともに 働^{はたら}く仲間^{なかま}たちに

(客^{きやく}：扉^{とびら}から入^{にゅう}店^{てん}。席^{せき}に座^{すわ}る)

「いいにおいだね」

「美味^{おい}しそう」

「すてきなお店^{みせ}だね」

(店員^{てんいん}：キッチンから席^{せき}へ歩^{ある}いてくる)

店員^{てんいん}2 (コップを3つ置^おく)

店員1「いらっしゃいませ。ご注文は何にしますか？」

客1「(メニュー) Kさん何にする？迷うね。」

客1・2「じゃあ、クリームパン2つと、コーヒー2つ下さい。」

客1「Fさんは何にする？」

客3「あんぱんとコーヒー！」

店員1「かしこまりました。ただいまお待ちします。」

店員2「オッケーです！」

店員1「Nさんは何にしますか。」

客4「ジュースで。」

店員1「パンはいりませんか？」

客4「食べたばかりですから…」

店員1「あっそっか。少々お待ちください。」

(店員がキッチンへ戻る)

(なかなか注文が来ない)

客1「パンまだかなあ。遅いねえ。」

(店員：キッチンから席へ走ってくる)

店員1「(客2へ)お待たせしました。クリームパンとコーヒーです！(コーヒーをこぼす)あっ！すいません！」

客1「気をつけてね」

店員1「(客2の方に行く)こちらはメロンパンとコーヒーです。」

客1「あれ、メロンパンじゃなくて、あんぱんだけど。」

店員1「すいません、すぐ作り直します」

客1「もー、ちゃんと注文聞いてよね！」

(店員1、悲しそうに厨房へ戻る)

店長「やけどは大丈夫？あせらないでね。」

店員1「すいません。次は気を付けます。」

(それを見ていた店員2が駆け寄る)

店員2「大丈夫？元気だして！」

店員1「ありがとう。頑張るね。」

(店員1、中央へ走っていく)

店員1「優しくて、励ましてくれる仲間がいるから、仕事も頑張れる。ステキな仲間がいて、私は幸せだなあ！」

店員3「明日はSさん、誕生日なんだから遅刻しないでよね！」

店長「気を付けて帰ってね！」

(暗くなる→ブレーキ音)

翌日

店長「おはようございます」

みんな「おはようございます！あれSさんは？」

店員4「大変、大変、大変、大変!!!!!!」

みんな「どうしたの？」

店員4「Sさんが、車とぶつかったって！」

みんな「ええっーーーーー！！」

ナレーター「大事な人が、急に来れなくなってしまいました…。」

(朗読)

早くあなたに会いたいよ

早くやまゆりベーカリーに来てほしいよ

早くケガを治してよ

みんな心配^{しんぱい}していたよ

本当^{ほんとう}は私^{わたし}の誕生^{たんじょう}日にいてほしかったけれど

来年^{らいねん}はあなたにいてほしい

私^{わたし}の誕生^{たんじょう}日^び忘^{わす}れないでね

あなたの誕生^{たんじょう}日^び忘^{わす}れないよ

みんなの声^{こゑ}「さみしいな」「早く^{はや}会^あいたいね」

「早く^{はや}来^きてほしいね」

店長^{てんちょう}「やまゆりベーカリーは、

誰^{だれ}か一人^{ひとり}かけてもダメなんだ！！」

店員^{てんいん}1「おはようございまーす！！

遅^{おく}れてすいませーん。」

(舞^ぶ台^{たい}端^{はし}から中^{ちゅう}央^{おう}へ走^{はし}ってくる)

みんな「あれ！？S^{えす}さん！！」

店員^{てんいん}3「怪^け我^がは大^{だい}丈^{じょう}夫^ぶなの？！」

店員^{てんいん}1「もう大^{だい}丈^{じょう}夫^ぶ、ケガになんて負^まけないわ！」

みんな「良^よかったー、おかえり！」

店長^{てんちょう}「そういえば今^{きょう}日はS^{えす}さんの誕生^{たんじょう}日^びですね。

みんなそろって良^よかった。みんなでお祝^{いわ}い

しましょう。今^{きょう}日はバースデーを歌^{うた}いまし

よう。」

M4今^{きょう}日はバースデー

きょうはともだちのバースデー

わたしの だいじなひと

まあるいケーキをたべよう

これからもおしゃべりしよう

いつも心配^{しんぱい}してくれて ありがとう

とてもやさしくて 感謝^{かんしゃ}してます

あなたのおかげで ここまでこれたから

これからもいっしょに 話^{はな}したい

おめでとう おめでとう 感謝^{かんしゃ}をこめて

しあわせ おくろう ハッピーバースデー

ありがとう ありがとう 支^さえてくれて

みんなで うたおう ハッピーバースデー

ナレーター「私^{わたし}たちの命^{いのち}はつながっています。

世^せ界^{かい}中^{じゅう}の友^{とも}達^{だち}や、未^み来^{らい}に生^うまれる仲^{なか}

間^{あいだ}たちに向^むけて、歌^{うた}います。」

M5世^せ界^{かい}の果^はてまで伝^{つた}えよう

わたしのとなりの ともだちも

これから出^で会^あう ともだちも

伝^{つた}え合^あう仲^{なか}間^まが いてほしい

未^み来^{らい}に生^うまれる 仲^{なか}間^またち

支^さえ支^さえられて 生^いきていく

希^き望^{ぼう}のいのちが 生^うまれたよ

輝^{かがや}く色^{いろ}は 違^{ちが}うけれど

いのちの光^{ひかり}を きらめかせ

世^せ界^{かい}の果^はてまで 伝^{つた}えよう

M6 そのままに

感^{かん}じたことを そのままに

書^かいたことばを そのままに

みんなのことばを そのままに

楽^{たの}しい時^じ間^{かん}を そのままに

やりたいことを そのままに

いのちのことばを そのままに

みんなの気^き持^もちを そのままに

のんびりな時^じ間^{かん}を そのままに

楽^{たの}しい時^じ間^{かん}を そのままに そのままに

こうみんかんがっきゅう
公民館学級 オンライン学級

かつどう なが
活動の流れ

6月7日 が　　か つ	はんちようかい きんきようほうこく きょねん 班長会、近況報告、去年のコースの振り返り
6月21日 が　　にち つ	
7月5日 が　　か つ	
7月19日 が　　にち つ	がっきゅう たいそう しんきょくしょうかい ねん しちよう 学級ソング、ラジオ体操、新曲紹介、2017年わかそよ視聴
9月6日 が　　か つ	たいそう きんきようほうこく ラジオ体操、近況報告
9月20日 が　　か つ	
10月4日 が　　か つ	
10月18日 が　　にち つ	
10月1日 が　　たち つ	
11月15日 が　　にち つ	
12月6日 が　　か つ	
12月20日 が　　か つ	
1月17日 が　　にち つ	しんねん あいさつ しし まい たいそう うた きんきようほうこく か ぞ はな あ 新年のつどい（挨拶、獅子舞、ラジオ体操、歌、近況報告、書き初め、話し合 い）
2月7日 が　　か つ	うた きんきようほうこく たいそう こうみんかん はな あ ハロハロのつどい（歌、近況報告、ラジオ体操、ハローハロー公民館、話し合 い、版画作成）
2月21日 が　　にち つ	うた きんきようほうこく たいそう こうみんかんさつえい はな あ はんが 歌、近況報告、ラジオ体操、ハローハロー公民館撮影、話し合い、版画、 がいしゅつ 外出）
3月7日 が　　か つ	せい か はつぴようかい うた えん ついとう どうが はつぴよう 成果発表会（歌、コロナについて、やまゆり園の追悼、動画でのコース発表）

1. 集団の特徴

5月末ニュース送付時に、青年の家族からオンラインでの開催を望む声がありアンケートを取りました。参加できそうな青年に声を掛け、毎回1～2時間行いました。参加者は10名前後でしたが、回数を重ねる度に増えていきました。参加が難しい青年にも活動が伝わるように毎回ニュースを送付しました。

1月以降再度緊急事態宣言が発令されたため、公民館での活動とオンラインを組み合わせ、一人でも多くの青年が参加できるようにしました。

担当者もオンラインと公民館から参加し、各々の見え方やできることを共有していきました。

2. 活動のねらい

- ・公民館に集えなくても、学級という居場所を維持する。
- ・顔を合わせ、声を掛け合うことで繋がりを確かめる。
- ・限られた人数や、画面越しでも、自粛の中集まることで対面する大切さを確かめる。

3. 活動の様子・評価

(1) 初のオンライン学級

5月に青年の家族からの声を受け、開級式が予定されていた6月初旬に初めて試みました。

公民館の休館中は担当者会もオンラインで行っていたこともあり、オンラインでの伝わりやすさをイメージしながら内容を検討しました。

当日の午前は、班長会ということで少数の参加でした。近況報告や歌のほか、午後へ向け操作方法や聞こえ具合の確認も行いました。

学級ソングは公民館から担当者が歌と演奏を届ける形で、演奏者以外はミュートにするなどの対策を取りました。電話がつながった青年も短い時間ですが声を聞くことができました。

午後は参加者が増え、画面越しですが徐々に顔を合わせ、みんなの笑顔がワンスクリーンに映し出されました。近況報告では在宅勤務になっていることや、家での過ごし方などを語りました。仕事でつくった作品を持ちながら語る場面や、ご家族も一緒に参加する場面はオンラインならではの時間でした。

2019年度の成果発表会が中止になりコースの振り返りが未完のままでした。そこで各コースの活動の振り返りと、創作した作品や新曲の紹介をしました。各コースの担当者と青年が写真を見ながら紹介し合い、新曲を一緒に歌い、多岐に渡る活動を共有できました。時間が空いても、人数が少なくても振り返る時間の大切さに気付きました。最後にリクエストを募り学級ソングをたくさん歌い、久しぶりの熱気に溢れました。

また担当者もオンライン側、公民館側で参加することでそれぞれの見え方、課題が浮かびました。当日中の振り返りや担当者会で共有し、次回に繋げていきました。

(2) オンライン学級からの発展

初のオンライン学級後の振り返りでは、①動きが少ないこと、②音にムラがあること、③青年同士の話し合いができていないこと、などが課題として挙がりました。そこで①へは、ラジオ体操や動きのある学級ソングを取り入れることで座りっぱなしを防ぎ、メリハリができました。学級オリジナルの体操を考えても面白いかもしれません。

②へは、予め録音した学級ソングを用いることと改善しました。青年から事前に歌のリクエストを募ったり、季節の歌を取り入れたりして担当者間で収録を行いました。コロナ禍で満足に歌えない中、普段の活動で流すことや、コースに楽器を弾ける担当者が不在の場合も代用でき、これまで以上にいつでもどこでも歌える環境が整いました。歌詞を映しながら音源を流せるため、自宅からでも見やすく、聞きやすいものとなっていました。

③へは、画面が小さく分割されているため誰が参加・発言しているかが分かりにくく、一対一の対話になりがちでした。名前を呼びかけてから話をすることや、雑談から話を広げていくことで話しやすく、お互い声を掛けやすい雰囲気になっていきました。当初は担当者からの発信が基本でしたが、回数を重ねるごとに、オンラインの青年同士で対話する姿も見られました。

上記のように少しずつオンラインが身近なものになり、学級の魅力を発信する一つのツールとして用いることにも繋がりました。

9月には社会教育全国集会の分科会に参加し、歌（わたしぬきに決めないで、ぼくらの輝き）とメッセージ動画を発信しました。

10月にはオンライン生涯学習センター祭り用の動画（いのちのことば、ぼくらの輝き）を作成しました。

12月はクリスマス会でコース発表をオンラインで行い、3月の成果発表会へのイメージが掴めました。

オンラインでの活動は毎回ニュースを発行し、クリスマス会の動画をDVDにして届け、参加

が難しい青年へも活動内容や仲間の思いを共有しました。

（3）年明けからの活動

①新年のつどい（書初め・獅子舞）

年が明けた1月から再度緊急事態宣言が発令されたため、時間を短縮して午後の方のみの活動でした。時間や参加人数からコース活動ではなく、オンラインを併せた全体でのつどいと、話し合い・外出・創作のテーマに分かれての活動を行いました。

新年のつどいでは獅子舞の演出や、書初めに取り組みました。書初めではわかそよへの意気込みや、新年の抱負が書かれました。「わかそよ」、「みんなとつくるわ」、「ちから」、「元気」、「コロナに負けない」、「一人暮らしを頑張る」など思い思いの力強い言葉が並びました。わかそよTシャツの題字にもなりました。

オンラインでも気軽に用意して参加できるような取り組みを考え、幅広い取り組みができました。

②ハローハロー公民館ダンス

縁あって、YouTubeの月刊公民館チャンネルのテーマソング「ハローハロー公民館」のミュージックビデオにダンスで参加しました。

練習用の動画と歌を何度も流して、ダンスの練習をしました。オンライン側でも公民館側でも一生懸命練習する姿がありました。歌うことは難しくても、一緒にリズムを取り身体を動かすことで熱気に溢れた時間でした。全体で一つの作品に取り組み貴重な機会となりました。

完成した作品では一つの歌で、全国の公民館に集う方々と繋がることができました。歌は人と人

繋ぐ力があると改めて体感しました。

③わかそよの準備

(話し合い・スチレン版画づくり)

秋から続けているわかそよ実行委員会もオンラインを繋いで行いました。2021年のわかそよもオンラインでの実施となり、これまでの活動を活かし取り組みそうです。

またスチレン板を用いた、スチレン版画にも取り組みました。材料もスチレン板や絵の具、ローラー等、手軽に用意できるものでした。仲間の笑顔や花、風景など様々な絵が揃い、わかそよのTシャツやポスターの素材にもなりました。

(4) オンライン成果発表会

全員で集うことや観客を招くことが難しかったため、初めて成果発表会をオンラインで行いました。内容はクリスマス会の各コースの動画にメッセージを添えての発表、学級ソングの紹介、1年の軌跡をまとめた動画の紹介などでした。大勢の来賓やご家族の方がオンラインで参加してください、感想もいただくことができました。

長くオンラインで参加し、久々に公民館に来られた青年からコロナ禍でのオンライン学級で感ることが話されました。またコース発表の中で、途中から来られなくなった青年が書いた作文を代読する時間もありました。オンライン、公民館、休んでいる仲間、発信し続けていればいつでもどこでも繋がっていられると気づいた時間でした。

最後に流した1年の軌跡の動画は「わたしのしごとのうた」に合わせて、初めてのオンライン学級から成果発表会まで2020年を写真で振り返る作品でした。手探り状態からスタートした年でしたが、みんなで考えを巡らせながら取り組み、

2年分の成果発表会を素敵な形で締めくくることができました。

4. 課題と展望

慣れないzoom動作により、ハウリングや音声がうまく入らない等の細かい不備がありました。回数を重ねるごとに改善していきましたが、急な対応にはまだ慣れとスキルが必要です。1度ひかり学級とオンラインで繋がりましたが、環境面の問題で短時間となっていました。タブレットやWi-Fi環境等を整備することも必要です。

環境面の問題からオンラインでも参加できない青年に対して、活動内容を伝えるべくニュースでなるべく詳細を伝えましたが、逆に参加の有無が明確になってしまったかもしれません。ただ、一人でもやりたいという声があがり、開催できる体制・環境が整っている限りは実施すべきだと感じます。今後も可能性を出し続けていきたいところです。

また、オンラインでの学級らしさとはでしょうか。担当者と青年がつながる面に比べ、青年同士で繋がることは少なかったかもしれません。青年とのやりとりが一人ずつになってしまい、他の青年からの発信を同時に受けとって答えることに制限ができてしまう点も課題です。今後はブレイクアウトルームの活用などでコースや少人数の時間を設けてもいいのかもしれません。

直接対面ができない中、職員、担当者、青年やご家族が協力し合い実現に至った点は大きな成果です。自粛中のオンライン担当者会議や電話連絡、ニュース作成など準備が整っていたからこそすぐに取り組みました。

今後は、遠方の団体と交流などオンラインなら
ではの取組も行うことで新たな出会い・学びの場
になるかもしれません。

また、オンライン側と現場側双方に青年がいる
ことで青年同士の呼びかけ、励まし合いなどが増
え、青年の繋がりが強くありました。

オンライン学級の経験が、社会教育全国集会
の分科会や生涯学習センター祭り、クリスマス
会の動画撮影を促進させるものになりました。わ
かそよや学級の紹介動画作成など、今後も様々
な手段で一人でも多くの人が参加・発信できる
方法を検討していきます。

オンラインの活用により、学級を中止せずに
継続できました。青年たちにとって「青年学級」
という場所が本当に大切であるからこそ、この一
年間では、その想いが垣間見える部分が沢山あり
ました。学級の意義、生きることへの意義を改
めて考えさせられる重要な期間でもありました。
今後、これまで大切にしてきた学級の姿を変え
ることなく、新しい学級のあり方を考えていく
必要がありそうです。それにより、青年学級の
活動の幅が広がると期待します。

最後に、1度目の緊急事態宣言中にある青年と
担当者がメールでやり取りして遠隔でつくった歌
を紹介します。離れていても様々な手段で幅広い
活動が可能です。

今は誰にも会えなくても、いつかは会える、こ
とばで繋がっていると信じて、再び集まることを
夢見て書かれた歌です。

「ひだまりの音」

陽だまりの丘で 輪になる日
君は何を語るのだろう
会いたくても会えない今
君は何を思っているの
窓から見えるあの丘を
君と重ね話しかける
さみしさのりこえ 丘で集まろう
伝えたい言葉を つむいで歌おう
未来の希望を 笑顔で語ろう
丘からの色は どんな色
その日を夢見て ひとり思いをはせる

陽だまりの丘で 輪になる日
君は何を語るのだろう
会いたくても会えない今
君は何を思っているの
夏が来そうなあの丘に
大きな雲が浮かんでる
落ち込む時こそ ひのひかりあびよう
青い空のもと つながっていよう
白い雲に乗り どこまで行こう
丘からの景色果てしない
陽だまりの丘で また会う日を夢見て
その日を夢見て ひとり思いをはせる

ひだまりの音

(2020.5)

♩ = 104

C

Ribbon Clarinet

ひだまりのおかでわになるひきみ

F Em Am Dm7 Em Am

はなにをかたまるのだろうあいたくてもあえないいまきみ

Dm7 G7 C C7 F Em

はなにを捜しているのまどからみえるあのおかを
なっがき そうなあのおかに

Dm F E7 F C F C

きみとかさねはなしかけるさみしさのりこえおかであつまろう
おおきなくもがうかんでるおちこむときこそひのひかりあびよう

F C F G7 F G F C

つたえたいことばを つむいでうたおう 미래のきぼうを えがおでかたろう
あおいそらのもと つながっていよう まっしろなくもで どこまでいこう

Dm7 C G7 F G7 Em Am

お か か ら の い ろ は ど ん な い ろ そ ひ の ひ ま を り ゆ め み て ひ と
お か か ら の け し き は て し な い ひ だ ま り の お か で ま た

Dm7 G7 C

り お も い を は せ る
あ う ひ を ゆ め み - て

第2章 自治運営

1. 班長会

(1) 班長会の概要

班長会とは、学級全体に関わる行事や、運営に関わるさまざまなことを調整する組織です。

学級活動終了後の時間を使い、各コースの班長と副班長が集まり話し合いを行います。

活動内容としては、各コースの活動報告、クリスマス会・成果発表会などの行事に向けた話し合いおよび実際の準備や運営を行ってきました。なお、行事に関する話し合い・準備・運営は、つどい委員と合同で取り組みました。

(2) 班長会のねらい

学級活動終了後に各コースの代表として、話し合いに参加しています。各コースの活動の振り返りや、学級として全体の決め事など、意見の取りまとめを行い、学級生による主体的な活動の実現をねらいとしており、青年による自治活動を大切にしています。

(3) 班長会の様子

今年度は昨年度と同じコース編成のため、引き続き同じメンバーでした。

昨年度同様、会を進行する司会と班長会ノートの記入は持ちまわり制としました。その日、話し合った内容を班長会ノートに記録し、活動報告として「班長会ニュース」を書いて学級全体に向けて発信しました。若手の青年や、班長会に長く関わる青年ひとりひとりの意見を出し合い、丁寧に話し合いを進めています。

今年度はコース活動の報告の他に、全体のつどいの内容や、わかそよ実行委員会についても話し合いを重ねました。またコロナの影響で学級を

しばらく休んでいる青年の様子を気にする声があり、学級全体の様子を情報共有する時間が多くありました。

(4) 評価と課題

年度初めはオンライン学級からのスタートで班長会・つどい委員会が実施できない状況でしたが、青年からの「やはり班長会をやりたい」との声を受け、9月から徐々に再開していきましました。青年・担当者間で自治運営の必要性を改めて共有できました。若手の青年・担当者も増えたので、年代ごとの実践報告集を読み返すなど、班長会そのものについて考える機会があっても面白いかもしれません。

また司会は持ちまわり制とし、コースの担当者がフォローする形で進行しました。コースの担当者が不在の場合は予めメモを用意して青年と確認するなど工夫をしました。

今年度はコロナの影響で休んでいる方、長く学級に來られていない方に何かしたいという意見に対し、学級全体で仲間と繋がる方法を深く考えた1年でした。色紙やメッセージ動画作成をおこなったり、クリスマス会の動画をDVDにまとめて送ったりしました。

初のオンラインクリスマス会を通し、イベントの重要性に気づきました。イベントを通しひとりひとりの意外な一面や、生い立ちを知ることができます。また、準備の時間を通し仲間意識が生まれました。今年度は合宿などイベントも無く、班長会も限られた回数でした。活動以外の時間で、青年との振り返りの時間がより取れると良いのではないのでしょうか。オンライン班長会など、様々な方法を検討していきたいです。

またニュース作成については、班長会ニュースは司会を務めたコースが班長会後に作成しています。しかし今年度は時間の短縮や班長会後のお茶会が無いいためまとまった時間が取れずに、大方担当者が書くことがありました。話し合いで決まったこと、連絡事項など学級全体に共有する情報を青年から発信することで、班長、副班長の役割を改めて確認できます。班長会の時間のなかで同時進行して進める、複数人で書くなど工夫が必要です。青年自ら情報発信する一つのツールとして、形式的な書き方にこだわらず、青年それぞれの表現方法に寄り添っていきたいところです。

また、限られた時間で青年ひとりひとりの意見を聞き、進めるには事前の担当者の連携が大切です。この日は何をどこまで決めるか、司会や前回までの確認など、担当者間の事前確認をして、円滑にコースを越えた話し合いも進めていきます。

(5) 展覧

コロナを受け学級全体の活動、休んでいる仲間との繋がり方などを中心に話し合った1年でした。休んでいる仲間思いを馳せるだけではなく、相手にも繋がりを感じてもらう方法を考える必要性があると気づきました。今後も継続してオンライン学級、電話での声掛け、ニュースでの発信など、仲間との共有を大切にしていきます。

例年より一層学級全体の取組を重視した意見が多くありました。朝と帰りのつどいで顔を合わせる時間は、学級の温かさを確かめ、安心できる場でもあります。そこで各々の日頃の思いの共有などが更にできると、ひとりひとりに寄り添え、活動の深みが増すのではないのでしょうか。

2020年の新型コロナウイルスの様に、今後も突発的な対応が求められる場面があるかもしれません。その時のために今の活動をしっかり記録しておくことや、その時のニーズに合った方法を探し、まずは実行することが大切です。オンラインでの担当者会や学級を1年前、誰が想像できたでしょうか。当初の手応えは十分ではありませんでしたが何度も省察して今できること、伝えたいことを一生懸命探しました。1年を振り返り、やって無駄なものは何一つありませんでした。どんな形でも活動を続けられたのが今年度最大の成果です。

青年・担当者の年齢層や立場も多岐にわたります。それぞれの強みを尊重しながら活かし、情報を持ち寄るなどすれば、活動のバリエーションがより広がると期待されます。

今後も継続と発展を心掛け、幅広い活動を目指したいところです。

2. つどい委員会

(1) つどい委員の特徴

①委員

男性4名、女性2名の計6名で、長年、活動に携わっている方がつどい委員を務めています。

②つどいとは

コース活動の前後に行われ、全員が顔を合わせる場です。みんなで学級ソングを歌うことや連絡事項の共有、全体での話し合い、見学・応援の方の紹介をします。

(2) 活動のねらい

自治運営を目的としており、青年たち自らがつどいの運営や歌う学級ソングを話し合っ

(3) 活動の内容

①つどい委員の役割

朝と帰りのつどいで歌う曲決めやクリスマス会や成果発表会での司会を担います。全体行事の内容は班長会と話し合っ

つどいニュースは青年たち自身でニュースを書き発行しています。

②仲間への思い

6/21 再会のつどい

この日は感染防止対策に努めるためにつどいを午前と午後の2つに分けて行いましたが、半分ずつでも集えたことの喜びの声がありました。午前

午後とも午前と同じように見学の方の紹介、

近況報告、Kさんへの想いを共有しました。そしてコロナ禍でどのような思いを抱いて生活しているのか話し合われました。

12/20 クリスマス会

感染防止のためにホールに全員で集まる時間は15分とし久しぶりに全員で集まったことの喜びを分かち合いました。せっかくのクリスマス会なのに一堂に集まることが出来ないということは寂しいのではないかと担当者間で意見が出たためこのような形をとりました。この15分間ではま

1/17 新年のつどい

この日はオンラインと併用しました。オンライン参加の方も楽しめるように積極的に声をかけることや、獅子舞踊り、ラジオ体操をしました。また季節感を味わうため書初めを行い新年の抱負を書きました。「コロナに負けない」という強いメッセージや「わかそよ」など力強い文字を書きました。

2/7 ハロハロのつどい

この日もオンラインと併用し午後から活動しました。近況報告をした後、ハローハロー公民館の歌とダンスの練習をしました。その後はストレッチ版画のグループ、話し合いのグループに分かれ活動しました。話し合いのグループではわかそよへの思いが飛び交いました。一方で版画のグループでは各々書きたいものを自由に作りました。

2/21 ハロハロのつどい2

オンラインと併用し、多くの人に参加できるよ

うに呼び掛け。その結果、薬師池公園へ外出したコースもありました。なかなか学級に來られていない青年たちから外出に参加したいという声があり、このような形を取りました。長い間参加できていなかった青年たちが参加を決めてくれ久しぶりに顔を見ることが出来ました。

3/7 成果発表会

まず2年間の振り返りをするためにコース活動で90分しました。その後、ホールで成果発表会を行いました。ここでも感染対策のために親御さんや来賓の方はオンラインで参加して頂きました。しかし今年は十分に活動を行えなかったためにクリスマス会で撮影した動画を再度視聴し全員で2年間の活動の振り返りをしました。

感想として最初は不安でしたが結果的に良いものになった、普段外部の方から見てもらうことが少ないため、青年たちにとって良い機会になった。

(4) 課題と展望

①つどいを通して感じたこと

コロナの感染が拡大する中、つどいで学級ソングを歌うのが難しい状況になることがありました。そこで、担当者会議で検討中、「どんな状況でも青年学級に学級ソングは必要ではないか」という意見を受け、感染対策として担当者が歌った学級ソングを録音して、つどいで流すという方法で行いました。録音により音源が手元に残るので、楽器を弾ける担当者がいなくてもいつでもどこでも練習ができます。学級ソングには青年の想いが詰まっている歌詞があるため、青年、担当者にとってもとても大きく欠かせない存在だと改めて感じる良い機会となりました。

また、年明けからのつどいでは、新年のつどい

は書初めやスチレン版画、ハロハロ（外国の言葉で混ぜ混ぜという意味）のつどいでは、ハローハロー公民館のダンスを練習するといった多様な活動も行いました。

例年のつどいは学級ソングを歌うことがメインでしたが、今年度はコロナで午後からの活動でコース活動ができないことがありました。そのためコース活動を超えて全体の活動について考えました。公民館で活動をしているのだからハローハロー公民館のダンスをするのはどうかとの職員からの情報提供をもとに、ダンスの練習、撮影をしました。また新年は書初めで新年の抱負やわかそよへの意気込みを思い思いに書き、力強い言葉が出ました。スチレン版画での創作の時間を通してわかそよのTシャツやポスターの素材づくりにもつながっていきました。移り行く世の中で失ってはならない人とのつながりなど、これからもつどいを通して大切にしていきたいです。コロナ禍により人が集まることの重要性、学級ソングを担当者と青年で歌えることを再確認した活動となりました。

②課題

・コロナの影響によるつどい委員会の実施について

コロナの感染対策として、つどいを分けたり、急きょ午後からの活動になったりすることがあり、「つどい委員会をやりたい」というつどい委員の思いを形にできなかったのは今年度一番の大きな課題です。例えばコロナの中でも、定期的に委員会を開催することができるのかについて担当者と青年と一緒に考えることが必要です。

また、つどい委員会がしっかりと開催できな

ったことで新たに生まれた学級ソングの作った
背景や青年達が込めた思いを共有できる時間が
あまりとれませんでした。青年の伝えたい思いは
ひとりひとり違うので、つどいで共有できるよう
に担当者の間で話したり、つどい委員会で共有
したり、つどいの時間に話したりするとより学級
ソングについての青年の思いを知ることができる
のではないかと感じます。

・青年から出た案について

つどいで歌う学級ソングが固定化されてしま
いがちのため、つどい委員会で検討をした際に、
「リクエストボックス」という案が出ましたが、
感染のリスクを抑えるために持ち越しとなっ
てしまいました。できなかったことはとても残念
ですが、コロナ禍の中でもリクエストボックスを
できるようにするために担当者、青年が話し合
って考える必要があると思います。

第3章 考察

1. 2020年度のコース活動の取り組み

20年度の活動は、コロナ禍によって19年度の成果発表会が行えなかったことと、学級に来られない青年が多くいたため、各コースで19年度と同じコースを継続するかの話合いを行い、同じメンバーで、担当者も同じ体制で継続することになりました。

今年度の各コース活動には、共通点があります。それは「学級に来られていない仲間とのつながり」を考えた活動ということです。

その想いは学級生一人ひとりに共通していたもので、話し合いの中で確かめ合い深めていきました。それは担当者間でも同じでした。そのことを軸に、各コースの取り組みについて触れていきます。

(1) コンサートコース

来られていない学級生についての話し合いを重ねていく中で、「この場にはいない仲間のことを忘れていない」ことを伝えていくために何ができるのかを、活動の中で模索していきました。具体的な活動としては、コースに来られていないメンバーに向けて、メッセージを添えた色紙を作り、ミサンガ作りが得意なメンバーは、自作のミサンガも色紙と一緒に送りました。

それから、歌作りについてです。コース活動を引っ張っていく役割であった青年が、学級に来られなくなりました。その青年は、グループホームに学級へ参加したいという思いを伝えて、参加することができたのですが、緊急事態宣言等の影響で、外に出られなかった時のことを作文にし

ました。本人の「作文を歌にしたい」という意見が歌作りにつながり、『大切な自由に』という歌が完成しました。

グループホームに、学級の大切さを伝えて意見を変えて学級に来たというエピソードは、青年にとって学級が大切な場所であること、そして居場所があり続けることの大切さを改めて感じるエピソードの一つです。

(2) 楽器コース

コロナ禍についての話し合いの中で、青年から、「みんなでコロナに負けない歌をつくりたい」と、「いのち」という詩の発表がありました。その後、別の青年から「きづな」をテーマにした詩の発表がありました。

どちらも、学級に来ることができない仲間とのつながりがテーマの詩でした。

この2つの詩を元にして『きづなのうた』が完成しました。この歌は、詩と同様メロディーも青年が作りました。

わかそよについての話し合いでは、劇の案として青年から、「コロナ大王の物語」の発表がありました。「仲間と心の中の一本の糸をよりあわせて、人と人とのきづなでコロナ渦を乗り越えていく」という内容の物語でした。

この物語を今年度に発表する機会はありませんでしたが、歌も物語も今の社会の状況と向き合いながら、自分たちが置かれている状況をテーマにして作りました。

(3) ものづくりコース

ものづくりコースは、比較的青年の学級への

参加率が高かったコースでした。「このような状況下でも学級には行きたい」という青年の声もありました。

活動では、昨年度から作成していたモザイクアートが完成しました。その仕上げの作業は、久しぶりに参加した青年が担いました。

絵、プラバン、粘土づくり、「版画を作りたい」という意見が出ると版画美術館に行くなど、積極的にものづくりに取り組みました。その中で、ものづくりをただ作業として考えるのではなく、作成しながらコミュニケーションをとることや、自分の気持ちをものづくりを通してどのように表現するかが重要であることを確かめられた活動になりました。

(4) 暮らしコース

話し合いでは自粛期間中に感じていたことや、コロナ禍の影響で学級に来られていない人のことも話しました。

また、来られていない人たちへ向けた寄せ書きやメッセージを送る、という話し合いもして、他コースの青年からもメッセージを集めて、完成した寄せ書きをニュースに同封して届けました。

暮らしコースはメッセージを送ることについて、早く行う必要があると、他コースにも提案をしました。

そうした活動の中で丁寧^{ていねい}に話し合われたことを行動に移して実現させていく速さは、暮らしコースの特徴でもありました。

来られていない学級生へのメッセージについては、各コースでも話し合われていたことですが、暮らしコースが寄せ書き作成を各コースに依頼を

して、ひとつにまとめたことが、コースを超えて公民館学級全体として、来られていない人へ発信することの重要性を意識していくきっかけにもなったのではないのでしょうか。

(5) 健康コース

学級に来られていない青年に向けて、エールの手紙を送ることになり、来られていないメンバーと散歩した時の写真を貼った手紙に、折り紙を折って送るなどしました。

また話し合いでは、それぞれの職場での感染対策の話題が出ることもありました。

健康コースは外出してスポーツや散歩をすることも多く、ことばらんど、芹が谷公園、薬師池に行きました。

外出活動では、先を歩いている青年が後から来る青年を待っているなど、青年同士が協力し合う姿も見えてきます。

また、ものづくりをする際に、使用する素材集めなどの目的を持った散歩や外出を続けることで、遠出もできるようになりました。

話し合いが多い場合は、気分転換にウォーキングをしに行くなどしてから話し合いを行うと、話し合いをスムーズに行えることも見えてきました。

(6) 劇ミュージカルコース

自粛や自由についての話し合いでは、緊急事態宣言などで暮らしに制限がかかることについて、「自分達のくらしは自分達で決めたい」などの意見が出ました。その中で、仲間と話し合える学級という居場所の大切さも改めて確かめ合い

ました。

劇^{げき}については、「生^いきていること^{ひと}とつながること^{たいせつ}の大切さについて劇^{げき}を通して伝^とえたい」ということがそれぞれに共^き通^{つう}している想^{おも}いでした。そして昨^{さく}年度^{ねんど}の「やまゆりベーカリー」というやまゆり園^{えん}をテーマにした劇^{げき}に、今^{いま}感^{かん}じていること^{こと}や伝^{つた}えたいことを新^{あら}たに付^つけ加^{くわ}えて劇^{げき}を作^{つく}りました。

元^{もと}の劇^{げき}のストーリーは、やまゆり園^{えん}の事件^{じけん}後^ごに残^{のこ}された仲^{なか}間^まが強^{つよ}く希^き望^{ぼう}をもつて生^いきていることを描^かいていますが、そこ^{そこ}にコ^かロ^ろナ^な渦^{うず}でのくらしや、来^こられていない仲^{なか}間^まへ^への想^{おも}いがエピソードとして加^{くわ}わりました。

19年度^{ねんど}と20年度^{ねんど}のテーマには「仲^{なか}間^ま」という点^{てん}で共^き通^{つう}するものがあり、仲^{なか}間^まと強^{つよ}く生^いきていくこと^{こと}の大切^{たいせつ}さを伝^{つた}える劇^{げき}が完^{かん}成^{せい}しました。

2. その他の取^とり組^くみ

(1) オンライン学^が級^{きゅう}

新^{あた}ら^らしい取^とり組^くみとなつたオンライ^{オン}ツ^ツールを活^{かつ}用^{よう}した活^{かつ}動^{どう}についてです。

きっかけは、担^{たん}当^{とう}者^{しゃ}会^{かい}でコ^かロ^ろナ^な渦^{うず}の青^{せい}年^{ねん}の近^{きん}況^{きやう}を知るために、電^{でん}話^わ連^{れん}絡^{らく}をすることの重^{じゅう}要^{よう}性を確^{かく}認^{にん}して連^{れん}絡^{らく}をしまし^なた。その中^{なか}で、ご家^か族^{ぞく}から、オンライ^{オン}で学^が級^{きゅう}を行^{おこな}うことについて声^{こゑ}があがりました。その声^{こゑ}をきかけに、zoomやwebexなどのツ^{かつ}ールを活^{かつ}用^{よう}した取^とり組^くみが始^{はじ}まりました。この取^とり組^くみのおかげで、公^{こう}民^{みん}館^{かん}に來^こられない学^が級^{きゅう}生^{せい}や、成^{せい}果^か発^{はつ}表^{ひょう}会^{かい}への來^{らい}賓^{ひん}のオンライ^{オン}参^{さん}加^か、感^{かん}染^{せん}対^{たい}策^{さく}としての入^{にん}数^{ずう}制^{せい}限^{げん}で一^{ひと}つ^つの場^ば所^{しょ}に集^{あつ}まれない場^{ばあい}合^あい、各^{かく}部^へ屋^やをオンライ^{オン}でつなぐなど、活^{かつ}動^{どう}の幅^{はば}が広^{ひろ}がりました。

しかし、イン^{かん}タ^んー^{きょう}ネ^なツ^た環境^{かんきやう}のない方^{かた}などは参^{さん}加^かできないため、参^{さん}加^かできる人^{ひと}が限^{かぎ}られてしま^{すく}う問^{もん}題^{だい}もありま^{じつ}す。実^{じつ}際^{さい}に参^{さん}加^かできる学^が級^{きゅう}生^{せい}は少^{すく}なかつたです。

続^{つづ}けて行^いく中^{なか}では、公^{こう}民^{みん}館^{かん}に在^{せい}る青^{せい}年^{ねん}とオンライ^{オン}参^{さん}加^かの青^{せい}年^{ねん}とのや^とり取^とりが増^ふえたことなど少^{すく}しづつ形^{かたち}ができてゆ^めん面^{めん}もありま^すした。

また担^{たん}当^{とう}者^{しゃ}会^{かい}も同^{どう}様^{よう}、公^{こう}民^{みん}館^{かん}の休^{きゅう}館^{かん}によつて使^し用^{よう}できない間^{あいだ}は、オンライ^{オン}で開^{かい}催^{さい}しま^すした。公^{こう}民^{みん}館^{かん}での担^{たん}当^{とう}者^{しゃ}会^{かい}が行^{おこな}えな^{けい}くても、繼^{けい}続^{ぞく}して学^が級^{きゅう}について話^{はな}しあ^あうことができたこと^{こと}で、活^{かつ}動^{どう}に制^{せい}限^{げん}がかか^ざっても議^ぎ論^{ろん}を重^{かさ}ねながら学^が級^{きゅう}を開^{ひら}き続^{つづ}けることができま^すした。

(2) 担^{たん}当^{とう}者^{しゃ}のひかり学^が級^{きゅう}へ^への異^い動^{どう}

20年度^{ねんど}の全^{ぜん}体^{たい}総^{そう}括^{かつ}の中^{なか}で、ひかり学^が級^{きゅう}の担^{たん}当^{とう}者^{しゃ}から、担^{たん}当^{とう}者^{しゃ}不^ふ足^{そく}について^{はなし}の話^でが出^でました。そのことをきかけに、体^{たい}制^{せい}を安^{あん}定^{てい}させるために、公^{こう}民^{みん}館^{かん}学^が級^{きゅう}の担^{たん}当^{とう}者^{しゃ}と職^{しょく}員^{いん}がひかり学^が級^{きゅう}へ異^い動^{どう}しま^すした。

その流^{なが}れで、21年度^{ねんど}の開^{かい}級^{きゅう}式^{しき}を公^{こう}民^{みん}館^{かん}学^が級^{きゅう}とひかり学^が級^{きゅう}をオンライ^{オン}でつな^{ごう}ぎ^{ごう}合^{おこな}同^{どう}で行^{おこな}うことになりました。その合^{ごう}同^{どう}開^{かい}級^{きゅう}式^{しき}に向^むけて、担^{たん}当^{とう}者^{しゃ}会^{かい}も合^{ごう}同^{どう}で行^{おこな}うことになりました。

担^{たん}当^{とう}者^{しゃ}不^ふ足^{そく}や3学^が級^{きゅう}間^{かん}の情^{じょう}報^{ほう}共^{きょう}有^{ゆう}などの課^か題^{だい}はありますが、これからも関^{かん}わ^わる人^{ひと}が青^{せい}年^{ねん}を真^まん中^{なか}にして、青^{せい}年^{ねん}学^が級^{きゅう}全^{ぜん}体^{たい}をと^{かん}もに考^{かんが}えていくこと^{こと}が重^{じゅう}要^{よう}であると思^{おも}います。

3. 終^おわり

コ^かロ^ろナ^な渦^{うず}で活^{かつ}動^{どう}に制^{せい}限^{げん}がある中^{なか}で、感^{かん}染^{せん}対^{たい}策^{さく}をした上^{うえ}でどうしたら青^{せい}年^{ねん}の居^い場^ば所^{しょ}である青^{せい}年^{ねん}

がっきゅう まも 学級を守れるかということを かんが 考え、いま 今できることとを模索しつづ 続けた ねん 1年でした。

その中なか でも、まず来られていない せいねん 青年とつながり続けるために何なに ができるのかを かんが 考えることが、とても じゅうよう 重要なことでした。

がっきゅう 学級ニュースなど、何なに にかしらの方法ほうほう でメッセージを ほうしん 発信することや、クリスマス会かい や成果発表かい 会かい などの行事ぎようじ も含めて、ぜんたい 全体をとお 通して来られていないひと ひと とのつながりを いしき 意識した かつどう 活動になりました。

また かんせんよぼう 感染予防のため、うた うた が歌えない、もくしょく 黙食、ひとつの ばしょ 場所に 大人おおにんずう 数かず あつ まれな せいげん 制限はありましたが、みんなの うたごえ 歌声を あ 合わせて がっきゅう 学級ソングを うた うた こと、ひとつの ひと 場所に ばしょ 集まって かつどう 行 集いなど、いま 今まで あ 当たり前まえ にできていたことの たいせつ 大切さも かん 感じる ことが おお 多い いちねん 1年でした。

やむを得え ず しゃかい 社会の じょうきょう 状況に さいゆう 左右されてしまいましたが、つど 都度かわる しゃかい 社会の じょうきょう 状況と かんせんたいさく 感染対策について、しっかりと ぎろん 議論を かさ 重ねながら かつどう 活動を つづ 続けられたことは、とても じゅうよう 重要な せい 成果となりました。

第 3 部 ひかり学級

第 1 章 コース活動

ひかり学級 エールハイキングコース

活動の流れ

6 月 7 日	コロナウイルスの影響で中止
6 月 21 日	コロナウイルスの影響で中止
7 月 5 日	自己紹介、七夕飾りづくり
7 月 19 日	コロナウイルスの影響で中止
9 月 6 日	ボッチャ、係・コース名決め
10 月 4 日	忠生公園散歩
10 月 18 日	ボッチャ、ペットボトルボウリング、ハロウィンのお菓子を食べる
11 月 1 日	歌とダンス、絵と折り紙
11 月 15 日	ボッチャ、ペットボトルボウリング
12 月 6 日	クリスマスツリーづくり
12 月 20 日	コロナウイルスの影響で中止
1 月 17 日	コロナウイルスの影響で中止
1 月 31 日	コロナウイルスの影響で中止
2 月 14 日	コロナウイルスの影響で中止
2 月 28 日	コロナウイルスの影響で中止
3 月 14 日	近況報告、ボッチャ

1. 集団の特徴

エールハイキングコースは、アンケートでウォーキングやスポーツ、外出をしたいといった希望を書いた青年が多く集まったコースで、男性 12 名、女性 3 名の合計 15 名で活動しました。

青年学級の経験が 30 年近い 40～50 歳代の青年が中心で、過去にスポーツコースに所属していた青年が多かったこともあり、活動当初より仲間意識がある程度できあがっているコースでした。

2. 活動のねらい

エールハイキングコースでは、次のような 3 つのねらいを掲げて一年間の活動に取り組んでいきました。

- ①スポーツや外出などを通して、体を動かすことの楽しさを感じる。
- ②お互いを知ることのできるような活動を通じて仲間意識を深めていく。
- ③青年一人ひとりの得意なことを活かし、みんなで協力して一つのものをつくっていく。

3. 活動の様子

(1) 素材について

①七夕飾りづくり

最初の活動で今年スポーツコースでやりたいことを話し合う中で、青年から七夕の飾りをつくりたいといった意見が出されたことから取り組んでみました。

青年一人ひとり折り紙で七夕飾りをつくったり、短冊に願いごとを書いたりしていきました。ある青年は「今年も楽しくたくさん笑ってすごしたい」、「すごくおいしい食べ物を、少しずつたくさんの種類食べたい」と願い事を短冊に書きました。またその他の青年も「卓球がもっと強くなりますように」、「今年も班長をがんばります」、「駒沢競技場で東京都障害者スポーツ大会のサッカーができますように」といった願い事を短冊に書いていました。

今年度はコロナ禍ということもあり「コロナがなくなっほしいです」、「いま青年学級が午前だけだけど、いつかは午後もやりたい」、「コロナの特効薬が早くできますように」、「ルームランナー

やります」といった短冊も多く、コロナ禍における青年の想いを伺い知ることができました。

今回の活動で、コース全員で協力して七夕飾りという一つの作品を作ることはできましたが、半日の活動で時間もなく、作った作品をゆっくりみんなで観賞するまでには至りませんでした。



②ボッチャ

コースでやりたいことを話し合い、多くの青年からボッチャが提案されたことから、何度か取り組んでみました。

青年だけでなく担当者も加わりコースを赤チームと青チームに分け、毎回 3 ゲーム程度、対抗試合をしました。

ここ数年、ひかり学級で継続的に取り組んできた活動でもあり、それまでスポーツコースの活動の主流だったキックベースボールやボウリングと違い、車いすを利用して、手で投げるのが難しい青年もスロープを使ってボールを転がすことで、主体的にゲームに参加することができました。

目標の白ボールめがけて赤チーム、青チーム一人ずつ交代でボールを投げていくひかり学級独自のルールで試合を行いました。そうすることで、青年も全員参加し、一人ひとりにスポットが当たる活動となりました。力加減が難しく、かなりオーバーしてしまう青年もいましたが、目標の白ボールめがけて自分のチームの色のボールを投げるというシンプルなルールもあり、ひかり学級の青年の間で徐々にボッチャが定着してきたよう

に思われます。



③忠生公園散歩

活動でやりたいことを話し合う中で、散歩に行きたいといった意見が出されたことから、ひかり療育園近くの忠生公園に散歩に行き、体を動かしました。

年度当初のアンケートで外出を希望していた青年も多く、当日は久しぶりの外出活動だったこともあり、みんな生き生きとした様子でした。

公園では副班長の青年のリードでラジオ体操をした後、みんなで輪になってボール蹴りやフリスビーをしました。

ボール蹴りでは、ボールを蹴る相手を見ながらまっすぐ蹴る青年や、力強くボールを蹴る青年がいる一方で、あまり積極的にボールを蹴ろうとしない青年もいました。また、フリスビーでは投げる相手の名前を呼びながら上手にパスする青年もいましたが、ほとんどの青年は投げ方が難しく、うまくフリスビーを飛ばすことができませんでした。また、公園への移動では、早く歩く青年とゆっくり歩く青年との間で距離が出てしまうので、時々、担当者が声をかけながら歩きました。

コロナ禍でなかなか外出の機会がつかれなかったこともあり、久しぶりの外出活動、公園で体を動かしたり、広場のベンチで話し合いをしたりするなど、伸び伸びと活動することができ、青年の思い出に残る活動となりました。



④ペットボトルボウリング

忠生公園での話し合いでペットボトルボウリングがやりたいといった意見が出されたことから、10月と11月の活動でボッチャと併せてペットボトルボウリングを行ないました。

ペットボトルボウリングでは、スイートゆめいろ創作コースが描いた絵を貼ってつくったペットボトルを使い、ボッチャと同じ赤チームと青チームに分かれて一人2球ずつ投げて2試合ゲームをしました。

ボールを投げてピンを倒すというシンプルなルールで、以前から継続して取り組んでいる活動だったこともあり、多くの青年が楽しむことができました。



⑤歌とダンス

青年から活動で歌を歌いたい、カラオケをやりたいといった意見が出たことから、みんな好きな曲のCDを持ってきて、それを聴きながら歌ったり踊ったりしました。

CDは一部の青年しか持ってきませんでしたが、その青年がどのような曲が好きなのかお互いに知ることができました。また、CDを持ってこなかった青年も一緒に歌ったり踊ったりすることで他の青年も楽しむことができました。



⑥絵と折り紙

絵を描いたり、折り紙を折ったりしたいといった提案が青年からあがり、歌とダンスの活動の後、みんなで取り組んでみました。

絵や折り紙は特にテーマを決めずに、一人ひとり好きなものを画用紙に描いたり、折り紙で折ったりしていきました。絵を描く活動では、「自分と海」の絵や赤青緑ピンクの色をきれいに塗った花の絵を描く青年、鶴の絵を描いてハサミで切り抜く青年がいました。また、折り紙でも折り鶴をたくさん折ったり、ロケットとダイヤモンドを作ったりする青年など、一人ひとりの個性を発揮して作品を作ることができました。

ただ、半日の活動で、前半歌や踊りを踊ったため、時間がなく、一人ひとり作った作品をお互いに確認できないまま時間切れとなってしまいました。



⑦クリスマスツリーづくり

青年から12月のクリスマス会に向けて、クリスマスツリーをつくりたいといった意見がでたことから、みんなでクリスマスツリーづくりをしました。

折り紙をつかって飾りをつくる青年と、ダンボールと模造紙でクリスマスツリーをつくる青年とに分かれて活動しました。

ダンボールをツリーの形にカッターで切ったり、緑色の模造紙をダンボールに貼り付けたりする青年や、折り紙を星や雪の形に切り取ったり、モールづくりをする青年など、みんなで協力してクリスマスツリーという一つの作品を作ることを目指しましたが、半日の活動では時間がなく、次回に持ち越しとなってしまいました。クリスマス会当日の活動で完成させるはずでしたが、急遽、新型コロナウイルスの感染拡大防止により活動が休止となったためクリスマスツリーを完成させることができませんでした。



4. 課題と展望

今年度のエールハイキングコース、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言や蔓延防止の方針により当初予定していた16回の活動のうち、半分の8回しか活動することができませんでした。そしてその活動も三蜜を避けることや感染リスクの高い集団での昼食を避けることから、一日通してではなく半日の活動となってしまいました。

結果的に一年を通して継続した活動がほとんどできず、単発的な活動が多くなってしまい、クリスマスツリーづくりなども完成させることができないまま終わってしまいました。

また、欠席者もコースとしては少ない方でしたが、毎回2～5名、最後の3月は9名の青年が欠席したこともあり、ねらいにしていた仲間意識を深めていくような活動や、みんなで協力して一つのものを作っていく活動が十分できませんでした。

その他、新型コロナウイルスの影響で、参加を見合わせる担当者もいたため、担当者体制も厳しい状況が続き、青年のフォローを十分することができなかったように思われます。

ただ、そうした中でも断続的ではありましたが、何回か「ボッチャ」の活動に取り組むことができました。久しぶりにやるボッチャで青年が主体的にルールの確認をしたり、活動が終わってから「また、次回もボッチャやろう」といった発言が青年から出たりするなど、ここ数年で確実に「ボッチャ」がひかり学級のスポーツとして定着してきたと言えるでしょう。

今後の展望として、新型コロナウイルスの影響が落ち着くのを待ち、担当者体制を整えるとともに、オリンピックイヤーといったことも鑑み、ボッチャをはじめとしたパラスポーツを積極的に活動に取り入れ、ひかり学級の中で青年たちが参加しやすいようにルールをアレンジするなど継続して取り組むことで、学級活動も発展していくのではないのでしょうか。

ひかり学級 スイートゆめいろ創作コース

活動の流れ

6月7日	コロナウイルスの影響で中止
6月21日	コロナウイルスの影響で中止
7月5日	自己紹介、七夕
7月19日	コロナウイルスの影響で中止
9月6日	係・コース名決め、ペットボトルボーリング
10月4日	カラオケ風
10月18日	ハロウィンの創作活動
11月1日	忠生公園へ外出
11月15日	陶芸(紙粘土で創作活動)
12月6日	陶芸(作品の色塗り)
12月20日	コロナウイルスの影響で中止
1月17日	コロナウイルスの影響で中止
1月31日	コロナウイルスの影響で中止
2月14日	コロナウイルスの影響で中止
2月28日	コロナウイルスの影響で中止
3月14日	話し合い

1. スイートゆめいろ創作コースの特徴

男性9名、女性4名から構成されるコースです。創作活動に興味を持った青年が集まっており、「ものづくりがしたい」や「絵を描きたい」といった意見が出ることが多いです。車椅子を常時使用する青年やトイレ介助・食事介助が必要な青年が一人もいないため、あまり差が広がらずに活動することができました。

2. 活動のねらい

ひとつのものをつくり上げる過程で、考えたことを目に見える形にしていくことの喜びや創意工夫をすることの楽しさを感じ、社会性につなげていくことをねらいとしました。また創作活動を通して自己表現をし、それをお互いに尊重し合える場をつくることを意識しました。

3. 活動の様子

(1) 創作活動

①七夕

短冊や七夕飾りを作りました。短冊には仕事関係から趣味、好きなことに関するお願い事など様々でしたが、コロナウイルス終息や早く丸一日活動ができますようになど、例年には無かったコロナウイルス関係のお願い事が目立ちました。昨年度の反省を生かし折り紙の色味を増やしたことや、午前中に活動したコースの飾りがついた笹



を利用したことで、とてもカラフルでにぎやかな笹となり、大きなものを作った、という達成感が味わえました。

②ボーリングのピン作り

スポーツをしたい、という意見と、絵を描きたい、という意見を合わせ、ペットボトルに絵を描いてピンを作り、ボーリングをすることにしました。ペットボトルに直接は描きづらく、またあまり発色せず見づらいと感じたため、画用紙に絵を描きそれをペットボトルに貼るという方法で作りました。遠くから見ても誰が作ったピンが分かるほどはっきりしたデザインのピンができましたが、画用紙を地面に触れる位置でペットボトルに巻き付けて貼ったため、ピンが倒れづらいという事態が起きてしまいました。ボールの勢いがあれば多少は倒れるので青年は気にしていない様子でしたが、画用紙を使ってペットボトルボーリングのピンを作る際は、地面から浮かすように貼る、や、ペットボトルの形に添わせて貼る、などの工夫が大切であると感じました。



③ハロウィン

画用紙にハロウィンの絵を描きました。ハロウィンの絵を描きましょう、とざっくりな説明で丸投げしてしまったため、最初はどのような絵を描けばいいのかわからず手が動かない青年が多く出てしまいました。担当者がホワイトボードに描いたいくつかの絵を見たり、他コースが使っていた飾りを見たりしたことでようやく描き始めた青年が多かった印象です。ハロウィンのイメージ画像を用意したり、具体的なテーマを伝えたりするべきであ

ったと感じました。

また、おめんを作りたい、という意見も出ていたため、色画用紙に目の部分の穴をあけ、輪ゴムで耳に引っ掛ける部分を作り、個々で好みの絵を描いておめんを作りました。眼鏡やまつげを描いて顔風にする人や、好きなものの絵を描く人など、個性豊かなおめんが出来上がりました。作ったおめんをつけている自分の姿を鏡を見て、変なの！や、おもしろい！という声が上がリ、気に入って持ち帰る青年もいました。



（２）カラオケ

カラオケに行きたい、という意見が出たのですがコロナウイルスの問題もあり実際に行くことは難しく、ひかり療育園内でカラオケ風に歌を歌いました。各々好きなCDを持ち寄り、一人ずつ順番に前に出て歌いました。CDが無い場合でも曲名をリクエストし、担当者がスマートフォンなどで探して流すことができました。感染拡大防止の観点からマイクの使用は避け、基本的にマスク

着用のままの歌唱となりましたが、好きな歌を歌ったり、音楽に合わせて体を動かしたりと、普段のカラオケのように楽しんでいる様子が見られました。

（３）外出

忠生公園に外出しました。全員で輪状に広がり、ボールやフリスビーを使って体を動かしました。担当者も中に入ること、全員にまんべんなくボールやフリスビーが回るようにしました。外出ということで他コースから応援で担当者を入れてもらったため、行き帰りは一人の青年に対し一人の担当者という体制がとれ、いつもよりゆつたりと歩くことができました。



（４）係決め・コース名決め・話し合い

係決めは全員立候補でスムーズに決まりました。コース活動が半日のためお弁当係などは出番が無いのでは、という懸念もありましたが、この係がいい、という青年の強い希望もあり、丸一日

活動ができるようになることを願って例年通りの係体制で決めました。

コース名は一人ずつコース名に入りたい言葉を挙げていき、その中から多数決で多かったものを組み合わせて決定しました。単語というよりもすでにコース名になっているものを挙げる青年が多かったです。自分もそれがいい、とすでに出ている意見を支持する青年が多かったためあまり数は挙がらず、全部で5つの案が出ました。多数決の結果「スイートゆめいろコース」と「ゆめいろ創作コース」の2つが票を集め、似ているからくっつけてしまってもいいのではないかと、という意見から2つを合わせ、「スイートゆめいろ創作コース」となりました。

話し合いは例年より機会が少なく、上記の係・コース決め以外では次回の活動は何をするかといったもののみとなってしまいましたが、班長や副班長を中心に話を進めていました。意見を出す青年は限られていましたが、一人ずつに確認を取り、全員が話し合いに参加できるようにしました。



4. 課題と展望

今年度はコロナウイルスの影響で、例年と大きく違った活動となりました。活動は半日だけ、密を避けるなど行動が制限される中で、どうすればこの活動ができるのか？と、青年も担当者も毎回試行錯誤しながら行いました。スイートゆめいろ創作コースは創作活動がメインのコースのため、他コースより声を出したり活動を大幅に工夫したりすることは少なかったですが、それでもでき

ることの制限は多く感じました。今後いつまでこの状況が続くか分かりませんが、活動を活性化させることやマンネリ化を防ぐことのためにさらなる工夫が必要だと感じます。

またこちらは例年通りとなりますが、担当者の不足が今年度も目立ちました。個人での創作活動が多く、その中で一人ひとりに目をかけたりサポートしたりするには担当者が足りず、何をしていたか分からずぼーっとしてしまう青年が出てしまうことがありました。半日での活動だったため、午前中のコースの担当者が応援として午後も参加することで活動が成り立ちましたが、もし丸一日の活動に戻った場合かなり厳しい状況であると感じました。スイートゆめいろ創作コースというよりひかり学級全体の課題となりますが、早急に解決すべき課題であると言えます。



ひかり学級 ゆかいなフラワーコース

活動の流れ

6月7日	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
6月21日	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
7月5日	自己紹介・七夕の短冊作り
7月19日	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
9月6日	話し合い（今後の活動内容について）・係決め
10月4日	外出（忠生公園・ケーキ屋）・コース名決め
10月18日	楽器作り・ハロウィン
11月1日	話し合い・新曲作り
11月15日	話し合い（クリスマス会について）・新曲作り
12月6日	話し合い（クリスマス会について）・新曲作り
12月20日	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
1月17日	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
1月31日	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
2月14日	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
2月28日	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
3月14日	話し合い

1. 集団の特徴

男性5名、女性6名の計11名

今年度は開級式の実施ができなかったため、事前にヒアリングを行っていたアンケートを元に、担当でコース分けを行いました。

歌作りや楽器を弾くこと等の音楽活動に興味のある青年が中心に構成されています。

学級歴20年以上と長く、青年同士の関係性も良好です。

2. 活動のねらい

次の3つのねらいを掲げて一年間の活動に取り組んでいきました。

- ①音楽活動、創作活動を通して青年の得意なことや好きなことを活動に活かし、一人ひとりが輝く場面を作る。
- ②青年一人ひとりの思いを歌や作文等で表現する。
- ③活動を共有することや話し合いを通して、お互いに感じたことや思いを表出し、青年同士の仲間意識を深める。

3. 活動の様子と評価

(1) 音楽活動

①オリジナルソング作り

毎年、創作コースではオリジナルソングを作っていることから、複数の青年から「オリジナルソングを作りたい」と意見があがりました。

曲作りに慣れていない青年もいたため、まずは、担当者から青年一人ずつにどんな言葉を歌詞に入れたいか聞き、その言葉を繋げて歌詞を作りました。

青年からは「働いていることがたのしい」「輝き」などの前向きな言葉が出ました。

曲作りを通してお互いの仕事の話を聞くことができました。

また、新型コロナウイルスの影響で、学級活動への参加を控えていた一人の青年が「いのちの大切さを伝えたい」という題名の詞を考え、活動参加時に他の青年たちに披露しました。

若葉とそよ風のコンサートのテーマが“命の大切さを伝えたい”に決まったことや、コロナ禍での外出自粛の中で感じたことをきっかけにできた歌

詞です。

歌詞を聞いた他の青年からは、「いいんじゃない、作ろう」といった意見や、「悲しみという言葉は変えたい。いつでも楽しいことはあるから明るい曲にしたい」のような意見もありました。青年たちが真剣に曲を作っていることが伝わる場面でした。

(資料) 青年が書いた歌詞

“いのちの大切さを伝えたい”

いのちの大切さを伝えたい

いのちの大切さを伝えたい

悲しみ抱えていたいつの日も

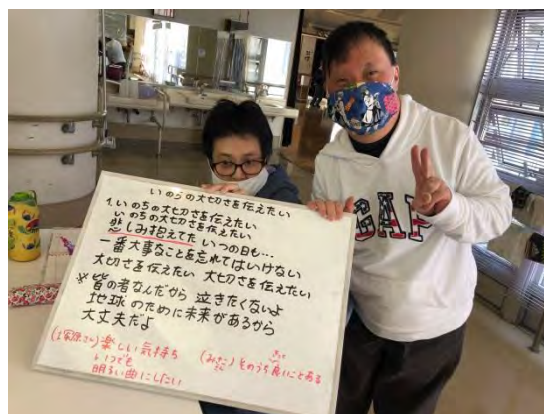
いちばん大事なことを忘れてはいけない

大切さを伝えたい

大切さを伝えたい

みんなのものなんだから 泣きたくないよ

地球のために未来があるから 大丈夫だよ



②楽器作り

青年から「楽器を作りたい」と提案があったことから楽器を作ることになりました。

ペットボトルを使ったマラカス楽器を作る作業では、好きな色のペンを使い、ひとつひとつ丁寧に模様を書いて仕上げました。

他には、カスタネット作りを行いました。丸みの帯びたカスタネットに色をつける難しい工程を、集中して取り組みました。

完成した楽器をみて、つどいの活動が再開できるようになったら作った楽器を使いたいと話す青年もいました。

また、活動を終えた青年から「今度はタンバリンも作りたい」と意見が出ました。



③楽器演奏・ダンス

朝と帰りの集いができなかったため、活動中に青年たちの好きな音楽を聴きながらダンスをする活動も行いました。

活動日ごとに青年がお気に入りのCDを持参し、身体を動かしました。

（２）創作活動

①七夕飾り作り

短冊に願い事を書きました。文字を書くことが難しい青年は、担当者が代筆を行いました。折り紙で七夕飾りも作り、大きな笹に飾りました。

“ビーフカレーライスをいっぱい食べたい”

“コーヒーを飲みに出したい”のようなやりたいことのほかに、

“みんなと会って青年学級をしたい”

“早くコロナが落ち着きますように”といった願いを書く青年もいました。

また、“〇〇くんへ。また一緒に曲をつくろうね”と活動へ参加できない青年にメッセージを書く青年の姿も見られました。

短冊に書いた願い事を通して、青年たちの思いをお互いに知ることができた活動になったのではないのでしょうか。

②ハロウィンの創作

10月の活動日にはハロウィンの創作活動を行いました。自分たちで好きなイラストを選び、お

面を作りました。

活動の最後にはお菓子を食べました。今年度は日帰り旅行やクリスマス会などのイベントがすべて中止となってしまったため、唯一開催することができたイベントでした。



（３）外出

①忠生公園

天気の良い日に、近くの忠生公園に散歩に出かけました。久しぶりの外出だったこともあり、参加した青年たちは終始嬉しそうな笑顔で過ごしました。

公園ではソフトフリスビーを行い、身体を動かしました。

どうやったら遠くに飛ばすことができるのか工夫をする青年や、思いっきり遠くへ飛ばす青年など、それぞれ楽しむ姿が見られました。

外出自粛の中、身体を動かす機会が少なくなってしまったため、青年たちにとって良い一日になりました。



4. 課題と展望

青年主体の活動にするために、担当者から次のような配慮を行いました。

(1) 青年の発言や学級活動中での頑張り、青年一人ひとりの良さを多面的に認める。

・言葉で自分の思いを伝えることが難しい青年の意見をとりあげ方の工夫をする。

(2) 発言が難しい青年へは提示する選択肢を増やし、より本人の思いを聞けるようにする。

(3) 自分以外の青年の発言や意見に、共感を示し、異なる意見を伝えることのできる話し合いの場を作り、お互いのことを認め合う環境を作る。

(4) 青年一人ひとりの個(好きなこと、苦手なこと)を理解し、活動内容に反映していく。

(5) 活動に参加することへの困難さを軽減するための支援や配慮を行う。(一日の活動内容の見通しを立てる等)

コースの中には言葉で自分の意見や気持ちを表出することが難しい青年がいます。そのため、話し合いの際にはホワイトボードに選択肢を書き、指をさして選んでもらい、話し合いを進めていきました。

活動に参加することより、担当者と話すことが好きな青年は、無理に活動に参加させず、本人の意思を尊重しました。

今年度は、新型コロナウイルスの影響のため、ひかり学級では半日の学級活動を行いました。緊急事態宣言や、東京都からの不要不急の自粛要請に伴い、担当者会議も十分に行うことが出来ず、活動をしていくにあたって難しい一年でした。ゆかいなフラワーコースは音楽活動を中心としたコースだったため、青年がいちばん興味関心のある“歌うこと”が制限された中での学級活動でした。実現可能なことを模索しながらの活動だったため、青年にとって十分な活動内容を提供することができず、課題として残りました。

今までのように青年主体でやりたい活動を行うだけでなく、どのような活動ができるのかを担当者から提示し、青年に選んでもらうことも必要だったのではないかと思います。

また、コロナ禍の中、参加ができなかった青年も多かったため、出欠確認の電話の際には最近の体調や、自宅やグループホームでの過ごし方などのヒアリングを行いました。

学級ニュースを送付する際にアンケートを同封し、青年たちの様子を聞くことも行いましたが、活動時にほかの青年へ共有が十分にできていなかったことが反省点としてあげられます。

最後に、担当者の体制不足も課題として挙げられます。外出時の安全性の確保はもちろん、充実した活動を行うためには担当者の体制を整える必要があると感じます。

ひかり学級 ライブダンス 2020 コース

活動の流れ

6 月 7 日	コロナウイルスの影響で中止
6 月 21 日	コロナウイルスの影響で中止
7 月 5 日	自己紹介、七夕飾り
7 月 19 日	コロナウイルスの影響で中止
9 月 6 日	夏休みの思い出話合い、ダンス
10 月 4 日	忠生公園外出、ダンス
10 月 18 日	ダンス、ハロウィンお面作り
11 月 1 日	ボッチャ、ダンス
11 月 15 日	クリスマス会に向けた話し合い、ハンドベル、ダンス
12 月 6 日	パズル、ケーキ屋下見、忠生公園フリスビー
12 月 20 日	コロナウイルスの影響で中止
1 月 17 日	コロナウイルスの影響で中止
1 月 31 日	コロナウイルスの影響で中止
2 月 14 日	コロナウイルスの影響で中止
2 月 28 日	コロナウイルスの影響で中止
3 月 14 日	話し合い

1. ライブダンス 2020 コースの特徴

男性8名、女性5名から構成されるコースです。ダンスや音楽が好きな青年が集まっており、「体を動かしたい」「筋トレしたい」や「外出したい」といった意見のほか、「和菓子食べたい」、「自分が知らないことを教えてもらいたい」といった変化に富んだ意見が出る人が多いコースです。

今年度からの新入の青年が1名、公民館学級から転入した青年が1名います。

車椅子を使用する青年が7名と多く、食事介助が必要な青年がいます。

2. 活動のねらい

集団活動を通して助け合い、仲間意識高めることも目標にしました。流行りの曲や青年が好きなCDを持ちより、ダンスや身体を動かす楽しさや協調性、達成感を味わうことを意識しました。

3. 活動の様子

(1) 運動活動

①ダンス

ダンス活動では、楽器を演奏し、音楽を流しながら踊りました。踊った曲は

- ーパプリカ
- ー紅蓮華
- ーゲットワイルド
- ーディズニー、
- ーチューチュートレイン
- ー世界に一つだけの花
- ー恋するポルカドットポルカ
(まちだガールズクワイア)
- ーライジングサン
- ーウルトラミュージックパワー
- ーUSA (ダパンブ)
- ー硝子の少年
- ー明日があるさ
- ーシンデレラガール
- ーホールニューワールド

などで、CDを持ちよって好きな曲を流しました。テンポのある曲を中心に選んだので、全員ノリ良

く踊りました。

②ボッチャ

ホールでボッチャをしました。2チームにわかれての対抗戦で、6回戦まで行いました。結果3対3の引き分けでした。

ゲームがすすむにつれて、レーンに椅子や人形を置いたりして、難易度を高めてみましたが、皆さん上手にボールを近づけることができました。



③ハンドベル

中止になってしまいましたが、クリスマス会に向けて、ハンドベルの練習をしました。1音ごとに担当を決めての演奏であり、久しぶりのハンドベルの演奏で最初は少し緊張しましたが、曲に合わせて順々にベルを鳴らし、とてもきれいな音を出すことが出来ました。

- 練習をした曲は、
- ー赤鼻のトナカイ
 - ーカエルの歌
 - ードレミの歌
 - ーきよしこの夜
 - ージングルベル

で、クリスマス会本番を目指しました。

(2) 創作活動

①七夕

創作活動では、七夕短冊づくりを行いました。はさみの扱いが難しい青年もいることから、短冊の紙は事前に用意しましたが、紐は各自で取り付けるようにしました。

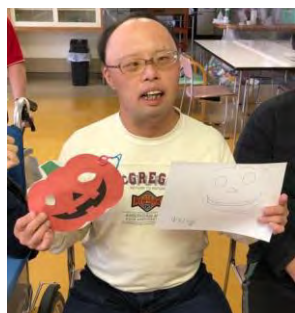
「ロマンスカーに乗りたい」「ディズニーランドに行ってミニちゃんに会いたい」「みんなと仲良くしたい」「早く歩けるようになりたい」など、願い事を書きました。

②ハロウィンのお面作り

出来だけ活動に参加できるよう材料の工夫をし、担当者がサポートにはいり完成させました。お面づくりでは、黒猫やカボチャのイラストを用意し、青年が好きなものを選び、各自はさみで切りぬき、目を描かいてと作業工程も多く大変でしたが、完成するまで集中して取り組みました。

用意したお面のほかに、画用紙にカボチャのイラストも描きました。同じイラストでも目の書き方に個性が出ており、それぞれ素敵なハロウィンの作品が完成しました。

最後に全員で写真撮影をして、ハロウィンのお菓子で用意していたシフォンケーキとチョコレートを食べながら全員の作品を振り返りました。



(3) 外出

1日の中で、短い時間の中で多種の取組ができるよう工夫しました。ダンス活動の合間に散歩を兼ねて忠生公園まで行き、フリスビーをしました。全員で輪状に広がり、柔らかいフリスビーを使って、担当者も交えて楽しみました。慣れてくるにつれて輪の大きさが広がっていき、長い距離を取って投げ合うことができました。誰に飛んでいくか、誰から飛んでくるかわからない、そんな時間を楽しみました。

また、クリスマス会は中止になってしまいましたが、ひかり療育園の近くのケーキ屋にクリスマスケーキの視察に行きました。色とりどりのケーキを前にクリスマス会が待ち遠しく感じました。



4. 課題と展望

今年度はコロナウイルスの影響で、時間が限られる中での活動となりました。ダンス活動が中心になりましたが、ダンスだけでは単調となりがちになるため、散歩や他の運動、創作活動を取り入れるなど、青年の年度当初の自己紹介で話された活動を可能な限り取り入れることにしました。

年度当初のコース自己紹介では、「みんな輪になって踊りたい」「公園に散歩に行きたい」「筋トレをしたい」などの意見ほか、「和菓子を食べたい」などの意見もありました。

また、一年を通して、参加する青年が少なかったため、スイートゆめいろ創作コースと合同で活動するなど集団活動を維持する工夫をしました。

担当者不足は最近始まった課題ではありませんが、コロナ後を見据えた担当者体制の構築が急務であると言えます。



第2章 自治運営

1. 班長会

(1) 班長会とは

コース間の情報交換や情報交流をする場であり、またバスハイクや成果発表会、クリスマス会など学級全体に関わる議題について話し合う場として班長会が行われます。外出等で複数コースが不在の場合は夕方に行うこともあります。

また、その日の班長会での出来事をまとめた班長会ニュースを持ち回りで執筆し、他の学級生への情報共有に努めました。各コースからは班長が、コースによっては副班長も参加し、班長会を進めます。

(2) 活動の流れ

今年度の活動はありません。

例年、昼休みの時間を使い、午後1時から1時半まで行っていますが、コロナ禍の影響で、一年をとおり、午前と午後のコースに分かれて活動を実施したため、班長会は開催しませんでした。

(3) 課題と展望

来年度は、毎回班長会を行い、細かな事でも情報共有に努めていきたいです。

第3章 考察

1. 今年度の活動について

2020 年度は、「エールハイキングコース」、「スイートゆめいろ創作」、「ゆかいなフラワー」、「ライブダンス 2020」の 4 コースに分かれて活動に取り組みました。

年間を通した継続的な活動の基盤となるコースについては、例年 4 月の「青年学級を語る会」での意見も加味していますが、コロナ禍により中止となったため、事前アンケートにもとづいて編成しました。例年、外出を希望する青年たちが半数以上に上がることを考慮し、各活動の中で、外出を取り入れての活動も視野に入れました。

今年度においても、ひかり学級では担当者不足等の理由から、4 コースで活動をおこないました。また、新しく 2 名の学級生を迎え入れました。新たな仲間を学級に迎えることにより、学級生の刺激となり、共助の部分をとおし、活動の幅を広げることができました。なお、担当者不足の状況は改善されておらず、今後も積極的な募集活動が必要になっています。

ここ数年、ひかり学級の秋の行事を合宿か日帰り旅行かのアンケートを取り決定しています。2013 年度からはバスハイクがアンケート、また、学級日での話し合いで優勢です。今年度はコロナ禍で中止となりましたが、近年合宿に行っていないこと、また、合宿に行きたいという意見もあることから、多数決だけで決定していくのではなく、少数意見にも耳を傾け、合宿と日帰り旅行を組み入れていくなどの工夫も必要になってきそうです。

2. 担当者の役割について

慢性的な担当者不足により、毎回土曜学級を中心とした他学級の担当者にも応援に来てもらいました。多い回数ではありませんが、コース活動にて近隣公園でのスポーツ活動や買い物などの外出を組み込むことができました。

担当者の役割として、青年の求めに応じた支援や、学級活動の環境づくりがありますが、「ともに活動をつくりあげていく人であること」が前提にあります。

また、青年が活動に参加しやすくなる工夫の一つとして、ニュース作りを行っています。毎回の活動報告と次回の活動予定を各コース 1 枚ずつ便りにして、活動日前に送ります。文章はわかりやすい表記で、活動時の様子が思い浮かぶような書き方を心がけました。また、青年の絵や作品の写真を一緒に載せることもありました。

今年度は、新たに数名の担当者を迎え入れることになりましたが、依然、厳しい担当者体制ではあります。

3. つどい

2020 年度はコロナ禍により実施できませんでしたが、例年だと、学級の最初と最後に全体で行う「つどい」の司会進行は、始まりはコースごとに順番で、帰りは「つどい・歌係」で行っています。リクエストにより、活動の中で作られてきた学級ソングを数曲歌いますが、曲のリクエストは当日その場で青年たちに聞き取りをしていくため、リクエストをする人と選曲に偏りが出ます。リクエストをする人や選曲の偏りを改善するために、帰りの「つどい」を担う、「つどい・歌係」を各コースから 1 名ずつ選出し、昼休みに、帰りの「つどい」で何を歌うかを決定しました。そうすることで、各コースの中で担当者のフォローの元、普段、リクエストをしない青年の声にも耳を傾ける工夫をしています。

4. 喫茶「のぞみ」

学級活動後の他コースのメンバー間の交流の場として、活動後にひかり療育園の調理室で行った喫茶活動です。2001 年頃の開始後、しばらく休止していましたが、2012 年から再開しています。メンバーは有志の青年で構成され、今年度は 2, 3 人の青年と担当者 2 名が定例的に参加していました。活動内容は、昼休みにお茶やお菓子の買い出しをし、活動後に喫茶の支度をし、一人 50 円の会費で開店しました。お茶出しが落ち着くと、お金の計算、出納帳に記録、状況報告などを共有しています。

2020 年度はコロナ禍により活動はできませんでしたが、以前、ひかり学級の今後を見据えて、一度話し合いをする必要性などの意見も挙がっていますが実現できていないため、それが課題と言えそうです。

第 4 部 土曜学級

第 1 章 班活動

土曜学級 2020 年度 星空ドルフィンスポーツ班

活動の流れ

6 月 13 日	中止
6 月 11 日	(電話で生活状況を聞く) ステイホームに伴い、職場が閉鎖されて自宅やグループホームで一日過ごす。 在宅時は運動不足解消にウォーキングをする学級生が多かった。
6 月 27 日	中止
7 月 11 日 午前活動	お試し活動で午前中のみだったが 4 カ月ぶりの活動では笑顔があふれていた。3 月から 5 月まで職場がお休みの所が多く、その間、家事の手伝いをしている青 年もいた。
7 月 25 日	中止
9 月 12 日 午後活動	午後からの活動。雨が降っていたが、せりがや公園に行き「ポケふた」探し。6 個のうち 4 個を発見したところで時間となる。 部屋に戻ってからポケふたのぬり絵に色を付ける。
9 月 26 日 午前活動	「今、気になっている事」の発表。やはりコロナのことが多かった。」 後半「ボッチャ」「ペッタンダーツ」「風船バレー」を行う。久しぶりに身体を 動かす。
10 月 10 日 一日活動	今年度初めての一日活動。 午後のミニ運動会で使用する風船に思い思いの絵を描く。応援用のポンポンを 作る。午後からのミニ運動会で汗を流す。
11 月 7 日 一日活動	年内の活動について相談する。料理、クリスマス会、新年会などの意見。 話し合いの後、9 月 17 日の活動で見られなかったポケふた 2 個を再度せりがや 公園に探しに行く。
11 月 21 日 一日活動	久しぶりの一日活動。 餃子、冷凍チャーハンなど。食べ終わってから餃子を作っている森工房に味の 感想を書く。 午後、クリスマス会でのゲームについて話し合う。「ボッチャダーツ」という新 しいゲームを考案。試しにやってみると力加減が難しいことがわかった。
12 月 5 日	中止
12 月 19 日	中止
1 月 9 日	中止
1 月 23 日	中止
2 月 13 日	中止
2 月 27 日	中止
3 月 13 日	中止
4 月 10 日	中止

2020 土曜学級星空ドルフィンスポーツ班



今年度の活動は、新型コロナの影響で開始も遅くなり、また、予定通りの日程で活動ができるかどうか予測がつかなかったため、昨年と同じ構成で班活動が始まりました。したがって、集団の特徴をはじめとして、昨年度と引き続いている内容が多くなっています。

1. 集団の特徴

集団の構成は、男性 7 名女性 4 名で、年齢は 20 歳台～50 歳代まで、学級歴も 3 年目から 30 年以上の経験者までと幅広い分布になっています。

CD で音楽を流したり、アイドルの話をしたりすると目を輝かす学級生がほとんどですが、青年学級では「身体を動かしたい」という希望でスポーツや外出をメインとする班を選んでいきます。

2. 活動のねらい

今年度の活動は、密を避けるために午前 2 班、午後 2 班と分けて活動することが多く、さらに話し合いは否が応でもコロナ中心となっていたことから、昨年度のねらいを継続しました。

- 「身体を動かしたい」という希望で集まった学級生なので、様々なスポーツや外出を多く取り入れていく。
- 学級生の入れ替わりが少ない班のため、活動がマンネリ化しないように新しい素材を取り入れていく。
- 集団を意識した活動を取り入れ、お互いの関係を強めていく

3. 活動の様子と評価

(1) ステイホーム期間の過ごし方

4 月 7 日の緊急事態宣言を受けて、学級生たちが通う職場も閉鎖するところが多くありました。開級式の開催が微妙になった 6 月 11 日、学級生に電話で生活の状況を聞いてみたところ、

- 4 月、5 月は仕事お休みでした。
- 職場から宿題が出ました。
- 運動不足になるので毎日散歩しています。
- 家族とドライブに行きました。

○ガイドヘルパーさんと出かけました。

等、家庭内でステイホームをしていることが分かりました。

(2) 短縮活動

【7 月 11 日】

今年度初めての学級活動は、密を避けることを主眼に午前中のみの活動となりました。4 か月ぶりに顔を合わせ笑顔がたくさん見られましたが、「感染が心配」とのことから 4 名が欠席でした。それぞれのステイホーム期間中の過ごし方を発表すると、家のお手伝い、家族と外出、職場から出た宿題をやっていた等、それぞれが工夫して自宅やグループホームで過ごしていました。

個別の対応としてマスクの着用と消毒をお願いしましたが、どうしてもマスクのできない学級生（無理やり付けると食べてしまう）についてはマスク無しで活動に参加しました。

【9 月 17 日】

午後からの活動。雨の中、せりがや公園にポケモンがデザインされたマンホールふた（ポケふた）を探しに行きましたが、昨年度から引き続いているメンバーなので、外出時も問題なく動けました。

【9 月 26 日】

午後からの活動。「今、気になっていること」をテーマに話し合いを行い、高岡さんの「新型コロナで芸能人が亡くなった」という発言からコロナ予防について話し合われ「うがい・手洗い・消毒」が出されました。職場やテレビでの予防に関するお願いがきちんと伝わっていることが分かりました。昨年度取り組んだ「ボッチャ」「ペタンダーツ」「風船バレー」で汗を流しましたが、ゲームが始まるとどうしても密を避けることはできませんでした。班活動はスポーツやゲーム等集団での活動が多いため、今後の活動では個々の手の消毒や室内の換気に注意することが確認されました。

（３）一日活動

10 月以降は通常の一日を通しての活動となりました。

【10 月 10 日】

午後から行うミニ運動会で使用する風船に思いの絵を描いたり、応援用のポンポンを作ったりと活動の見通しをきちんと立てた活動ができました。ハサミを使う仕事をしている学級生が、ビニールのヒモを手際よく裂いたので、他の班にも応援用のポンポンを配ることができました。午後からのミニ運動会は、班対抗のゲームが多かったため、久しぶりの運動や応援に熱が入り、部分的に密な場所ができてしまいました。昨年度までは、担当者も含めて活動に集中し一緒に喜びを感じる活動が多く、学級生も担当者も密着することが当然であったため、コロナ対策の一つである「ソーシャルディスタンス」を確たるものにするには時間が必要なのかもしれません。

【11 月 7 日】

今後の活動について話し合いました。「調理」「クリスマス会」「新年会」と意見が出されましたが、すべてが過去、青年学級や職場で経験したもののものばかりになりました。経験を覚えて次につなげることは、ある意味「見通しを持った行動」とも言えますが、新たな素材が出てこないところに、現在の活動の限界があるのかもしれません。ねらいにも示しましたが、マンネリ化しないような新しい素材の提供が必要ですが、今年度のような変速の活動では難しいものでした。

【11 月 21 日】

前回の活動で決めておいた調理活動。餃子・チャーハン・中華スープを作りました。調理は、学級生の大好きな活動の一つで、今回も餃子を焼く、チャーハンを炒める等、それぞれの役割をこなしました。普段調理をしない担当者より数段上手にチャーハンを炒めたり、後片付けの手際の良い学級生がいる反面、まったく手を出さず「おかわり」と言う学級生がいるなど家庭内での役割や位置づけが明らかとなる場面も見られました。午後の活動はイベント班から依頼された「ボッチ

ャダーツ」という新しいゲームを考えました。ボッチャもダーツも活動で取り組んでいたのでルールは理解しているので、話し合いはスムーズに進んで、「床にダーツの的を広げて、書かれた数字めがけてボッチャのボールを投げて止まったところの点数が入る」というゲームが考案されました。こうした新しいゲーム作りができたのは、過去の活動の中で既存のルールを自分たちなりのルールに変更して楽しんできた経験があるからだと考えられます。こうした「自分たちが楽しめるようなルールに変更」することは、ゲームだけではなく、日常生活の中でも行われていることが望まれるところです。

4. 課題と展望

個別の余暇の楽しみと集団活動

6 月、電話で生活の様子を調査した時、「ガイドヘルパーさんと遊びに行った」という回答があったことから、同行援護（ガイドヘルパー）という制度利用と青年学級について考える時期に来ていることに気づきました。

かつては青年学級だけが公的な余暇保障の場でしたが、近年、同行援護制度ができたことで、行きたい場所に行く等、個別に余暇を楽しむことができるようになってきました。青年学級は集団活動を基本としていますが、障がいの特性により個人で動くことを望む方もいます。一定額の負担により行きたい場所に行き、遊び・学ぶ等楽しみ幅を拡げることができる同行援護制度、また、町田市内で 100 ヶ所を超える数のあるグループホームにおいても、土日を楽しむための活動が準備されている所もあることから、余暇や学習を「集団」で行うか「個人」で行うかを選べる時代になってきています。

「余暇保障」、40 年前に掲げた旗印も今となつては少し色あせてきていることを自覚することも必要ではないでしょうか。



土曜学級 みんなのイベント班

活動の流れ

6 月 13 日	【開級式中止】
6 月 27 日	【中止】
7 月 11 日 10：00～12：00	今年度初顔合わせ。『近況報告と今年度の活動について』話し合い。
7 月 25 日	【中止】
9 月 12 日 13：30～15：30	『年末年始のイベントの企画』について Zoom を用いて話し合い。
9 月 26 日 13：30～15：00	生涯学習センター近所の浄運寺を散歩、帰り際各自が好みの飲み物を買って持ち帰り、学習室にて喫茶をしながら『ミニ運動会』について話し合い。
10 月 10 日 10：30～15：30	午前：ミニ運動会の準備作業 午後：ミニ運動会開催運営
11 月 7 日 10：30～15：30	『みんなのイベント班企画のクリスマス会』について話し合い 1 回目。
11 月 21 日 10：30～15：30	『みんなのイベント班企画のクリスマス会』について話し合い 2 回目。昼食は公民会カフェ。午後：公民館周辺散歩
12 月 5 日	【中止】
12 月 19 日	【中止】
1 月 9 日	【中止】
1 月 23 日	【中止】
2 月 13 日	【中止】
2 月 27 日	【中止】
3 月 13 日	【成果発表会中止】
4 月 10 日 12：00～15：00	特別活動 まちだガールズクワイアとの交流 2020 年度振り返り

1. 集団の特徴

コロナ禍の影響を受け開級式以降も活動実施可否が流動的だったため、2020年度としての班編成は構築できず、2019年度の集団構成のまま2020年度を終えています。

青年は、女性2名、男性8名。担当者は、女性1名、男性1名で構成されています。以前にも企画づくりの活動を経験した青年が半数と、今年は企画をしてみたいという青年が集まっています。話し合いも活発に行われている集団です。

2. 班活動のねらい

班活動のねらいも、2019年度を引き継いでいます。

- ・土曜学級参加者全員が参加できるような活動を考え意見を出しあい企画をまとめ楽しむ。
- ・その企画を実行するまでの過程の中で、他の青年の意見を尊重し、他班の青年のことも配慮し、進めていく。
- ・コロナ禍と向き合い、今年度の企画をする際は感染対策も併せて検討していく。
- ・コロナ禍という今まで経験したことのない環境の中で、どのようにイベントを企画し盛り上げていくか、青年みんなで考えていく。

3. 活動の評価

例年ですと、一年間の活動について総括しその内容を報告してきましたが、今年度は活動回数と時間も少なく、また、少ない活動ではありましたが、コロナ禍という状況から参加する青年も少数でした。

少ない回数ではありますが、活動内容を報告いたします。

(1) ミニ運動会

概要

今年度、唯一企画し開催されたイベント班の活動です。

広く知れ渡っている「ボッチャ」と「風船バレー」昨年創り上げた学級オリジナルの「ペッターダーツ」

そして初めての企画で「綱引き」この4つ種目を企画しました。

なんといっても コロナ感染拡大予防とその重要性を青年と共有し、密を避けることを念頭に考えました。

各班への協力依頼

ミニ運動会は、生涯学習センター屋内で行う。

土曜学級の4班全員が参加する。

9月の活動で草案をつくり、その内容を他の班へも事前に伝え参加の同意を得ました。

具体的な運営については、イベント企画へ一任されました。

開催

当日は各班が使用している部屋も会場の一部として利用させていただきました。

ホールを競技場所として設定。

ホールに入るのは競技者（班）だけ。

競技に参加しない班は、音楽室やプレイルームから応援。

競技をするホールと、応援する音楽室やプレイルームは、Zoom でつないでオンライン中継。タブレットの画面を見ながら応援。応援の声はホールに設置の端末から競技者（班）へ届けました。

インターネット回線を活用することで、当日は、生涯学習センターに来場できない青年宅ともつながり、自宅からオンラインでミニ運動会へ参加していました。

短い時間での開催となったミニ運動会ですが、最後の種目「綱引き」は、みんな一丸となって楽しくできました。

一方で、参加者の気持ちも高揚しホールで応援する青年も増えてきて、ソーシャルディスタンスの確保が厳しくなる場面もありました。

残り数分だったので、ホールの中を競技者は中央付近、応援者はホールの壁際へ分散していただき、運動会は継続しましたが、活動が楽しく盛り上がると同時に、密の回避が難しくなるということを学びました。

(2) ミニコンサート

まちだガールズクワイアとの交流

12月に予定していたクリスマス会での交流が当初の予定でしたが、やはりコロナ禍の影響でクリスマス会が中止になりました。

例年ですと成果発表会を終え、次年度の体制を整

える時期である4月、生涯学習センターのホールの空いている日程を利用して“まちだガールズクワイア”の事務所と協議し、交流企画の開催となりました。

私生活でも、まちだガールズクワイアのコンサートに行っているKTさん。彼は沢山のグッズ収集や、何度もコンサートに参加しています。そして、その費用を捻出するために、自分のお小遣いの節約も心掛けていて、ペットボトル飲料は買わない、水筒を持ち歩いて節約をしているそうです。ですが、そのことも、彼の生活の楽しみであり、生き甲斐いにもなっているということでした。

一昨年は、“まちだガールズクワイア”の話題が多かった衛藤さんですが、今年は“まちだガールズクワイア”の話題を自身から切り出すこともありませんでした。しかし、4月のミニライブが始まると、衛藤さんは、「やっぱりいいね」と涙を出して喜んでいました。

当日は通院のため学級を欠席していたOJさんも、自宅とミニライブ会場をZoomでつなぎ、オンラインで鑑賞していました。その様子に気づいたまちだガールズクワイアの皆さんも、カメラに向かって語り掛けるなど、OJとの一体感も演出していただきました。

今回のミニコンサートでは、町田ガールズクワイアの事務所側からも、以前のように踊ったり、舞台に上がったり、握手したり、並んで写真を撮ったりということは出来ませんと言うことは念押しされており、迎える私たちもそのことは周知しての交流イベントとなりました。

まちだガールズクワイアのメンバーと一緒に歌の振り付けや、ダンスを一体となって楽しむということで、青年達もコロナ感染の予防についての理解しながら、その環境の中でも楽しむことはできたのではないかと思います。

(3) 話し合い

青年も担当者も今まで経験したことのない生活状況となり、私たちもどのように青年学級に関わればよいか手探りの状況でした、青年学級の当事者である青年がどう過ごしているのか、どのように考えているのか、家での様子や仕事場での様子について話を聞き、互いに語り合いました。

やはり、コロナは怖いという認識のある青年も多く、生涯学習センターでの学級へ参加するため、感染が怖いのでバスには乗りたくないけど、乗るしかないから頑張ってきたという青年もいた。

コロナ禍初期は感染予防のマスクも嫌がっていた青年も、昨年後半にはマスクにも慣れ、こまめな消毒も身についていたように思います。

4. 課題と今後の展望

学級全体の活動を企画し、実行する班なので、話し合いが中心となり、その時間は長く集中力が切れることもあります。そのような時には、気分転換に外へ出るということも必要であることを感じています。

しかし、担当者2名という体制での活動が多い中で、外出した際に不測の事態が発生した時のリカバリーを考えると生涯学習センターの周りを散歩する程度の時間と距離の規模が限界でした。また、外出となると、車いすを利用する青年も2名いて、生涯学習センターの職員にも一時的な応援を願う必要があるので、長時間の応援も厳しくなっていました。

今後、コロナ感染予防を踏まえての活動、特に企画の大部分は話し合いとなるので、話し合い環境への配慮が欠かせません。

Zoomを使ったオンラインでの話し合いも数回試行しました。青年自身もタブレットやパソコンを使つてのオンライン会議には興味を示し、ある程度の話し合いもできましたが、自宅やグループホームといった施設で生活する青年がZoomなどのオンライン会議に参加するためには、パソコンやタブレット、スマートフォンなど端末の用意、インターネット通信環境の用意と接続など、家族や施設職員の協力、通信インフラを整えることが必要であります。

これら環境を確保できる青年と、環境を確保できない青年との間に生じる格差をどうするかということが解決できていません。そのため、現時点では生涯学習センターには集まらず、話し合いという活動をオンラインだけで行うのは不適切であると考えています。

しかし、オンラインという環境が整えば、体調が悪く外には出られないが、話し合いなら参加は可

能という青年には、とても有効なツールだとも考えています。

コロナ禍を通じて青年学級活動を考えると、改めて、青年どうし、青年と担当者、互いが目と目を合わせ、時には手をつなぎ、言葉を交わすことは、コミュニケーションの基本であり、大切なことであるということ、それが青年学級本来の在り方であり、それを継続していくことの大切さも感じる一年でした。

土曜学級 美術工芸（あじさい）班
活動の流れ

6月13日	中止
6月27日	中止
7月11日	新型コロナウイルスの感染拡大防止の取組の中、試行として半日活動。 紙コップで風鈴づくり。
7月25日	中止
9月12日	半日活動。芹が谷公園でポケ蓋（ポケットモンスターのマンホール蓋）。
9月26日	半日活動。芹が谷公園散歩。喫茶けやき。
10月10日	今年度初めての午前・午後を通しての活動。午前中はハロウィンの飾り作り、午後からは学級全体のミニ運動会。
11月7日	カレンダー作り。午後から芹が谷公園、シバヒロ散歩。
11月21日	薬師池公園、ダリア園など散策。往復はバスを利用。
12月5日	中止
12月19日	中止
1月9日	中止
1月23日	中止
2月13日	中止
2月27日	中止
3月13日	中止

1. 集団の構成、特徴

新型コロナウイルスの感染拡大の影響により 6 月まで開級を見送っていましたが、青年たちの要望を受けて生涯学習センター及び担当者会議で協議を行い、7 月から半日単位での活動を開始しました。

班の構成は2019年度からの継続で、男性10名、女性2名が参加、計12名と、土曜学級の中では平均的なサイズの集団です。

一昨年度から一度も参加したことがないひとりの青年は、引き続き「ヘルパーが見つからない」との理由から欠席を続けています。2年前に一回来た時には数十年前を知る担当者と旧交を温め、また2019年度は家庭訪問したところ再会を喜んでくれていました。

全体的に言葉のコミュニケーションが難しい青年が多く、話し合いを行うときには担当者の適切な関わりが欠かせません。

また、落ち着いて座っていることが苦手な外へ出て行ってしまふ青年やトイレにいったん入るとそこから離れにくい青年がいて、担当者がその都度の対応を求められることがしばしばあります。

水を飲むことが発作の引き金になる青年もいて、父母交流会でのお母さんから特に配慮を求められています。

これらから、ひとつの作業に全員で参加することは難しい面がありました。

2. 活動のねらい

- (1) ものづくりの活動を通して、お互いに認め合い、落ち着ける集団作りを目指す。
- (2) ひとつのものを完成させる取り組みを通じて分担や協同を学ぶ。
- (3) 話し合ったことを目に見える形にしていく過程で作ることの喜びを体感する。

3. 活動の様子

(1) 班名決め

例年であれば集団作りは班名を話し合いで決めるところからスタートしますが、今年度は昨年度の班を継続しました。担当者からはそのことは話題にせず、また青年たちも疑問にも感じていなかった様子でした。

(2) 午前だけの活動 (3 回)

感染予防対策のため、7月11日、9月12日、26日は午前だけの活動とし、昼食の提供はありませんでした。

各回ともおおむね半数の参加を得て、1回目は室内で紙コップを使って風鈴づくりに取り組みました。



2回目と3回目は芹が谷公園への散歩に出かけ、ポケ蓋（ポケットモンスターのマンホール蓋）を探したり、喫茶けやきで休憩をしたりするなどしてリラックスして過ごしました。



毎週木曜日の晩の担当者会議の際に行っている出欠確認の電話確認で、ご家族から「うちの子はマスクをすぐ外してしまうんです。すみません。それでも（参加は）いいでしょうか」と繰り返し

尋ねられました。ご家族は周囲とのトラブルを心配されている様子でした。これには「私たちから声掛けします」と答えました。実際の学級日には、叱責や圧迫はせず、また執拗にならないよう気をつけながら声を掛けました。

青年たちの多くにとってウイルスという目に見えない脅威を理解し予防策をとることは難しいようですが、マスク着用が習慣化している青年もいました。

（３）ハロウィンの飾り作り

まずは既製品、次いでコピーした塗り絵を輪郭に沿って切り抜くペーパークラフトにひもを通し、10枚を連ねて吊るす飾り作りに取り組みました。



穴にひもを通すという多くの人が日常的に困難なくやっている単純な動作も、分解すると多くの複雑な要素からなっています。片手で紙を持ち、その位置を保持したまま他の手でひもを持ち、その間の距離を目測しながら手指の微調整を行います。表から差し込んだひもは、目に見えない裏側に伸びており、その空間構成をイメージしながらひもを通します。これらの一連の動作を行うことは、ひとによって難しいことを再認識させられました。

塗り絵のコピーを輪郭に沿ってハサミを入れる作業も難しい様子でした。刃を入れる線分を担当者が鉛筆で書いて可視化することでハサミを入れる青年もいました。

午後からは学級全体の行事として取り組んだミニ運動会に参加しました。

密集を避けるために他班が競技をしているときにはホールの外に出て待機しました。出入りの移動の都度の声掛けにスムーズに応ずる青年や、マイペースでホール内にとどまる青年もいて、必ずしも整然とはしていませんでした。このようなときも強い声掛けはせずに自然な流れに任せました。

感染防止対策との両立の難しさを感じられました。

また、生涯学習センターという広く市民に開かれた場所で学級を開催することの難しさも同時に感じられました。他面でこれは障害のある人を特定の場所に集めるのではなく、公共空間で一般市民と分け隔てなく活動を行うということでもあります。感染症対策の中でその意義があらためて認識されました。

（４）カレンダー作り

昨年度に続きカレンダー作りに取り組みました。昨年度はA3判にしたところ持ち帰りづらい様子が見受けられたことから、個別フォルダーを使った折り畳み式のカレンダーを作成しました。

A4サイズの1か月のカレンダーと、青年の写真と同じくA4にカラープリントして組み合わせました。青年たちも気に入った様子で、ご家族にも喜んでいただけたようです。

（５）薬師池公園、ダリア園など散策

秋の一日、薬師池公園祭りの見学を目的に外出しました。往復は路線バスを利用。互いに距離を取りつつ乗車しました。青年たちは車窓から眺める景色から目を離せない様子でした。

出発前に担当者が人数分のお握りを調達し、また現地で地元社会福祉法人が出店している惣菜を購入して昼食としました。

青年たちの晴れ晴れとした表情を見て、長引く外出制限の中で、休日に青年たちの生活を豊かにする青年学級の意義をあらためて考えることができました。

土曜学級 青空いなずま班
活動の流れ

6 月 27 日	中止
6 月 27 日	中止
7 月 11 日	コロナ禍での近況報告、わかそよのコンサート視聴、音楽
7 月 25 日	中止
9 月 12 日	夏休みの近況報告、ハンドベル（ドレミの歌）
9 月 26 日	音符作り、ハンドベル（ドレミの歌）、音楽
10 月 10 日	ハンドベル（ドレミの歌）、音楽、ミニ運動会
11 月 7 日	ハンドベル（ドレミの歌）、音楽、学級のやり方についての話し合い
11 月 21 日	お昼ご飯の買い出し、ハンドベル（ドレミの歌）
12 月 5 日	中止
12 月 19 日	中止
1 月 9 日	中止
1 月 23 日	中止
2 月 13 日	中止
2 月 27 日	中止
3 月 13 日	中止

1. 集団の特徴

昨年度に引き続き青空いなずま班は男性9名、女性5名の計14名で活動しました。

ただ、女性の1名が退級しており、新たに女性1名が加わりました。

全体としては音楽を聴いたり歌をうたったり好きな楽器の演奏に挑戦する集団です。

過去音楽班自体メンバーがある程度固まっていますが、青年同士の繋がりはまだあまり親密ではなく、そのために担当者を介して活動を継続していった中で仲間意識を育むことに取り組んでいきました。

2. 活動のねらい

- ・音楽を通じて青年の適性を見つけ出し、活動を明るく楽しいものにしていく
- ・また必要によって音楽以外の要素も取り込み幅広く活動する。

3. 活動の評価

(1) 話し合い

青空いなずま班としては、活動の見通しを立てるため、今後の活動を定める手段として行いました。

意見を言う青年もいましたが、自己表現の難しいと思われる青年に対し担当者がどれだけ意見をくみ取れていたかが課題でした。

今年度に関しては新型コロナウイルスの影響もあり、話し合いの時間は決定事項の決めや「新型コロナウイルスが無事収束したら？」という話題がメインでした。

(2) 音楽活動

青空いなずま班の活動の主軸になります。今年度はハンドベルの演奏をメインに音楽活動をやっていました。

活動中は「ドレミの歌」を練習しました。班としては練習の成果を発表する場がとれなかったことがとても残念なところです。

また、Bluetoothのスピーカーも使用し、昨年に引き続き青年の好きな音楽を流しました。

楽曲は青年のリクエストを基に担当者がYouTubeを使用したりサウンドプレーヤーを使用したりして流しました。

青年の普段聞いている音楽を知る貴重な機会でもあり、担当者としては最新の音楽を勉強するいい機会でもあります。

(3) お弁当の買い出し

前年度の活動で1度やった、好きなお弁当を買うという活動を今年度も1度やりました。

かつ丼や牛丼、好みの惣菜等青年各自で食べたものを自分自身で選び購入、お昼ご飯にしました。

4. 課題と展望

新型コロナウイルスの影響で活動が制限される今、マスクの着用、消毒作業の徹底等慣れない対応がとて多く、昨年度のテーマであった活動を「楽しむ」ことは残念ながら難しく感じました。「学ぶ」と「楽しむ」の両立どころか、それ以前に活動に対する疲弊感が青年に伝わってしまい、質の高い活動はとても難しいものでした。

展望としては、執筆現在でコロナワクチンの接種が始まり収束に向けてほのかな光明が見えてきたことだと思われます。

早くマスクをしなくてもいい、感染対策に気を遣わなくてもいい、感染防止の声掛けをしなくてもいい、そんな日が早く来ると信じて今後の活動を進めていきたいです。

第2章 自治活動

1. 班長会

(1) 班長会とは

班の代表者である班長、副班長が各班の意見を持ち寄って、学級全体に関わることについて話し合います。また各班の活動を報告し情報共有する場でもあります。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開級式がなくなり、体制として2019年度の青年がそのまま班長を引き継ぎました。

(2) 討議内容

10月10日	学級のやり方についての議論、今後の活動内容に関して
11月7日	つどいのやり方について議論
11月21日	学級のやり方についての議論、つどいのやり方についての議論

以上の討論をそれぞれ活動終了後の15時30分より15分ほど行いました。

(3) 班長会の評価

今年度の班長会は各班の情報共有の場としてではなく、討論の場、議論の場としての意味合いが強かったように思えます。

昨年のように班長会での取り決めも無く、各班に対する共有事項等の取り決めもありませんでした。

青年が活動の評価を自由に発言する場所になっていました。

これは土曜学級において次回の活動がすべて新型コロナウイルスの影響で先の見通しが立たないまままで終わっており、次回こうしよう、ああしようという話し合いが不十分になってしまい、その場しのぎの班長会になっていたと思われます。

班長会としても本来の役割である企画の運営や各班に対する相互の取り決めも無く、班長会として本来の役割をこなせたかということそこは課題になってくると考えられます。

来年度に関しても新型コロナウイルスの感染拡大の状況から活動自体の先行きは不透明であり、班長会と各班への相互の取り組みをまとめる場としての役割を果たすことができるのか、大きな疑問と課題が残ります。

問と課題が残ります。

展望としては、15分でも班長会を開催できたこと、各班長それぞれの活動に対する思いを述べられたことではないかと思われます。

新型コロナウイルスに関しても、ようやくワクチン接種が始まりました。

以前のような生活が戻ることを期待したいのと、土曜学級全体に関わるような各班に対する相互での話し合い班長会で各班の意見をもとに最終決定を下す土曜学級の流れを作る機関として改善をしていきたいです。

そのためには、班長一人一人が班の代表であるという自覚を持ち参加できるように、担当者や職員が班長会に関わっていけるようにすることが重要です。

今年度は「班長会を開催する意味とは」、というものを深く考えさせられた1年であったと思われます。討論の場としてだけでなく、情報共有の場、活動報告の場として「班長会を開催する意味とは」、改めて来年度以降を考えていきたいと思います。

第3章 考察

1. 土曜学級の概要

1997年度より、第2・第4土曜日に町田第二小学校の開放教室を利用して、公民館学級、ひかり学級に次ぐ第三の学級として土曜学級がスタートしました。

土曜学級開級当初は30名という規模の集団でしたが、30名で1つの集団として活動するには、自治活動の視点から見て規模が大き過ぎ、活動が行いにくいという点から3グループに分かれることにしました。

その3グループの形成方法についても、第三の新しい学級ということで、公民館学級やひかり学級のコース制ではなく、土曜学級では、各回の活動の中で出される青年の様々な要求を取り上げ、様々な素材に取り組む班活動の形態を取り入れてスタートしました。

公民館学級やひかり学級では、活動の素材を大よそ設定し、それをコースとして集団を形成していますが、そのコース制の良いところは、同じ要求を持った青年での集団が作りやすい点だと考えています。

一方、土曜学級では異なる要求を持った青年で集団を形成するので、多様化するニーズへの対応も可能となります。コース活動の良い点、班活動の良い点、それぞれ異なりますが、現在も班活動の形態を維持して活動を続けております。

(1) 体制づくり

毎年2月頃成果発表会を行いその年度の活動を終え、5月頃には前年度の班長や副班長、担当者、生涯学習センター担当職員で集まり、次年度どのような土曜学級としたいか「学級を語る会」を開催してきました。2019年度後期から新型コロナウイルス感染症予防のため、3月から5月頃に行う次年度体制準備ができませんでした。

そのため、2019年度の体制のまま、2020年度へ入りました。

(2) 2020年度体制

2020年度は青年46名で活動が始まり、昨年度に引き続き4班集体としました。

- ・青空いなずま班
(音楽、歌、楽器)
- ・あじさい班
(美術、工芸)
- ・星空ドルフィンスポーツ班
(ウォーキング、軽スポーツ)
- ・みんなのイベント班
(外出、イベントの企画)

2. 今年度行われた行事

(1) ミニ運動会

10月10日午後の2時間を使って、4班合同で取り組んだ活動です。

会場は7階のホール、種目は「ボッチャ」「風船バレー」「ペッタンダーツ」「綱引き」の4つ。活動休止が続くなか、久しぶりに顔を合わせ、皆が楽しみ大いに笑って過ごせました。

(2) 特別活動

2021年4月。通常であれば次年度の準備期間ではありますが、今年度は特別に学級日を設けて、まちだガールズクワイアの皆さんとの交流会を開催しました。当初の予定では、12月に予定していたクリスマス会で、まちだガールズクワイアのミニライブが予定されていましたが、こちらもコロナ禍の影響でクリスマス会が中止になりましたが、まちだガールズクワイアのご協力を得て実現した活動です。

まちだガールズクワイアの事務所からは、感染予防のため一緒に並んで歌ったり、踊ったり、握手したり、そして並んでの写真撮影も対応できないとの要望があり、それを尊重してのイベントでした。

ミニライブ会場と自宅の青年もオンラインでつなぎ、自宅に居ながら同じ時間と同じ空間を共有することもできました。

ミニライブを終えたまちだガールズクワイアの皆さんは、Twitterにて青年学級（土曜学級）と交流したことや、写真を投稿していただき、それをみた青年もとても喜んでいました。

3. 担当者の役割

(1) 担当者会議の見直し

今年度は、終始コロナ禍での活動であり、土曜学級としては感染リスク回避に重点を置き、3学級の中で一番多い活動休止の判断を行ってきました。

今年度の担当者会では、日々刻々と変化するコロナ感染状況と今後に予定される学級活動の開催可否判断の連続でした。

年度前半では、対面での担当者会がスタンダードでしたが、対面での会議だけでなくオンラインの会議も準備が必要になるであろうと話し合い、Zoomの使い方について説明会を開催し、後半は政府からの外出自粛呼びかけに応じて全員が自宅から参加するオンライン担当者会議がスタンダードとなりました。

オンラインで開催することで平時の19時から生涯学習センターで行われる対面での担当者会に間に合わない方も、オンラインであれば自宅から職場から学校から、あるいは出先から参加が可能になるなど、多くの担当者で難しい課題を議論することができました。

（２）青年とのつながり

活動休止が増える中、青年との接点は電話によるところが増えてきました。

青年の近況を聞き、それをニュースとして送付し仲間の青年がどのように過ごしているのか、共有する試みも行ってきました。

（３）自己研鑽

コロナ禍での学級運営を話し合っている過程で、私たちに何ができるのかという議論になりました。

その一つに各班での自治活動において、担当者からの情報提供や素材の提供があります。

私たちが何か新しいことをしようとしても、その発想は過去の経験や体験に基づくことが多いと思います。班の話し合いでも、青年は自身の経験や体験に基づいて、活動を考えると思います。そこへ新しい風を吹き込むのは、担当者からの情報や素材の提供が必要です。

青年はいろいろな経験をしているので、そこへ新しい経験を提供するということは、担当者も意識しなければ出来ないことだと確認されました。

つまり、活動を形成する上では担当者自身も素材の一部と考えられるのです。

小さな、取り組みでしたがZoomの活用も担当者のITリテラシー向上の一つとして取り組みました。

また、知的障害に対する理解と適切な支援を考えるため、担当者同士互いに推薦する書籍や文献も共有しあい、それぞれが読み感想をグループLINE上で自由にディスカッションしました。

４．課題と展望

（１）情報発信

学級からの情報発信としては、ニュースと実践報告があります。

町田市の青年学級には歴史があります。それは市外の同じように青年学級に関わっている方からは、歴史相応の期待があります。

学級以外の方が町田市の青年学級に寄せる期待と、ニュースや実践報告を通して伝わる青年学級の活動にはギャップがあると感じました。

学級から発信するニュースや実践報告の質についても今後は高めていく必要があると考えています。

（２）青年学級とは

青年学級が開設されて約50年です。

生活環境、社会基盤、障がい者への市民の理解、これらは50年前と今日では大きく変わっているはずです。

一方で、青年学級は現在も開設当時に掲げた目標「生きる力・働く力の獲得」を今日も受け継いでいます。

コロナ禍をきっかけに問いかけられたニューノーマル、新しい生活様式への対応が求められています。

世の中が目まぐるしく変化する中で、私たち担当者集団も含め、学級に関わる当事者全員で旧態依然とした活動を続けていてよいのか、このことは、土曜学級担当者会でも幾度か話題となりました。

答えを出すことは難しい問題ですが、先送りも出来ない問題だと認識しています。

第5部 地域への広がり

第1章 サークル活動

1. おなべの会

(1) 会の歩み

1980年度の青年学級成人班の活動で調理を中心に行ってきたメンバーからの「青年学級以外でも調理をしたい」「調理を続けたい」という思いから1981年にはじまった料理サークルで、月一回のペースで青年学級の無い土、日、祝日に、調理実習室で活動しています。

(2) 活動の流れ

まずロビーに集まり、受付で利用料（午前中は1780円、午後2030円）を支払い、鍵を受取り調理実習室に向かいます。部屋に入るとまず、メンバーの一人が会費300円を集め、ホワイトボードにその日のメニュー、必要な食材や調味料をみんな確認しながら書き出していきます。メンバーの一人がボードを見ながら手帳にメモを取ります。

次に買い物に行く人と残って食器や調理用具の準備やご飯を炊く人に分かれます。

買い物は、公民館隣のデパート地下のスーパーへ、10時の開店にあわせて出かけ、店では、必要なものをメモした青年が買ったものを一つひとつ丹念にチェックしていきます。レジで会計を済ませると、手分けして食材を運びます。

調理実習室に戻るとまず食材を、洗う、切る、を手分けして行っていきます。ごはんが炊き上がるまでの間や作業が一段落した際には、再びホワイトボードに向かって、今後の活動で作りたいものを出し合います。メニューを提案した人は、なぜこのメニューを作りたいかを説明し、最終的なメニューの決定は挙手による多数決で行っています。



(3) 2020年度の活動

20年3月29日 日曜日 公民館閉館で中止。

4月 同 中止。

5月 同 中止

6月 同 公民館開館するも様子見のため中止。

7月18日 土曜日 10:00～14:00 再開。当初3月に予定していたとりなべを冷やし中華に変更して実施。

8月 例年参加していたひかり療育園の納涼まつりは中止。

9月5日 土曜日 10:00～14:00 ハヤシライス

10月24日 土曜日 10:00～14:00 中華丼
（例年模擬店で参加の生涯学習センター祭りがウェブによる実施となったため、通常活動）

11月14日 土曜 10:00～14:00 クリームシチュー

12月26日 土曜 10:00～14:00 年越しそば
（鴨と半熟卵入り）

1月16日 土曜 9:30～12:30 海鮮ちらし丼(カニかま、しらす、マグロぶつ、アボガド、小葱)わかめ味噌汁 緊急事態宣言中のためメンバースタッフとも欠席多し。スタッフ2名確保できたので実施。

2月20日 土曜 10:00～14:00 ギョーザ お味噌汁

3月20日 土曜祝日 10:00～14:00 親子丼、お味噌汁、ポテトサラダ

4月17日 土曜 10:00～14:00 パスタ（ミートソース）と温野菜

5月8日 土曜 10:00～14:00 公民館休館のため中止

6月5日 土曜 10:00～14:00 お好み焼きとフルーツサラダ

(4) メンバーの入れ替わり

メンバーの構成については、「青年学級」か「とびたつ会」に20年以上参加している人が中心ですが、最近青年学級に入った人や入級が抽選で外れた人、その他の人でロコミ、公民館からの情報などにより新たなメンバーが加わっています。

一方、グループホームでの生活を始めるメンバーも増え、そこでの行事や人とのつながりができることから、おなべの会を卒業していく場合もあります。

40年近くほとんど休まずに参加していたメンバーが、一昨年11月から腰を痛めて入院。その後転院、高齢者施設入所となり長期に來られなくなっています。

ほかにも持病のてんかん発作が歩行中にも出るようになり、包丁を使う調理作業でも危険があるとの判断から長期に休んでいるメンバーもいます。

スタッフでは、青年学級元担当者が4名のほかロコミで3名、また、2019年から新たに加わった女性メンバーの母親も援助スタッフとして加わっています。2020年からは、青年学級に現在携わっているスタッフも2名参加しています。

(5) 活動の経費の確保

メンバーが参加しやすいよう40年前のサークル発足当初より参加費（材料費）300円を維持してきました。

2004年からは活動日前に案内はがきをメンバーに、2018年からはスタッフにも送っています。以前のように電話連絡や、活動日に次の予定を確認するだけでは忘れてしまう場合もあり、案内はがきを送ることで常に予定が確認でき、その日の活動に見通しを持って参加できるようになっています。その一方で、はがき代が年間1万5千円ほ

どかなり、スタッフやメンバーからカンパの協力をいただいています。

9年前からは公民館施設有料化となり、さらにその後の値上げもあり、半日の活動で約 2000 円（1 日の場合は約 4000 円）の施設利用料がかかっています。

そんななかで、2018 年度から町田市社会福祉協議会より歳末たすけあい地域福祉ボランティア活動助成金を受けることになりました。そのため、材料費以外の経費は最終的に助成金でまかなうことができ、スタッフの経済的負担も少なくすることができています。

（６）会場の確保と日程

以前は活動日を日曜日に固定し、場所の確保がなかなかできないことから、せりがや会館、市民フォーラムや忠生市民センターの調理室を活動場所とした時もありました。

しかし、活動場所を変えると、実質来られなくなってしまふメンバーもいることから、公民館の調理実習室が確保できる日を活動日とし、2020 年度はそのためもあってすべて土曜日での実施となっています。

午前中のみ活動では、12 時 30 分までに退出しなければならず、調理活動が押してしまうことから、できるだけ午前、午後と会場が押さえられる日に実施しています。その場合施設利用料が 4000 円近くなりますが、この点、社協からの助成金が充てられることが活動の大きな助けになっています。

会場の確保は、施設予約システムの抽選への参加という形で行っています。しかし、競争率とくじ運に左右されることから、スタッフが手薄の日にはしか確保できないなど、相変わらず悩みは尽きない状況です。

（７）新型コロナへの対応

新型コロナウイルス感染拡大により昨年 3 月から 5 月まで部屋の貸し出しが中止され、6 月についても自主的にお休みしました。このように長期の休会は初めての経験でした。7 月にはおそろおそろ再開、以後今年の 5 月の公民館休館で中止しましたが、ほかは継続実施できています。

基本的考え方、

障がいを持つ人にとっての大切な交流と社会参加の場、調理体験のできる場です。そうした大切な活動の場の持つ意味を再確認させられています。

一方で、活動内容である室内での調理と食事は、感染リスクが少ないとは言えません。

そこで、普段の会場である公民館が確保できない場合は、お休みとしますが、確保できれば、家

庭での検温のよびかけ、会場での手洗い、消毒、マスク着用の徹底、食事中おしゃべりしないなどの感染対策に留意しつつ実施を目指すこととしています。

参加については

メンバーは、本人、家族、寮の考え方に基づいてそれぞれで判断してもらい、スタッフは、感染や発症リスクの高い高齢者が多いので、無理しないでもらうとともに安全な実施のために、複数人数の確保を図っています。

実際には

感染者数や宣言の発出の有無によりスタッフ、メンバーともに実際の参加者数が増減します。また、新型コロナ禍で長期に休んでいる方もいます。そのため全体に出席者が減っており、例年 17～8 人で行っているところ、12～3 人で実施することが多くなっています。

２．とびたつ会

とびたつ会は、2004 年にはじまった本人活動の会です。当時青年学級は 180 人を超える人数と担当者の不足で青年学級を希望する若い人が入れない状況でした。また、各地では本人活動が活発になってきていました。そこで、本人活動の会を町田でもつくって、青年学級を卒業することで新しい若い人たちに青年学級を経験してもらおうと考えました。最初は 8 人でスタートしました。

（１）参加者

2020 年度の活動メンバーは 30 人でした。女性 10 人、男性 20 人。青年学級を経験した人 16 人、とびたつ会の直接入った人 9 人。車イスを利用する人が 8 人。ヘルパーさんと一緒に参加する人が 5 人でした。

（２）活動日と活動場所。

毎月第 2、第 4 日曜日 午前 10 時～16 時。会場はこれまで主にコメット会館 5 階ホールを有料で借用しましたが、防音工事にために使用できなくなり、公民館など公共施設を利用しました。コロナ禍の影響か、比較的確実に予約することができました。

（３）運営の体制

活動にあたっては、毎週木曜日 18 時から 21 時に公民館の一室で運営会議を開いて準備をしています。

本人活動ですが、支援者も 10 人ほど参加して活動を支援しています。

（４）2020 年度の主な活動

コロナ禍のため、4 月に緊急事態宣言が発出されると公共施設が使えなくなり、6 月上旬まで活動を中止せざるをえませんでした。6 月下旬から



再開しましたが、感染予防のため、参加する人は激減しました。

1月の2回目の緊急事態宣言以後は、公共施設は使えましたが、人数が10人に達しないようになりました。そこで、事前の聞き取りで、10人に達しない場合は中止として、それでも集まりたい人で、「やっぱりあつまりたい人の会」として、予約してあった部屋を、参加者で部屋代を出し合って借りて、活動を継続しました。以下特徴的な取り組みを記します。

①とびたつ会紹介ビデオづくり (7/12)

コロナ禍で大勢で集まることも、外出することも、他団体との交流も一切できなくなってしまいました。ちまたでは、パソコンを使ったりリモートでの交流が盛んにおこなわれるようになりました。それを意識して、とびたつ会の紹介ビデオをつくることに挑戦してみました。

②学習会「永野むつみさんのお話」(7/26)

初代青年学級「担当者」で、人形劇団「ひばりあむ」主宰の永野むつみさんを講師に「表現すること」をテーマに学習会を実施しました。学習会の中では絵本「おおきなかぶ」を読みました。この絵本の材料は「おじいさん」と「かぶ」な話。目的は「かぶを抜く」こと。テーマは「みんなで力をあわせることはステキなこと」。思想は「人生はうんとこしょどっこいしょだ」「人生はね、急がなくていいんだよ。うんとこどっこいしょをたのしもうぜ」という趣旨のお話でした。

③うたづくり

永野むつみさんがコロナ禍で「自粛」が言われたときに書いた詩「あたりまえのうた」「ぼくときみのあたりまえと」に、曲をつけて、歌をつくりました。

④センターまつりのための動画撮影

(10/11)

生涯学習センターまつりが初めてオンライン開催ということになり、町田市ホームページから見る約5分間の動画を作成しました。歌は「あたりまえのうた」と「わたしぬきにきめないで」でした。

⑤わかそよ準備会と実行委員会

とびたつ会の時間を利用して、10月11日に準備会を開き実行委員会の進め方について意見交換し(22人)、10月25日には実行委員会を開催しテーマについて話し合いました。(38人)以後の実行委員会は、公民館学級の中で開催しました。

⑥望年会

年末恒例の望年会は、飲食無しで、10月14日に亡くなった松崎匡さんを偲んで、サンシ・モンさんをゲストに歌をうたうことを中心におこないました。

⑦性教協リモート学習会

2月28日には、「“人間と性”教育研究協議会～性教育実践はじめの一歩一緒に学び合い、語り合い、知ることからはじめよう～」に8人で参加しました。まず、それぞれの団体が10分ずつ発表しました。とびたつ会は生涯学習センターまつりの映像を映したあと、自己紹介しました。その後、モアねりまの皆さんの動画「こまったこと」(セクハラ、パワハラ、スキンシップに関する動画を見た後、みんなで意見交換しました。

⑧町田市障がい者計画について

町田市障がい福祉課からの依頼で、「町田市障がい者計画(2021～2026)わかりやすい版」について、意見を求められたので、青年学級のメンバーも含め、読んで意見を伝えました。

(5) 活動を振り返って

2020年度の活動は、前年の多くの交流の活動から一転して、コロナ禍により、少人数による閉じた活動になりました。そのような中でも、動画の撮影と発信、リモート会議などを通じて、なんとか活動をつないでいきました。ことに2021年1月以降の「やっぱりあつまりたい人の会」については、記録として記しておきたいと思います。

(文責 松田泰幸)

3. スケッチ・ルーム

(1) 会の歩み

2012年「好きな絵を描く場を探している」という親の声から始まったこの日も9年目になりました。会員も青年と高齢者で、絵を描きたいという思いを共有した集団ができあがって来たところでした。

(2) コロナ禍での活動

しかし、コロナ禍のため公共施設の閉鎖により、活動は7月から3月まで18回になりました。HHさんは他県で暮らしているので町田に来ることができず、HJさん親子もコロナの心配から参加できませんでした。SHさんは8回の参加でした。会としては延102人の参加で1回に5人くらいの出席でした。

大きな部屋を借りドアと窓の開放、マスク着用などを心がけました。

(3) 会の運営

大きな部屋を借りられたのもまちだい社会福祉協議会のボランティア活動助成金をいただけたからです。その他、場所代として1回100円徴収しています。

(4) 展示

①生涯学習センターまつりオンライン発表

期間 10月30日～3月31日

HHさんに連絡すると15枚程の作品を送って

きました。また、パソコンやスマホで展示の作品を知り合いに見せたということです。

②銀座のギャラリー

期間 11 月 23 日～28 日

SH さん、HH さん出展しましたが、コロナ禍のため、本人は見られませんでした。

（５）活動場所としての文学館

今年度は文学館で活動しました。会員も講師も歩行困難により車での移動が便利なので駐車場が使えるのが良かった。

また、来館者が少ないので生涯学習センターより落ち着いて活動できると HH さんの発言もありました。

しかし、生涯学習センターのように、たまたま知り合いや職員が顔を見せてくれるような付き合いはできていません。

生涯学習センターまつりはオンラインでの発表また、今年度は町田市社会福祉協議会のボランティア活動助成金を 30,000 円いただきました。創作活動するためには、ある程度の広さが必要で、部屋代が支出の大きい割合を占めてしまうのですが、安心して部屋を確保することができました。

4. 上を向く会 ～気流～

（１）会の成り立ち

私たちの会には「風になる会」という前身があります。2020 年、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため「風になる会」はしばらくの間休会することになりました。

感染状況も落ち着き、今後の活動をどうするか、どうしたいかを、ご家族も出席して話し合いをしました。

- ・ 1 ヶ月に一度の活動を大切にしたい
- ・ 歌が好きだから、歌いたい、上手になりたい。
- ・ みんなと会いたい。

全員の活動がしたい！という気持ちを確認して、一人一人が気を付けて活動していくということで会を再開することになりました。

- ・ 自宅で検温を済ませる。
 - ・ 体調が悪い時は、無理をせず休む。
 - ・ 歌うときもマスクを外さない。
 - ・ 飛沫防止シートを準備し、その前で歌う。
 - ・ 使用したマイクは消毒してから、次の人が使う。
- 等々、感染対策もみんなで意見を出し合いながら決めました。

（２）会の名前

風になる会のメンバー全員が揃う状況になるまでは、違う会として活動したほうがいいのか、という意見が出ました。こちらも全員が同意見であり、会の名前も新しく決めることにしました。

そしてみんなで考えた会の名前、「上を向く会

～気流～」どんな時も上を向いていこう、気流のように空高く高く舞い上がろう！そんな思いを込めて決めました。

生涯学習センターに団体登録もし、ホームグラウンドとして集うことにしました。

（３）活動の様子

新しい先生を迎え、10 月より再起動しました。先生はピアノを演奏しながら指導されます。先生のモットーは楽しく歌うこと、上手く歌うことも大事だけど、まずは歌を楽しもう！が口癖です。いつもの活動では、活動日の 1 週間前までに、一人 3 曲程歌いたい曲を決めて先生に伝えます。それぞれが活動日までに練習をし、当日は何も見なくても歌えるほど歌詞を暗記する人もいます。

活動日のはじめには、一日の流れや歌う順番を決めて、発声練習をした後、一人ずつ歌の発表です。自分の歌いたい曲を自分のペースで、何より楽しみながら先生の指導のもとノリノリで歌います。

（４）会の運営

毎月第一土曜日が活動日です。一人 2,000 円の活動費を徴収しています。

家計簿ならぬ会簿を付けて、自分たちでお金の管理も始めました。

（５）課題と今後の展望

若葉とそよ風のコンサート、とっておきの音楽祭など歌のイベントには積極的に参加していきたいと考えています。自分たちの思いをまとめたものや、会のオリジナル曲などを発信したら、会のことも多くの人により分かってもらえるのではないかと、という意見が出て、作成に向けて話し合いをしています。メンバー一人一人が自分たちの活動、自分たちの会という思いが増してきました。

ただ、既存のメンバーは定着してきましたが、新規の会員は増えていません。

新規メンバーを増やすために、町田市広報の活動紹介コーナーに掲載したり、みんなでチラシを作成して配布したり、メンバー募集の案を出し合い、その活動もしていきたいと考えています。

歌がメインの会なので活動も慎重になりますが、前述のチラシの作成の時間や、話し合いの時間など、色々な活動が出来るようにしていきたいです。

とびたつ会活動経過(2020年4月～2021年3月)

	月日	内容	参加人数	場所
1	4月12日	緊急事態宣言により公共施設が使えなくなったため中止		
2	4月26日	緊急事態宣言により公共施設が使えなくなったため中止		
3	5月10日	緊急事態宣言により公共施設が使えなくなったため中止		
4	5月24日	緊急事態宣言により公共施設が使えなくなったため中止		
5	6月14日	緊急事態宣言により公共施設が使えなくなったため中止		
6	6月28日	緊急事態宣言解除後はじめての活動 近況報告	10 人	公民館
7	7月12日	近況報告 とびたつ会紹介ビデオ撮影	13 人	公民館
8	7月26日	近況報告 やまゆり事件から4年 町田市障がい者計画 午後＝永野むつみさん学習会「表現すること」	14 人	公民館
9	8月9日	近況報告 平和についての歌 仲間への残暑見舞いとビデオメッセージ	11 人	公民館
10	8月23日	近況報告 ビデオ「シェアしてみたらわかったこと」 どん焼きづくり	10 人	公民館
11	9月13日	近況報告 とびたつ会の歌を全部うたう わかそよについて	12 人	公民館
12	9月27日	近況報告 午後＝わかそよ実行委員会の準備会22人参加	11 人	公民館
13	10月11日	近況報告 生涯学習センターまつり用ビデオを撮影	13 人	公民館
14	10月25日	近況報告 メンバーのグループホームでの困った話につ いて議論 午後＝わかそよ実行委員会	14 人	公民館
15	11月8日	近況報告 今後の活動について 若そよについて	14 人	公民館
16	11月22日	近況報告 今後の活動について うた 見学者2人	13 人	公民館
17	12月13日	近況報告 今後の活動について アップルパイづくり	12 人	公民館
18	12月27日	近況報告 午後＝望年会：樋口三四郎ライブ 振り返り	12 人	公民館
19	1月10日	とびたつ会＝緊急事態宣言のため急きょ中止 集まった 人でけんちゃんうどんづくり	7 人	公民館
20	1月24日	中止 やっぱり集まりたい人の会＝牛丼づくり	5 人	公民館
21	2月14日	中止 やっぱり集まりたい人の会＝チョコパンづくり	9 人	公民館
22	2月28日	中止 やっぱり集まりたい人の会＝午後性教協リモート学 習会	7 人	公民館
23	3月14日	中止 やっぱり集まりたい人の会＝障がい者計画「わかり やすい版」検討 青年学級から3人参加	10 人	公民館
24	3月28日	若葉とそよ風のハーモニー結団式	10 人	公民館
		合計	207 人	

あたりまえのうた

キミとボクのあたりまえと

永野むつみ
とびたつ会
2020年8月13日

Chords: G, Em, D, C, G, C, Bm, C, D, G, D, G, D, Em, Bm, C, D7, Am, D, G, C, D, G.

あ たり ま え が う れ し い あ たり ま え が い と し い

あ たり ま え が な つ か し い あ たり ま え を あ き ら め な い

あ たり ま え を あ たり ま え に す る

あ たり ま え は あ たり ま え だ

ぼくのあたりまえ は ぼくのあたありま え

きみのあたりまえ は きみのあた りま え

みんなちがって みんない い だ から

きみのあたりあえ を きかせてく れよ

じぶんの ことばで ね ラーラ ラ ラ ラー

ぼくのあたりまえ も きいてお く れよ

ひらたい ころで さ ルー ル ル ル ル

かさなるところが みつかる かもしれ ない

G Em D C G
 C Bm C D G D
 G D Em G
 Am C D D7
 Am Am C G
 Am Am C D
 G G C G
 なー

きみのあたりまえ を ぼくのことばで ぼくは きき
 ぼくのあたりまえ を きみのことばで きみは きく
 おもしろいな ゆかいだな びっくりだ
 あたりまえは あたりまえだけど あたりまえじゃないんだ
 なー

第 6 部 学級を支える体制

第1章 担当者会・調整会・学習会

1. 担当者会議の概要

町田市障がい者青年学級では、学級活動に参加し支援する人を「担当者」と呼んでいます。2020年度は公民館学級27名、ひかり学級7名、土曜学級13名、合わせて47名、そこに生涯学習センター職員4名が加わり、合計51名が「担当者」として学級活動に参加しました。担当者は（8月と年末年始を除く）毎週木曜日の夜に生涯学習センターに集まり、学級ごとに「担当者会」と呼ばれる会議を行っています。

担当者会では青年の活動を支援し、学級活動を充実したものにするために話し合いが行われています。学級日前の担当者会では、活動内容やそれに向けて準備すべき点などを確認し、学級日後の担当者会では、活動全体や青年一人ひとりの様子を振り返ります。

学級日に外出する際には、担当者が事前に下見を行い、車いす用トイレやエレベーターの有無、昼食場所の確認なども行い、会議の中で共有しています。

また、青年がどのようなことを求めているか、その要求の実現に向けてどのような取り組みをしていけば良いか、学級での経験を本人の生活に即したものにしていくにはどうしたら良いかということも話し合っています。活動におけるコースや班での話し合いをいかに支援していくかということも担当者会で度々話されている議題のひとつで、自分の言葉で表現することが難しい青年の思いを活動に活かしていくため、出欠確認の電話連絡時や送迎の際に家族とコミュニケーションを取り合うことも担当者の重要な役割となっています。そういった学級活動以外の場面での取り組みについても、その内容を担当者会で共有し、「全体で取り組む体制」をつくっています。

（1）公民館学級

今年度の公民館学級は、担当者27名という支援体制でした。

学級活動としては2019年度の成果発表会が新型コロナウイルスの影響で中止となったため、昨年度のコースを継続し、6コース体制としました。2年かけて同じメンバーで過ごし、コース、学級全体の結束を強く感じた1年でした。

基本はコースごとの活動ですが、担当者が少ない日や合同で活動したい日には、一時的に他コースと活動することもあります。青年の家族からの声をきっかけに、昨年度は継続してオンライン学級を行いました。初回は6月の開級式でしたが、歌や近況報告など、担当者からの発信に留まって

いました。しかし青年からの感想を聞き、回数を重ねる中でオンラインでの活動の広げ方が見えてきました。その後身体を動かすにはラジオ体操・ダンス、季節のイベントとしての書初めやわかそよ実行委員会、最後は2年分の成果発表会を来賓も招き実施できました。普段の活動にオンライン学級も定着し、9月には社会教育研究全国集会の分科会、10月には生涯学習センター祭りの動画作成などへ発展していきました。

オンラインや活動時間・内容の変更など臨機応変さが求められる1年でしたが、担当者会の柔軟性が広がった1年でもあります。

2020年3月から公民館が休館となり担当者会・学級の再開見込みが立たない中、4月からオンラインで担当者会を再開しました。4月に前年度総括を行い、5月からは学級再開に向け検討しました。その中で青年の近況を確認しようと電話かけをして、5月に自粛期間中の近況を伝える学級ニュースを発行しました。青年も担当者も仕事のこと、家での過ごし方、新しい生活のことなど小さな日常を報告し合える仲間の存在の大きさを感じた瞬間です。見通しが立たず人と会えない中でも、電話や学級ニュースなど思いを共有する方法は沢山あります。

学級ニュース作成は作成者をコースごとに決めています。写真を撮ることや、青年との何気ない会話の中で面白いエピソードが生まれることもあります。そういった点も共有して、学級ニュースがより身近なものとなるよう心掛けました。

オンライン学級など、形を変えても開級式から活動できたのは、オンライン担当者会を続けていたことも理由の一つです。学級活動がない5月や8月はわかそよの映像を見て学習会も行いました。また遠方の担当者や帰省中の学生も参加できたり、議事録が取りやすかったりとオンラインの利点もあります。

ただ、意見を交わし合うにはやはり相手と同じ空間で顔を合わせるのが一番です。担当者会は学級について話し合うだけでなく、様々な世代の担当者間で話すことで新たな発見がある場でもあります。活動のみならず、担当者会の奥深さも学級の魅力として伝えていきたいところです。

また担当者会に出席できない担当者へは、メッセージアプリを用いての情報共有、当日担当者へは活動前に確認・報告を行うことで、スムーズにより高い意識を持ち活動に臨むことができます。

今後も厳しい支援体制が続きますが、担当者間での情報共有、担当者ひとりひとりが学級全体に意識を向け、気づいたこと、感じたことを共有して活動に深みを持たせていきたいところです。

（2）ひかり学級

今年度の体制は、職員2名、担当者と他学級等

の応援の 15 名程で活動が始まりましたが、応援担当者の割合が多く、昨年と同じ 4 コース制をしくことになりました。

桜美林大学の学生をはじめ、近隣にお住まいの担当者も増えましたが、継続して参画していただくことは難しい状況でした。年度終わりには、職員、応援等を除き数名の担当者体制でおこなうことになり、例年以上に厳しい状況となりました。

担当者会では、主に各コースの活動の振り返りと、次の活動予定を全体で確認することを中心に話し合いをします。振り返りでは、各コースの一日の流れや当日の青年の様子や発言、気づいたことなどを全体で共有しました。また、問題点の解決策を話し合ったりして、コース活動での参考として学んだり、より良い活動をつくっていくための担当者間の大切な情報共有の場となりました。次の活動の予定では、当日の担当者体制や、部屋割り、用意する備品、送迎などを詳細に確認していきましました。この確認によって当日はスムーズに活動に入ることが出来ました。そして、職員からの連絡事項やニュース作業について、全体で確認、共有していきましました。

担当者会に参加できない当日担当者が多く、例年は学級活動の後、ひかり療育園の退室時間の制約もあるなかで、30 分程度の振り返りを行っていましたが、コロナ禍による会場の使用の制限もあり活動ができませんでした。

担当者会は、19 時からほぼ閉館までですが、実質話し合いは、20 時ごろから始める状況でした。特に遠方から参加している担当者は、帰宅時間が夜遅くなります。安全の面からも、なるべく早く終わるように、担当者会の進行、内容面での工夫が必要ではないかと思われます。

（３）土曜学級

今年度の土曜学級は担当者 15 名（うち当日担当者 5 名）という厳しい状況が続いています。そのため昨年度に引き続き 4 班体制を継続しました。今年度はコロナ禍の活動ということもあり、さらに担当者ひとりひとりの負担が増えています。

活動直前の担当者会では出欠確認や活動内容、持ち物の連絡のため青年への電話かけを行います。この電話かけは、活動中に言葉で自分の意思を表現するのが難しい青年の自宅での様子や、長期の休み期間（正月、夏休み）の様子などを確認することができ、また家族や青年と信頼関係を築くために重要なものだと考えています。

そのほか学級日前の担当者会では、次の活動内容を班ごとに発表して送迎や部屋割り、応援者についてなど学級日当日の詳細を決めます。それ以外には生涯学習センターからの報告、青年の様子、連絡事項について全体で話し合いました。

学級日後の担当者会では、学級日当日の活動の

振り返り、班長会やつどい委員会の様子を話しました。担当者会の中では、さまざまな話をしていきました。内容によっては一度の担当者会では決まらない時もありますが、その時は次週の担当者会に持ち越しをして継続して話し合いました。

昨年度とは担当者の入れ替わりがほとんど無く、経験の多いベテラン担当者が中心となり班活動を行いました。年間を通して新しい担当者の参加が少なく特に若手が不足しているため、担当者の募集が急務になっています。

担当者会では事務的な確認のほかにも青年との関わり方や学級活動の意義といった活動を行ううえで重要なことが話し合われ、担当者同士の経験を伝える重要な場所です。しかし夜間に行う担当者会への参加が難しい当日担当者と、いかに情報共有を行うかが課題になっています。開級式直前や日帰り旅行直前、成果発表会直前などイベント前の、情報共有や話し合いが特に重要になる会議には当日担当者にも出席していただけるように呼びかけを行っています。今後、さらに情報共有と担当者の方向性を合わせることを目的として、学級日当日に振り返りの時間を設ける、夜間に出席が難しい人のため学習会を日中に開催する、また担当者会での議論の内容をニュースに記載し、当日担当者にも知ってもらおうといったことを検討し、より充実した学級活動が行えるように努めていきたいと思っています。

2. 学習会

（１）開催実績

①講演「なないろにおける新型コロナウイルスの影響と現状」

日時：7 月 2 日（木）19～21 時

場所：まちだ中央公民館 7 階ホール

講師：社会福祉法人ウィズ町田

なないろ施設長 阿部 弥生 氏

感想：

- ・職員や家族のつながりや声掛けがされていて参考にしたと感じた。
- ・手作りのフィルターやフェイスシールド、マスクが難しくても来れる工夫があった。
- ・家族の方やGHの方に学級生の様子、コロナ禍での気持ちや体調の変化などの話を聞く。

②くぬぎカレッジ視察

視察：文部科学省「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」事業である国分寺市恋ヶ窪公民館の「くぬぎカレッジ」を視察する。

日時：9 月 13 日（日）13 時～16 時 30 分

場所：国分寺市恋ヶ窪公民館

特徴：障がい者の生涯学習の一つの取組とし

て、青年 20 名（新規 2 名、国分寺市のくぬぎ教室参加者 18 名）支援者もほぼ同数の参加で、皮切りの 1 回目の活動。支援者もどのように支援していくのか悩みながらも、明るい雰囲気でした。

①ものづくりコース

（市民への周知を目指す）

リヤカーを解体し、ペンキ塗り



②表現コース

（コミュニケーション能力の向上を目指す）

講師のいしくらちょっきさん



綱引きのパントマイムの様子



③つどいの場

（交流のきっかけづくり）



（２）課題と展望

今年度も学習会委員主催の学習会を開催することができませんでしたが、調整会の中で、各学級の主事や職員からの提案による学習会を実施することができました。なないろの学習会での担当者間でのグループワークや、国分寺への市外への学習会が示すとおり、内外をまたぐ他組織との交流がキーワードとなりました。

このことは、近年、学習会委員が組織的に活動できていない中、社会教育の場として、担当者は青年に対する支援者であると同時に主体的な学習者でもあることを示す、ひとつの成果と言えます。

しかしながら、担当者間、そして職員と学習会の意義の再確認と、安定的な学習会を開催する仕組み作りが必要となっています。

3. 調整会

調整会は担当者会の代表の学級主事（各学級 2 名）と職員 3 名とで構成され、青年学級を実施するにあたり、全体的な条件整備や調整を行い、担当者会に提示していく役割を持っています。学級全体のことや、これからのことを考える会議でもあります。

今年度は、6 月 18 日、8 月 27 日、10 月 1 日、11 月 19 日、2 月 14 日の 5 回開催しました。

初回は、各学級の主事と職員の紹介、各学級の人数やコース、今年度の予定について報告を行いました。また、初期の緊急事態宣言解除後の学級再開に向けた対応策についても共有しました。

2 回目は、各学級の近況報告と、学習会案の頭出しなどを行いました。

3、4 回目も、引き続きコロナ対策、学習会案の検討や、わかそよに向けた話し合いを行いました。

5 回目は、成果発表会や新人募集などについて調整を行いました。

調整会という場の中では、学級を取り巻く様々な検討事項について、対処していくとともに、学級全体で取り組む事項に対応できたことは、一定の成果と言っていきたいと思います。

しかしながら、現在、学級生の高齢化や担当者不足など、青年学級には様々な問題があります。現在休止中の障がい者青年学級将来検討委員会を再開するなど、父母会等と一緒に青年学級の中長期的な問題を早急に考えていく必要があります。そのパイプ役を調整会が担っていくことができれば、解決の糸口が見えてくると思われます。

今後の青年学級をより良いものとするため、調整会の役割、運営の仕方、議論していく内容について職員とともに深く考え、検討していくことが求められます。

第2章 送迎検討委員会

1 これまでの経過

青年学級では学級開設以来、一人で学級に通ってることが難しい青年の通級をどう保障するかについて、大きな問題となっています。送迎の必要な青年の通級は、現在特定の青年への自主通級へ向けての援助を除いて、ほとんど家族の送迎に頼っているのが現状です。

担当者会では1981年度に、公的な送迎保障を求めて町田市長への要望書や市議会請願書（本会議で否決）を提出し、この問題をアピールしてきました。1992年度からは「青年の生活における送迎の意味や、今、青年学級でできることは何かを考え送迎保障をめざす」ことをねらいとして、『送迎検討委員会』を組織し、担当者会メンバーに父母会の役員も加わって検討を始めました。何回かの話し合いと青年及び家族への計2回の調査を経て、1995年度より一時送迎を実施することになりました。

この一時送迎をはじめめるにあたり、ねらいを「送迎する家族の事情で学級を休むことにならないよう」、しかもそれは「送迎を必要とする青年や家族と担当者個人との関係で送迎を行なうのではなく、『青年学級全体の取り組み』として送迎を行なう」とし、確認しました。

2 現在取り組んでいる一時送迎の内容

- ① 一時送迎が必要な人は原則として、学級日前の担当者会のある木曜日までに公民館へ連絡し、担当者会で送迎を行なう担当者を調整する。（当日の送迎の要請にもできるだけ対応していく。）
- ② 送迎方法については、自家用車では事故があった場合の保障が十分でないため、できるだけ公共の交通機関を利用する。
- ③ 送迎に要した費用のうち電車代・バス代については、青年本人の交通費は全額本人負担、送迎を行う担当者の要したバス代、電車代は送迎運営費から支出する。タクシーを利用した場合は、かかった費用の2割（端数は四捨五入し、100円単位で支払う）を青年が負担し、残りを送迎運営費から支出する。自家用車を利用した場合は、送迎運営費より送迎を行なった担当者に片道200円を支払う。
- ④ 担当者と父母で一人年間300円を負担し、これを送迎運営費とする。
- ⑤ 送迎中に事故があった場合の保障として、町田市の「全市民加入型 ボランティア活動災害補償保険」を活用する。

3 現在行なわれている送迎の状況

青年学級で行われている送迎には一時送迎も含め以下のようなものがあります。

（1）自主通級を目指して行なう送迎

自主通級する力はあるのですが、道順をなかなか覚えることができなかったり、ちょっとしたことで混乱してしまったり、安全に通級することが難しいといった青年に対して、将来的に自主通級できるようになることを目指し、援助をしています。

家まで迎えに行く、通級途中で待ち合わせるなど青年の状況に応じて行なっています。

（2）家族の都合で送迎ができなくなった場合の「一時送迎」

家族の体調不良などの利用により、いつも送迎をしている家族が送迎できない場合に一時的に担当者が送迎しています。その他に慶弔や、送迎を行なう車の故障、施設の一時利用のため等の理由があります。

一時送迎の制度が広まってきたことにより、送迎者の都合などで、学級に参加できないということが減っています。

しかし、親の高齢化や本人の施設やグループホームへの入居により、継続的な送迎保障がないと学級に参加できないという青年が年々増え、実態として「一時送迎」にとどまらない現実も出ています。

（3）普段とは違う場所で活動が行われる場合の送迎

ひかり学級の成果発表会は、いつもの活動場所であるひかり療育園ではなく、まちだ中央公民館で行っています。

このように活動場所が変わる場合、「行ったことがない」「普段行き慣れないところで不安」などの理由で、直接その会場へ行けない青年が多くいます。そこで一旦通り慣れた場所（まちだ中央公民館・ひかり療育園）に集まってから会場に向かうといった送迎体制をとっています。普段は送迎を必要としない青年にとっても、送迎は共通する問題であると言えます。

4 今年度の検討内容

今年度の送迎検討委員会は、2014年度に開催して以来、時間的な都合で担当者が集まることができず、開催することができませんでした。

なお、2019 年度に調整会の場で、送迎について話し合いが持つ機会がありました。その中では、ひかり学級では送迎をしているのは1名だけであること。土曜学級には送迎の必要な青年がいないこと。公民館学級では数名の送迎が行っていることその他、2 年間精算できていなかった状況を精算できたことが共有されました。

の可能性を探っていくことも課題として挙げられています。

5 今後の課題

（１）担当者の費用負担軽減

送迎に対応した担当者は費用を立て替え、後日送迎検討委員会で精算をするのですが、担当者と送迎委員が会えない日が続くと時に数千円の立て替えの累積が発生し、担当者の経済的負担にもなります。担当者の負担を軽減する意味でも、迅速に費用精算できる仕組みの検討が必要です。また、学級によっては、送迎の記録がしっかり記載できていない状況もあり、送迎検討委員会の立て直しが急務となっています。

（２）送迎についての情報共有

ここ数年は当日のみの担当者が送迎を行うことが多くなってきましたが、当日送迎する担当者が担当者会に出席していない等の理由で、送迎の話をする機会をあまりつくれていないのが現状です。

「なぜ一時送迎を行っているのか」といった送迎についての意義や、送迎検討委員会が組織されるまでの経緯等について担当者間で共有していくとともに、比較的経験年数の少ない担当者や担当者会に出席していない担当者についても、送迎運営費を集める理由や送迎検討委員会の存在意義を伝えていく必要があります。

（３）一時送迎の周知

今後、青年の高齢化・家庭環境の変化により、グループホームや施設等に生活の場を移す青年が増え、送迎の必要性も高まってくることが考えられます。

その一方で、一時送迎のことを知らない家族や、送迎を遠慮している家族もいるようなので、「送迎のしおり」を作成したり、父母交流会やニュース等を通じて送迎委員会の活動を伝えたりすることが求められています。

（４）制度の活用

最近ではガイドヘルパー制度を利用して学級に参加する青年も増えてきました。ガイドヘルパー制度も「障害者自立支援法（現「障害者総合支援法」）の施行以降、大きく変わってきており、今後ガイドヘルパー制度の利用について、その制度の内容や利用方法等を確認するとともに、一時送迎とガイドヘルパー制度の利用について、その利用

第3章 父母会

父母会長

2020年度は新型コロナによる緊急事態宣言で、父母会も総会が開けず、6月から新体制での活動が開始されたが、スタッフと保護者の交流会も延期するか中止するか迷った末、中止になった。

また学習会も密を避けるということと、学習会そのものに疑問を呈する役員もいて、今後父母会の活動を見直すべきではとの意見もでた。また、活動が実施されなかったことにより、予算上の剰余金が出たため、これをどうするかで、意見が二転三転する状態で、かじ取りの難しさを実感した。

来年度は若い役員さんに大いに活躍して頂きたいと思います。青年たちの活動中に、担当者さんがゲガをされ、補償がないというので、我々の子供が入っている保険が、どこまで有効に保障されるのか、疑問点が出てきた。ささやかながら、父母会からお見舞いをさしあげた。青年たちの活動も、公民館学級はほぼ毎回開催されたのに、ひかり学級や土曜学級はほとんど開催されず、やむを得ないとはいえ不公平感はまぬがれなかった。

第 7 部 青年学級に寄せて

第1章 青年学級によせて

公民館学級

能登 あやな

先日、娘と初めてのクリスマスを迎え、青年学級で過ごしたクリスマス会を思い出しました。年の終わりに『今年もまた仲間たちとこの日を迎えられた』と感謝の気持ちを込める学級の特別な日。歌いながら仲間の存在を感じ、互いの笑顔を想像しながら用意したプレゼントを交換する。帰るときには、仲間の穏やかな時間を願い「よいお年を！」という言葉と笑顔が各所で溢れます。愛でいっぱいこの時間が、私は大好きでした。毎年、外の寒さにも負けないホクホクと温まった心で家路についたものです。

そんな学級では、青年たちがいのちのことについて話す姿が印象的でした。日常のこのように話題にしていたので驚いたこともありましたが、私も妊娠を経て毎日考えるようになっていました。最初にエコーで見た時は5ミリほどの小さな丸だった娘。奇跡のような存在に手足が生え、日に日に育つ姿には愛しさが込み上げました。早産になりかけ、いのちの危険を感じた月日もありましたが、懸命に堪えてくれました。産声が聞こえた瞬間、青年たちが言っていた「生きていることは素晴らしい」ということばが身体の中から湧き出るような感覚で、私も声を上げて泣いていました。出産してからも、呼んだら初めて振り向いてくれた、朝から満面の笑顔だった、好きな食べ物が分かった…と毎日ちょっとした出来事に感動し微笑んでいる自分に気付きます。この間まで存在しなかったいのちが、こんなにも誰かの世界に影響を与えるのかと驚きました。そして、世の全ての人から小さな丸から始まり、懸命に生き、誰かにそっと微笑みを与えてきた、素晴らしいいのちなのだ実感しました。青年たちはいつもそんないのちを大切に、身近なこととしてことばにしていたのだと思います。私も授かっていたいのちと向き合い、青年たちのように、日々の暮らしの中でもいのちへの愛や感謝をきちんとことばにして生きていこうと思いました。

いつかまた皆さんにお会いできる日を楽しみにしています。たくさんの温かな時間をありがとうございました。

第2章 新人担当者として関わって

公民館学級

斉藤 由衣

様々なご縁から、青年学級の活動に参加させていただくことになりました。青年学級の活動を通して、参加する方々から多くの刺激をいただいたことで自分自身にも変化が見られたように思います。活動に参加し始めた当初は、知識も経験も全くない中でどのようにしたらよいのか考えを巡らせる日々でしたが、そのような中でも常に学級生の方をはじめ青年学級に関わる方々のあたたかさや大きな優しさを感じ、青年学級という場所の特別さを強く実感しました。こんなにも一人の人間として受け入れてもらえる場所があるのだ、否定されない環境があるのだと感ずることができ、否定されることに対してのトラウマが大きい私もこの場所だったら大丈夫だという安心感から、少しだけ自分自身の行動や考えに対して積極的になることができました。

また、何よりも青年学級では「言葉の重要性」「発信することの意味」ということを学ばせていただいたと考えます。私は人の話を聞くことがとても好きですが、反対に自身のことを話すのは大変苦手です。今までは自分の考えや想いはあっても、常に言葉選びをして慎重になりすぎるがゆえに最終的には周りの人の意見が聞けたらよいから自分の意見は必要ないと話さずに終わってしまうことが多くありました。しかし学級活動をする上で、思いや気持ちの詰まった学級ソング歌ったり、自分の考えや意見を迷うことなく真っすぐに伝え共有しあう姿を拝見したことで、自分の想いを素直に考えすぎることなく伝えればよいのだと気づくことができました。まだまだ苦手意識がありますが、「あなたの気持ちが聞けて良かったです」とのお言葉もいただき発信することに対しての自信につながりつつあります。

まだまだ未熟で至らない点も多くありますが、このような環境で活動できることへの感謝を忘れず、今後も青年学級の活動を通し楽しく素晴らしい思い出が作れるよう取り組みたいと思います。そして自分の成長につなげ充実した日々を送りたいと考えます。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

堀井あすか

私は社会教育実習を青年学級でさせていただいたことをきっかけに、公民館学級の担当者となりました。不安もたくさんありましたが、多くの方に支えられ一步步成長できていると感じます。改めて感謝申し上げます。そして、青年たちが生き生きと活動している姿は私に様々なものをもたらしました。

青年たちは大切にしているものがたくさんあります。家族、仲間、言葉、うた、日常、そして青年学級などたくさんの大切なものを日々抱きしめて生きています。私が忘れてしまっていたもの、そこにあることを当たり前として考えてこなかったもの、それらを青年たちから思い出させてもらいました。うたも作品もただつくって終わりではなく、伝えたい気持ち、作った時間、生きた証、たくさんの想いを乗せていつまでも大切にしている姿がとても印象的です。私も、自分の想い、やりたいこと、好きなことを大切に生きていきたいと思いました。大切なものが壊されそうになったときに怒ったり行動したりできる自分でありたいです。諦めて投げ出して一歩引いてしまっただけは何も変わらないと考え直すことができました。大切なものを守り抜くために声を上げ続ける人の力にもなりたいです。

そして、人と人との繋がりや暖かさを改めて実感しました。幸せも悲しみも分け合える仲間がいること、集まれる居場所が存在することがどれほど大きな力を生むのかを肌で感じました。

コロナ禍での活動はたくさんの困難と課題をもたらしましたが、青年学級の力を実感しました。まだまだ成長途中で自分に自信の無い私ですが、みなさんからたくさん学んでいきたいです。この出会いに感謝し、みなさんと強く生きていきます。

土曜学級

月田 夢萌

私は、昨年の10月から12月にかけて、大学の実習の一環として担当者としての活動をさせていただきました。

実習は終了しましたが、引き続き担当者として土曜学級に参加させていただいております。

コロナ禍で活動に制限がかかる中、様々な年代の先輩担当者の皆さんや職員と活動の方法を模索しながら活動が出来たことはとても良い経験となりました。

青年の皆さんにも初回から多く声をかけていただき、「次は私のグループに参加してね!」と嬉しいお言葉をかけていただくことも多々ありました。

また、活動の中で人が支え合うことの重要さや、仲間の大切さ、個性を認め合うことなど、様々な気づきや学びを得ることが出来ました。

今後も With コロナの時代で以前と全く同じ活動は難しくなるかもしれませんが、少しでも出来ることを模索しながら、皆さんと共に学び、楽しい時間を過ごしていきたいです。今後もよろしくお願いいたします。

大島 菜々子

土曜学級へは大学の社会教育実習を機に参加させていただいています。私にとって土曜学級は多くの気づきを得る場であり、新しい世界との出会いの場であると感じています。青年の方たちに関わるようになり、コミュニケーションには様々な形があることを知りました。まだまだ、私は目を向ける場所を広げる必要があると実感しているところですが、青年の方たちはいつも温かく迎え入れてくださり、思いをそれぞれの仕方でお伝えくださいます。そのような中で、支援者の立場でありながらも一人の人として関わることの大切さを実感しています。

また、土曜学級の活動に長い間関わっていらっしゃる担当者の方たちから学ぶことがたくさんあります。担当者として忘れてはならない重要なことや、学級ソングの歌詞に込められた意味などを

機会のあるごとに教えていただき、これまでの活動で大切にされてきたことを知ることができています。様々な情報を共有し、問いを投げかけてくださる方もいらっしやり、長い歴史を持つ土曜学級の取り組みが少しずつ見えてきました。そのような担当者の方たちが学級で青年へ問いかけ、率直な意見がどんどん出てくる様子もとても印象的です。率直な思いを伝え合い、ぶつかり合うことも含めて、生き生きとしたコミュニケーションが生まれているように思います。

私は土曜学級に参加し活動する中で、心が動く瞬間が増えたように感じています。今後も多様な人と多様な方法で対話を重ね、関係を築いていくことを大切にしていきたいです。未だ力の及ばないことが多く、学ばせていただくことが多いですが、これからも生き生きとした学級の間づくりに関わっていけたらと思っています。

資料

年 表

町田市障がい者青年学級の歩み

1973年
(S. 48)

- 親の要求 → 障がい者のための青年学級
 ～非行に走らないように～
 ＊育成会 ＊福祉事務所ケースワーカー
 ＊社会教育課長 ＊精薄指導員
 ＊社会教育主事
- 準備期間（社会教育主事）
 ◇ゆたか作業所（名古屋） 訪
 ◇宮津青年学級（京 都） 問

町田市障がい者青年学級準備会

- ＊青年心理研究者（1名）
- ＊人形劇研究者（1名）
- ＊社会教育主事（2名）
- ＊社会教育関係者（1名）

- ◇参加者募集
- ◇説明会
- ◇要領作成
- ◇映画上映
- ◇スタッフ募集

ねらい

障がい者青年が豊かな生活を築くため、仲間たちと話し合ったり、学習したり、思いきり遊ぶなかで、生きる力や働く力を獲得することをめざす。

1974年
(S. 49. 11)

20名

一
年
目

時 間 割		
<各自の課題>	<人形劇作り>	<話 し 合 い>
各自が学校卒業後の生活の中で「学びたいこと」	集団芸術活動を通しての集団化	青年自身のものとして、生きる力、働く力、自立心
数 学 国 語 技術工作 美 術 音 楽 手 芸	ねらい ①仲間づくり ②創造する喜びを集団で ③生活の見つめ直しと表現力育成	

<担 当 者>

- ＊市内の教師（5名）
- ＊福祉施設作業職員・児童学園職員（3名）
- <行政職員>
- ＊ケースワーカー（2名）
- ＊社会教育主事（1名）
- 計11名

父母会誕生

月2回の青年学級予算が決まる

1975年
(S. 50)

32名

二
年
目

時 間 割		
<各自の課題>	<人形劇作り>	<話 し 合 い>
数 学 国 語 技術工作 美 術 音 楽 手 芸	ねらい 思いきり体を動かす。	ねらい 自分の思っている事をはっきり言う。
☆ 小集団編成 生活班 ☆ 全員が役割 「よくばりこぐま」上演 ☆ 運営委員会		

<担 当 者>

- ＊学生・市民（12名）
- <行政職員>
- ＊社会教育主事（1名）
- ＊社会教育職員（1名）
- ＊ケースワーカー（2名）
- 計16名
- ・健常者青年学級演劇コースに初めて2名参加
 （障がい者青年学級・健常者青年学級に両方参加）
- ・障がい者に対する差別観念のたたかい
- ・K・Yさんの家出
- ・テレビ出演問題（76年2月）
 ↓
- ・文集づくり→ 文集委員 ↓

障がい者の多様化代

1976年 (S. 51) 37名	時 間 割			・ 「通級可能な者」をとりはずす ・ 二学級制検討 ①数的増大 ②要求多様化 ③担当者の能力限界 父母との話し合い、青年の要求をふまえて ＜担 当 者＞ ＊学生・市民 （15名） ＜行 政 職 員＞ ＊社会教育主事（1名） ＊社会教育職員（1名） ＊ケースワーカー（3名） 計20名 ・ フェスティバル→学級として参加 ・ 生きがいコース・料理コースの検討
三 年 目	＜各自の課題＞	＜人形劇作り＞	＜話 し 合 い＞	
	数 学 美 術 国 語 技術工作 サイクリング 音 楽 手 芸 ↓ 手芸サークル化 (あみもの)	ねらい どうやって青年 を劇づくりの主 役にするか。 ☆要求別劇班 ①人間劇班 一言いたい事を読み合った ②オペレッタ班 一へっこき嫁さん→体を動かす ③かげえ班 一あわて床屋		
☆ 運営委員会（土曜午後） ☆ 実行委員会（フェスティバル・クリスマス）				
1977年 (S. 52) 42名	二 学 級 生 実 施			＜担 当 者＞ ＊学生・市民 （15名） ＊地域青年 （2名） ＊人形劇団員 （1名） ＜行 政 職 員＞ ＊社会教育主事（1名） ＊社会教育職員（1名） ＊ケースワーカー（3名） 計23名 ・ 担当者会の移行 ①任務分担 ┌・文化活動担当 ├・条件整備担当 └・生活担当 ②かかわり方の明確化 ③学級主事 代表者会 } 設置 ・ 学習会（月1回）行なう ・ 土曜学級生きがいコース } 開催 ・ 料理教室 ・ 地域へ ①盆踊り大会→土曜学級実施 ②ゲーム大会→ゴボーの会と ・ 送迎 — 教育としての送迎 職員の負担 ・ 父母会 — 通勤寮構想 ・ 公運審 — 父母等が参加
四 年 目	☆ ねらいはくずさず、二学級別々に運営する。 ☆ 午後（文化活動・話し合い）→生活班 四つの基礎集団（一学級二班）			
	時 間 割			
改 築 の た め 公 民 館 ↓ 町 田 第 一 中 学 校 へ 青年の 多様化 (年齢障害)	＜各自の課題＞	＜人形劇作り＞	＜話 し 合 い＞	
	① 手 芸 班 →サークル ② 手 芸 班 ① } 学 習 班 ② } ① } スポーツ班 ② } 音 楽 班	ねらい 集団としての自 治の高まり		
☆ 生活班としての劇づくり ①かしの木班「泣いた赤鬼」 —— 友情 —— 「人形劇」 ②ラーメン屋班「むぎひとつぶ」 —— 青年の気持ちをひきだす —— ③くりご班「ももたろう」 —— 重たい人をどうまきこむか —— ④ごろね班 —— 感想をつづらせる —— ○素材として劇は妥当かどうか ☆運営委員会（やりたいものの学級運営にたずさわる） ☆実行委員会（クリスマス会） 劇会ベース（担当者）では自治活動がすみあげられない。				

1978年
(S. 53)
49名

五年目

改築後
町田第一中学校
↓
公民館へ

3つに分かれた時間割りを2つに減らす

各自の課題・劇づくり・話し合い

青年の自治活動に重点移行

班活動・各自の課題

(話し合いは班活動・各自の課題に随時入れる)

①集团的文化活動 劇づくり→行事を節に

②班→四つの基礎集団(一学級二班)

③運営委員会 劇会→

班長会・実行委員会へ

時間割

<班活動>午前

<各自の課題>午後

前半—キャンプ

後半—班ごとの活動

①ペンペン草班

・楽しみ仲間を意識し話し合いを成立させる
・お料理

②デン助班

・仲間を意識し、班活動を青年の手ですすめる

③トマト班

・援助し合い、自治活動を高めよう
・ソフトボール

④ひやかか店班

・班員を知り、青年の手ですすめ、青年間で助け合う
・ソフトボール

手芸班

工作班

美術班

スポーツ班

国語班

算数班

音楽班

A・B学級の枠を超えて編成

養護学校生は、各自の課題のみ参加(疲れ、家族との関係の為)
→午前・午後と集団の質の違い

☆ 班長の役割の不明確、青年の手で
→担当者の援助方法・班のみの行動

☆青年たちの要求

- ・自分たちの力でやりたい
- ・ゆったりとした学級をやりたい
- ・学習時間を長くしてほしい

積極的に受けとめ、ゆったりとした学級へ

担当者 → 学生増

(新旧交代)

代表者会 → 調整委員会へ

(担当者会で話しきれないもの)

<担当者>

*在宅訪問事業 (2名)

*地域青年 (2名)

*人形劇団員 (1名)

*学生・市民 (14名)

<行政職員>

*社会教育主事 (1名)

*社会教育職員 (1名)

*ケースワーカー (3名)

計24名

○ 地域へ

・キャンプ → ゴボーの会

・フェスティバル → 日曜実行委員会

・クリスマス会 → 実行委員会

・ソフトボール → 健康者青年学級
ゴボーの会

・スケート → 希望者

・料理教室

○ 送迎問題 → 運動方針出す

○ 学級卒業 → 夜間中学へ1名

1979年
(S. 54)
54名

六年目

☆ A・B学級でまとまろう

☆ 青年の手による自主的な運営をめざす

時間割

<班活動>午前

<各自の課題>午後

○A学級 { フレンド班

バラ班

○B学級 { ピンクレディ班

たんぽぽ班

・音楽班

・手芸班

・工作班

・学習班

・美術班

・スポーツ班

<前期>

・キャンプを通して仲間意識、
班意識、学級意識を高める

・キャンプの準備

(班内係・メニュー決め・調理実習)

<担当者>

*地域の専門家(2名)

*訪問事業担当者(2名)

*青年心理研究者(1名)

*学生 (14名)

<行政職員>

*ケースワーカー(2名)

*社会教育主事(1名)

*社会教育職員(1名)

計23名

○地域の専門家に広がる

	<後期> 学級単位の活動 A タコづくり B レク・料理等班長会主導 ↓ 各班単位へ ・ピンクレディ班 ― 野外活動・ゲーム ・たんぽぽ班 ― 劇づくり ☆ 自治活動をすすめる上での共通体験、生活の広がりが必要 ☆ 重度の青年の発達過程をどう保障するか ☆ 成人（30代以上）にとっての課題は何か	○地域への広がり→クリスマス会 日曜学級、地域のサークル、金曜教室、 「交流会の意義を考える」 ○送迎問題→運動の視点から考える						
1980年 (S. 55) 50名 七 年 目	☆ ゆとりある活動の中で、生活経験を広げ、その上で自主的に活動する力を獲得する ☆ 重度の青年、成人たちへの課題を考え、独自のグループをつくる <table><tr><th colspan="2">時 間 割</th></tr><tr><th><班 活 動>午前</th><th><各自の課題>午後</th></tr><tr><td> <前期> A学級 コスモス班 成人班 B学級 ハ班 ニ班 喫茶店学習・ウォークラリー・薬師池ハイキング ・映画 9月合宿 </td><td> ・音楽班 ・手芸班 ・工作班 ・学習班 ・美術班 ・スポーツ班 </td></tr></table> 生活を共にし、ゆったりした中で生活を語り合う → 重度の青年と共に活動する <後期> ☆ 重度の青年をどうするか、青年たちの投げかけ、その結論より、自主的な活動を展開していく ○ 重度の青年と共に活動していくか ↓ 「いっしょにやっ페이こう！」(全班一致) ※ 重度者グループの解体 活動内容 コスモス班 ― 劇 ハ班 ― はり絵 ニ班 ― 劇とはり絵 ※ 成人班は独自の活動を行なう ・重度の青年に対する班、独自の課題での取り組みにおいて、課題が不明確だった ・班で中心となる青年の位置づけと、担当者の援助の問題 ・成人、重度者グループ編成の際、メンバー選定の問題	時 間 割		<班 活 動>午前	<各自の課題>午後	<前期> A学級 コスモス班 成人班 B学級 ハ班 ニ班 喫茶店学習・ウォークラリー・薬師池ハイキング ・映画 9月合宿	・音楽班 ・手芸班 ・工作班 ・学習班 ・美術班 ・スポーツ班	<担 当 者> *地域の専門家 (3名) *学生 (16名) <行 政 職員> *ケースワーカー (2名) *社会教育主事 (1名) *社会教育職員 (1名) *ひかり療育園指導員 (1名) 計24名 父母会 (学習会) 福祉事務所ケースワーカー近藤氏を招いての講演「障がい者の足の保障」 クリスマス会 公民館事業からクリスマス会実行委員会主催に移行 文集づくり 文集委員会が中心 文集の表題に「障害者青年学級」を入れることにより問題が起こった
時 間 割								
<班 活 動>午前	<各自の課題>午後							
<前期> A学級 コスモス班 成人班 B学級 ハ班 ニ班 喫茶店学習・ウォークラリー・薬師池ハイキング ・映画 9月合宿	・音楽班 ・手芸班 ・工作班 ・学習班 ・美術班 ・スポーツ班							
1981年 (S. 56) 54人 八 年 目	☆ 生活の見つめ直し (1年目) ☆ 表現活動 (劇活動) への取り組み <table><tr><th colspan="2">時 間 割</th></tr><tr><th><班 活 動>午前</th><th><各自の課題>午後</th></tr><tr><td> A学級 (班替え) ・ひまわり班 ・シクラメン班 ※成人班の解体 </td><td> ・音楽班 ・手芸班 ・工作班 ・学習班 </td></tr></table>	時 間 割		<班 活 動>午前	<各自の課題>午後	A学級 (班替え) ・ひまわり班 ・シクラメン班 ※成人班の解体	・音楽班 ・手芸班 ・工作班 ・学習班	<担 当 者> *教育心理学の専門家 (1名) *学生 (16名) *市民 (5名) <行 政 職員> *公 民 館 職員 (2名) *ケースワーカー (2名) *ひかり療育園職員 (1名) 計27名
時 間 割								
<班 活 動>午前	<各自の課題>午後							
A学級 (班替え) ・ひまわり班 ・シクラメン班 ※成人班の解体	・音楽班 ・手芸班 ・工作班 ・学習班							

B学級（班替えなし） ・ハ班 ・二班 <前期> 話し合い 仕事の悩み 家族の様子等 ・観劇 ・プール <後期> 劇づくり 台本委員 （自主的な劇づくり） ○ 生活上の抱えている問題を出し合う ○ 否定的側面が強調されすぎた ↓ 広く生活をとらえ直すことの必要性 （注1）のびのび班一障がいの重い青年に必要な課題を特に設定したグループ。これは前年度班活動の中で取り組まれた重度者（からだほぐし）グループが発展的に解消されたもの。	・美術班 ・スポーツ班 重度者グループ ↓ ・のびのび班（注1） 班長会 ・学級日 ・第4日曜日	地域へ ・ふれあい広場クリスマス会へ参加 ・自主的な学習サークル「すぎの子」誕生 送迎問題 送迎委員会の再建 ・障がい者の公民館利用を考える ・公民館利用者懇談会参加 「送迎を考える会」誕生
☆ 生活の見つめ直し（2年目） ☆ 表現活動へのとり組み ※ 班替えなし（班名の変更） 時 間 割 <班 活 動>午前 A学級 ・すみれ班 「～できる」という心 劇づくり（すみれヶ丘） ・さくら班 生活を広い領域でとらえ カードを文章化していく ことで、生活の自覚化・ 共有化をはかる B学級 ・ハ班 「夢」を通して生活を見 つめる 劇づくり（ハ班の夢） ・スイートピー班 生活場面を表現する 劇づくり（13名の同窓会） ・プール ・合宿 ・狛江との交流 ・班長会、実行委員会の役割が不明確 <各自の課題>午後 ・音楽班 ・手芸班 ・工作班 ・学習班 ・美術班 ・スポーツ班 ・のびのび班 ・班長会 ・実行委員会 （合宿、狛江との交流）	<担 当 者> *教育心理学の専門家（1名） *学生（11名） *市民（4名） <行政職員> *公民館職員（2名） *ケースワーカー（2名） *ひかり療育園職員（1名） 計21名 <地域へ> ふれあい広場クリスマス会へ参加 ・「すぎの子」 ↓ 「さなえサークル」誕生 （水曜班、土曜班、日曜班） <送迎問題> ・署名運動の展開 ・議会への請願不採決	

1983年 (S. 58) 53名	☆ 生活の見つめ直し（3年目） ☆ 青年の手による自主的な運営をめざす ☆ 新しい班で仲間を知り合う ☆ 表現活動への取り組み	<担当者> *教育心理学の専門家（1名） *学生（9名） *市民（8名） <行政職員> *公民館職員（3名） *ケースワーカー（2名） *ひかり療育園職員（1名） 計24名 <サークル活動> ・さなえサークル ・モンチッチ ・おなべの会 ・土曜学級 <送迎問題> 学級活動の一環としてとりくむ 担当者間で位置づけにバラつきがあった
十 年 目	時 間 割	
	<班 活 動>午前 (班替え) <前期> 話し合い お互いに知り合う 仕事のこと 生活の悩み など ・狛江との交流 ・プール <後期> ・合宿 ・もちつき大会 <表現活動> ・ガチャガチャ班（15名） — 人形劇づくり — 人形をとおして、自分を語り 自分の想いをアピールする ・チューリップ班（13名） — 歌づくり — 歌によって自分の意見や、思 いを表現する ・レモン班（13名） — 劇づくり — 自分たちの職場を紹介しあい お互いの理解を深める ・考える班（12名） — 劇づくり — 職場の実態や生活、そして 「仲間とは何か」を考える	<各自の課題>午後 ・音楽班 ・手芸班 ・工作班 ・学習班 ・美術班 ・スポーツ班 ・のびのび班 <班長会> ・各班活動の情報交換 ・学級全体のことについて 話し合う ・行事の企画運営を行なう <実行委員会> ・狛江との交流会 ・合宿 ・もちつき大会
1984年 (S. 59) 63名	☆ 青年の自主的運営 ☆ 2年目の班で活動内容を深める ☆ 10周年行事、「とびたとう」発行を中心活動とする	<担当者> *教育心理学の専門家（1名） *学生（10名） *市民（6名） <行政職員> *公民館職員（2名） *ケースワーカー（2名） *ひかり療育園職員（1名） 計22名 <サークル活動> ・さなえサークル ・モンチッチ ・おなべの会
十 一 年 目	時 間 割	
	<班 活 動>午前 <前期> ・2年目の班としての活動 ・狛江との交流 ・合宿 ・プール <後期> ・10周年記念行事 パーティー ・クリスマス会 ・もちつき大会 ・とびたとう ・ガチャガチャ班（17名） ガチャガチャ新聞	<各自の課題>午後 ・音楽班 ・手芸班 ・工作班 ・学習班 ・美術班 ・スポーツ班 ・のびのび班 ・サイクリング班 <班長会> ・実行委員会と合同で行事の 進行をする

	・チューリップ班（１４名） うた作り、絵 ・レモン班（１４名） 文集「レモンの友だち」 ・考える班 自己表現—思ったことを を大声でいう	＜実行委員会＞ ・狛江との交流会 ・合宿 ・１０周年 ・クリスマス会 ・とびたとう	＜送迎問題＞ ・学級活動の一環とする ・ハンディキャップの利用はじまる
１９８５年 (S. ６０) ５７名 十二年目	☆ 生活づくり (コース制 １年目) ＜コース別活動＞全日 ・音楽コース ・文化芸術コース ・体づくりコース ・ものづくりコース ・生活コース ・自然コース ・班長会 ・狛江交流実行委員会 (行事) プール 狛江との交流会 合宿 (水元青年の家) 公民館まつり	＜担 当 者＞ *教育心理学の専門家 (１名) *学生 (１５名) *市民 (６名) ＜行政職員＞ *公民館職員 (２名) *ケースワーカー (２名) *ひかり療育園職員 (１名) 計２７名	＜サークル活動 ～地域へ＞ ・さなえサークル ・モンチッチ ・おなべの会 ・ふれあいクリスマス会参加 ・公民館まつり
１９８６年 (S. ６１) ６４名 十三年目	☆ 生活づくり・文化創造 (コース制 ２年目) ＜コース別活動＞ ・音楽Ａコース ・音楽Ｂコース ・文化・芸術コース ・健康・体づくりコース ・ものづくりコース ・生活コース ・自然コース ＜班長会＞ 実行委員会と同時進行	＜担 当 者＞ *教育心理学の専門家 (１名) *学生 (１５名) *市民 (６名) ＜行政職員＞ *公民館職員 (２名) *ケースワーカー (２名) *ひかり療育園職員 (１名) 計２７名	＜サークル活動＞ ・さなえサークル ・おなべの会 ・らくだバンド ＜地域へ＞ ・公民館まつり参加 ・ひまわり号参加
１９８７年 (S. ６２) ７７名 十四年目	☆ 生活づくり・文化創造 (コース制 ３年目) ＜コース別活動＞ ・音楽コース ・劇ミュージカルコース ・ものづくりコース ・健康・体づくりコース ・生活コース ・自然コース	＜担 当 者＞ *教育心理学の専門家 (１名) *学生 (１６名) *市民 (３名) ＜行政職員＞ *公民館職員 (２名) *ケースワーカー (１名) *ひかり療育園職員 (１名) 計２４名	

	<班長会> 実行委員会と並行 <実行委員会> 狛江交流会（クリスマス会） <行事> 合宿（山中湖）、公民館まつり 狛江交流会（クリスマス会） ※若葉とそよ風のハーモニーコンサート（町田）	<地域へ> ・公民館まつり参加 ・ひまわり号参加 ※きらきら笑顔のメッセージコンサート参加 （国立） ※若葉とそよ風のハーモニーコンサート参加 （町田）
1988年 (S. 63) 83名 十五年 目	☆ 生活づくり・文化創造（コース制 4年目） <コース別活動> ・音楽コース ・劇ミュージカルコース ・ものづくりコース ・健康からだづくりコース ・生活コース ・自然コース <班長会> <新聞委員会> <狛江実行委員会> （行事） 合宿（府中青年の家） 公民館まつり 狛江市青年学級との交流会 ※若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加	<担 当 者> *教育心理学の専門家（1名） *作業所指導員（7名） *学生（9名） *市民（3名） <行政職員> *公民館職員（2名） *ケースワーカー（1名） *ひかり療育園職員（1名） 計24名 <地域へ> ・公民館まつり参加 ・ひまわり号参加 ※若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加
1989年 (H. 1) 91名 十六年 目	☆ 生活づくり・文化創造（コース制 5年目） <コース別活動> ・音楽①コース ・音楽②コース ・劇ミュージカルコース ・ものづくりコース ・健康からだづくりコース ・自然コース ※各コースで生活について考えていく <班長会> クリスマス会実行委員会と並行 <新聞委員会> <とびたとう編集委員会> <行事> 合宿（府中青年の家） 公民館まつり ※若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加	<担 当 者> *教育心理学の専門家（1名） *作業所指導員（10名） *学生（9名） *市民（2名） <行政職員> *公民館職員（2名） *ケースワーカー（1名） *ひかり療育園指導員（1名） 計26名 <地域へ> 公民館まつり参加 ※若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加 <サークル活動> ・さなえサークル ・おなべの会

1990年 (H. 2) 99名 十七 年 目	☆ 生活づくり・文化創造（コース制 6年目） <コース別活動> ・音楽①コース ・音楽②コース ・劇ミュージカルコース ・ものづくりコース ・健康からだづくりコース ・自然コース ・生活コース <班長会> <クリスマス会実行委員会> <新聞委員会> <行事> - 合宿（水元青年の家） - 公民館まつり ※若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加	<担当者> *教育心理学の専門家（1名） *作業所指導員（9名） *学生（7名） *市民（5名） <行政職員> *公民館職員（3名） *ケースワーカー（1名） *ひかり療育園職員（1名） 計27名 <地域へ> - 公民館まつり参加 ※若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加 <サークル活動> ・さなえサークル ・おなべの会 <会場> 1～3月、公民館改修工事のため、町田第2小学校で通常学級活動を、成果発表会を地域センター（成瀬）でおこなう
1991年 (H. 3) 105名 十八 年 目	☆ 生活づくり・文化創造 ☆ 二学級制（公民館学級・ひかり学級） *公民館学級（コース制7年目） <コース別活動> ・音楽コース ・劇ミュージカルコース ・健康からだづくりコース ・自然コース ・生活コース <行事> - 合宿（大地沢青少年センター） - 公民館まつり <班長会> *ひかり学級 <班別活動> ・コスモス班 ・ハチ公班 ・コンドル班 ・JR班 <行事> - 合宿（府中青年の家） - 公民館まつり <班長会> <行事委員会> <合同実行委員会> ・クリスマス会実行委員会 ・とびたとう編集委員会 <サークル活動> ・さなえサークル ・おなべの会 <担当者> *教育心理学の専門家（1名） *作業所指導員（9名） *学生（15名） *市民（6名） <行政職員> *公民館職員（3名） *ひかり療育園指導員（1名） 計35名	<班長会> <行事> - 合宿（大地沢青少年センター） - 公民館まつり <班長会> <行事委員会> <担当者> *教育心理学の専門家（1名） *作業所指導員（9名） *学生（15名） *市民（6名） <行政職員> *公民館職員（3名） *ひかり療育園指導員（1名） 計35名

1992年
(H. 4)
118名

十
九
年
目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 二学級制 (公民館学級・ひかり学級)

*公民館学級 (コース制8年目)

<コース別活動>

- ・音楽コース
- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース

<行事>

合宿 (山中湖)
公民館まつり

<班長会>

*ひかり学級 (コース制1年目)

<コース別活動>

- ・音楽コース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース

<行事>

合宿 (山中湖)
公民館まつり

<班長会>

<合同実行委員会>

・クリスマス会実行委員会 ・とびたとう編集委員会

<担当者>

*教育心理学の専門家 (1名)
*作業所指導員 (9名)
*学生 (18名)
*市民 (6名)

<サークル活動>

・さなえサークル ・おなべの会 ・音楽サークル

<行政職員>

*公民館職員 (3名)
*ひかり療育園指導員 (1名)
計38名

<地域へ>

※共作連全国大会「うたごえ東京」(ベイNKホール)に参加

※若葉とそよ風のハーモニー合唱団「芸術祭

おまつり広場」(都庁ホール)に参加

1993年
(H. 5)
131名

二
十
年
目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 二学級制 (公民館学級・ひかり学級)

*公民館学級 (コース制9年目)

<コース別活動>

- ・音楽コース
- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース

<行事>

合宿 (長野県川上村)
公民館まつり
クリスマス会

<班長会>

<新聞委員会>

*ひかり学級 (コース制2年目)

<コース別活動>

- ・音楽コース
- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・ものづくりコース

<行事>

合宿 (長野県川上村)
公民館まつり
クリスマス会

<班長会>

<新聞委員会>

<担当者>

*教育心理学の専門家 (1名)
*作業所指導員 (9名)
*学生 (14名)
*市民 (23名)

<サークル活動>

・さなえサークル
・おなべの会

<行政職員>

*公民館職員 (3名)
*ひかり療育園指導員 (1名)
計51名

<地域へ>

※第5回若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加

1994年
(H. 6)
141名

二十一年
目

- ☆ 生活づくり・文化創造
☆ 二学級制 (公民館学級・ひかり学級)

*公民館学級 (コース制10年目)

<コース別活動>

- ・音楽コース
- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース

<行事>

- 合宿 (水元青年の家)
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

<新聞委員会>

*ひかり学級 (コース制3年目)

<コース別活動>

- ・音楽コース
- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活ものづくりコース

<行事>

- 合宿 (水元青年の家)
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

<新聞委員会>

<喫茶のぞみ>

20周年記念行事 (昼) 健康福祉会館…20周年記念行事実行委員会
20周年記念パーティ (夜) ホテル・ザ・エルシー…20周年記念パーティ実行委員会

<サークル活動>

- ・さなえサークル
- ・おなべの会

<地域へ>

※第6回若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加

<担当者>

- *教育心理学の専門家 (1名)
- *作業所指導員 (9名)
- *大学生 (1名)
- *学生 (12名)
- *市民 (24名)
- <行政職員>
- *公民館職員 (3名)
- *公民館嘱託職員 (1名)
- 計51名

1995年
(H. 7)
152名

二十二年
目

- ☆ 生活づくり・文化創造
☆ 二学級制 (公民館学級・ひかり学級)

*公民館学級 (コース制11年目)

<コース別活動>

- ・音楽コース
- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース

<行事>

- 合宿 (大地沢青少年センター)
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

<新聞委員会>

*ひかり学級 (コース制4年目)

<コース別活動>

- ・音楽コース
- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース

<行事>

- 合宿 (大地沢青少年センター)
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

<新聞委員会>

<喫茶のぞみ>

<サークル活動>

- ・さなえサークル
- ・おなべの会

<地域へ>

※第7回若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加

<担当者>

- *教育心理学の専門家 (1名)
- *施設職員 (8名)
- *学生 (18名)
- *市民 (27名)
- <行政職員>
- *公民館職員 (4名)
- 計58名

1996年
(H. 8)
162名

二十三年
目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 二学級制 (公民館学級・ひかり学級)

*公民館学級 (コース制12年目)

<コース別活動>

- ・音楽ハッピーコース
- ・音楽トマトバナナコース
- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース
- ・新聞づくりコース

<行事>

合宿 (大地沢青少年
センター)
公民館まつり
クリスマス会

<班長会>

*ひかり学級 (コース制5年目)

<コース別活動>

- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース
- ・人形劇づくりコース

<行事>

合宿 (大地沢青少年
センター)
公民館まつり
クリスマス会

<班長会>

<新聞委員会>
<喫茶のぞみ>

<サークル活動>

- ・さなえサークル
- ・おなべの会

<担当者>

*教育心理学の専門家 (1名)
*施設職員 (8名)
*学生 (14名)
*市民 (39名)
<行政職員>
*公民館職員 (4名)

計66名

1997年
(H. 9)
169名

二十四年
目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)

*公民館学級 (コース制13年目)

<コース別活動>

- ・うさぎミュージカルコース
- ・チャンピオンバンドコース
- ・抱きしめたいコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース

<行事>

合宿 (大地沢青少年
センター)
公民館まつり
クリスマス会

<班長会>

<つどい委員会>

*ひかり学級 (コース制6年目)

<コース別活動>

- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース
- ・人形劇づくりコース

<行事>

合宿 (大地沢青少年
センター)
公民館まつり
クリスマス会

<班長会>

<新聞委員会>
<喫茶のぞみ>

*土曜学級 (班制1年目)

<班別活動>

- ・あじさい班
- ・コスモス班
- ・スピッツ班

<行事>

合宿 (青梅青年の家)
公民館まつり
新年会

<班長会>

<新年会実行委員会>

<サークル活動>

- ・さなえサークル
- ・おなべの会

<地域へ>

※第8回若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加

<担 当 者>
 ＊教育心理学の専門家（１名）
 ＊社会教育職員（１名）
 ＊施設職員（８名）
 ＊学生（２０名）
 ＊市民（３８名）
 <行 政 職 員>
 ＊公民館職員（４名）
 計 ７ ２ 名

1998年
 (H. 10)
 182名

二
 十
 五
 年
 目

☆ 生活づくり・文化創造
 ☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）
 ＊公民館学級（コース制14年目）
 <コース別活動>
 ・ものづくりコース
 ・Jバンドコース
 ・ブロード・スマイルコース
 ・健康からだづくりコース
 ・自然コース
 ・生活コース

<行事>
 合宿（大地沢青少年
 センター）
 公民館まつり
 クリスマス会

<班長会>
 <つどい委員会>

＊ひかり学級（コース制7年目）
 <コース別活動>
 ・劇ミュージカルコース
 ・健からオールスターズコース
 ・さんぽでけんからコース
 ・生活コース
 ・自然コース

<行事>
 合宿（大地沢青少年
 センター）
 公民館まつり
 クリスマス会

<班長会>
 <新聞委員会>
 <喫茶のぞみ>

＊土曜学級（班制2年目）
 <班別活動>
 ・ひまわり班
 ・トマト班
 ・トトロ班

<行事>
 合宿（青梅青年の家）
 公民館まつり
 新年会

<班長会>
 <新年会実行委員会>

<サークル活動>
 ・さなえサークル
 ・おなべの会

<担 当 者>
 ＊教育心理学の専門家（１名）
 ＊施設職員（１４名）
 ＊学生（２１名）
 ＊市民（３８名）

<地域へ>
 ※第9回若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加

<行 政 職 員>
 ＊公民館職員（４名）
 計 ７ ８ 名

1999年
 (H. 11)
 192名

二
 十
 六
 年
 目

☆ 生活づくり・文化創造
 ☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）
 ＊公民館学級（コース制15年目）
 <コース別活動>
 ・パフィーコース
 ・ミッキーコース
 ・ラビッツコース（バンド）
 ・ひまわりコース
 ・自然オレンジズコース
 ・生活コース

<行事>
 合宿（大地沢青少年
 センター）
 公民館まつり
 クリスマス会

<班長会>
 <つどい委員会>

2000年
(H. 12)
188名

二
十
七
年
目

＊ひかり学級（コース制8年目）

＜コース別活動＞

- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・ものづくりコース
- ・生活コース
- ・自然コース

＜行事＞

合宿（大地沢青少年
センター）
公民館まつり
クリスマス会

＜班長会＞

＜新聞委員会＞
＜喫茶のぞみ＞
＜とびたとう編集委員会＞
＜行事委員会＞

＊土曜学級（班制3年目）

＜班別活動＞

- ・スイートピー班
- ・スマップ班
- ・ミッキーコースター班

＜行事＞

合宿（青梅青年の家）
公民館まつり
新年会

＜班長会＞

＜サークル活動＞

- ・さなえサークル
- ・おなべの会

＜担 当 者＞

＊教育心理学の専門家（1名）
＊施設職員（14名）
＊学生（21名）
＊市民（30名）
＜行政職員＞
＊公民館職員（4名）
計70名

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

＊公民館学級（コース制16年目）

＜コース別活動＞

- ・ストロベリーコース
- ・健康からだづくりコース
- ・キッカーズコース（バンド）
- ・ものづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース

＜行事＞

合宿（大地沢青少年
センター）
公民館まつり
クリスマス会

＜班長会＞

＜つどい委員会＞

＊ひかり学級（コース制9年目）

＜コース別活動＞

- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・ものづくりコース
- ・生活コース
- ・自然コース

＜行事＞

合宿（大地沢青少年
センター）
公民館まつり
クリスマス会

＜班長会＞

＜新聞委員会＞
＜喫茶のぞみ＞
＜とびたとう編集委員会＞
＜行事委員会＞

＊土曜学級（班制4年目）

＜班別活動＞

- ・ひまわり班
- ・のぞみ班
- ・すずらん班
- ・さくらんぼ班

＜行事＞

合宿（狭山青年の家）
公民館まつり
年忘れ大運動会&
クリスマス会

＜班長会＞

＜サークル活動＞

- ・さなえサークル
- ・おなべの会

＜担 当 者＞

＊教育心理学の専門家（1名）
＊施設職員（14名）
＊学生（21名）
＊市民（28名）
＜行政職員＞
＊公民館職員（4名）
計68名

2001年
(H. 13)
185名

二十八年
目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)

*公民館学級 (コース制17年目)

<コース別活動>

- ・はいくキングコース
- ・健康からだづくりコース
- ・うたダンスミュージカルコース
- ・ものづくりコース
- ・町田たんけんコース
- ・生活コース

<行事>

合宿 (大地沢青少年
センター)
公民館まつり
クリスマス会

<班長会>

<つどい委員会>

*ひかり学級 (コース制10年目)

<コース別活動>

- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・ものづくりコース
- ・生活コース
- ・自然コース

<行事>

合宿 (大地沢青少年
センター)
公民館まつり
クリスマス会

<班長会>

<新聞委員会>

<喫茶のぞみ>

<行事委員会>

*土曜学級 (班制5年目)

<班別活動>

- ・うたとゆめ班
- ・つばさ班
- ・あさぎり班
- ・うさぎ班

<行事>

合宿 (狭山青年の家)
公民館まつり
新年会

<班長会>

<つどい委員会>

<サークル活動>

- ・さなえサークル
- ・おなべの会

<担 当 者>

*学生・市民 (60名)

<行 政 職 員>

*公民館職員 (4名)

計64名

2002年
(H. 14)
183名

二十九年
目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)

*公民館学級 (コース制18年目)

<コース別活動>

- ・健康からだづくりコース
- ・あさがおコース
- ・ももコース
- ・ものづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース

<行事>

合宿 (大地沢青少年
センター)
公民館まつり
クリスマス会

<班長会>

<つどい委員会>

*ひかり学級 (コース制11年目)

<コース別活動>

- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・ものづくりコース
- ・生活コース
- ・自然コース

<行事>

合宿 (大地沢青少年
センター)
公民館まつり
クリスマス会

<班長会>

<新聞委員会>

<喫茶のぞみ>

<行事委員会>

*土曜学級 (班制6年目)

		＜班別活動＞ ・あるき班 ・らくだものづくり班 ・ブギウギ班 ・ブルースカイ班	＜行事＞ - 合宿（狭山青年の家） - 公民館まつり - 新年会	＜班長会＞ ＜つどい委員会＞	
		＜サークル活動＞ ・さなえサークル ・おなべの会		＜担 当 者＞ *学生・市民（61名） ＜行 政 職 員＞ *公民館職員（4名）	計65名
2003年 (H. 15) 181名		☆ 生活づくり・文化創造 ☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級） *公民館学級（コース制19年目）			
三十 年 目	＜コース別活動＞ ・健康からだづくりコース ・トマバナミュージカルコース ・ニコニコバンドコース ・ものづくりコース ・自然コース ・生活コース	＜行事＞ - 合宿（大地沢青少年センター） - 公民館まつり - クリスマス会	＜班長会＞ ＜つどい委員会＞		
	*ひかり学級（コース制12年目）	＜コース別活動＞ ・劇・ミュージカルコース ・健康からだづくりコース ・企画づくりコース ・生活コース ・自然コース	＜行事＞ - 日帰りハイキング（府中郷土の森） - 公民館まつり - クリスマス会	＜班長会＞ ＜新聞委員会＞ ＜つどい＞	
	*土曜学級（班制7年目）	＜班別活動＞ ・ストロベリージャンプ班 ・にじ班 ・生活をつくる班 ・ひまわり班	＜行事＞ - 合宿（水元青年の家） - 公民館まつり - 冬のイベント	＜班長会＞ ＜つどい委員会＞	
	＜サークル活動＞ ・おなべの会 ・（仮称）共同学習識字の会		＜担 当 者＞ *学生・市民（61名） ＜行 政 職 員＞ *公民館職員（4名）	計65名	
2004年 (H. 16) 193名		☆ 生活づくり・文化創造 ☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級） *公民館学級（コース制20年目）			
三十 一 年 目	＜コース別活動＞ ・健康からだづくりコース ・スマイルコース ・ジャニーズコース ・ピンクガーデンコース ・ものづくりコース ・コスモス人生コース	＜行事＞ - 公民館まつり - クリスマス会	＜班長会＞ ＜つどい委員会＞		
	*ひかり学級（コース制13年目）	＜コース別活動＞	＜行事＞	＜班長会＞	

	・スポーツ&ハイキングコース 合宿（大地沢青少年センター）＜新聞委員会＞ ・ハイキングするコース 公民館まつり ＜つどい委員会＞ ・企画づくりコース クリスマス会 ・音舞団 ・さつまいも南アルプスハイジコース																
	＊土曜学級（班制８年目） <table> <tr> <td>＜班別活動＞</td><td>＜行事＞</td><td>＜班長会＞</td></tr> <tr> <td>・そら班</td><td>合宿（水元青年の家）</td><td>＜つどい委員会＞</td></tr> <tr> <td>・ズームイン班</td><td>公民館まつり</td><td></td></tr> <tr> <td>・ハートおんぷ班</td><td>新年会</td><td></td></tr> <tr> <td>・Shooting Star班</td><td></td><td></td></tr> </table>	＜班別活動＞	＜行事＞	＜班長会＞	・そら班	合宿（水元青年の家）	＜つどい委員会＞	・ズームイン班	公民館まつり		・ハートおんぷ班	新年会		・Shooting Star班			
＜班別活動＞	＜行事＞	＜班長会＞															
・そら班	合宿（水元青年の家）	＜つどい委員会＞															
・ズームイン班	公民館まつり																
・ハートおんぷ班	新年会																
・Shooting Star班																	
	＜サークル活動＞ ・おなべの会 ・（仮称）共同学習識字の会 ・とびたつ会	＜担 当 者＞ ＊学生・市民 （６０名） ＜行 政 職 員＞ ＊公民館職員 （４名） 計６４名															

２００５年

(H. 17)

１９６名

三
十
二
年
目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

◇全体行事

- ・東京都障がい者スポーツ大会
- ・町田市障がい者スポーツ大会
- ・公民館まつり
- ・秋合宿（大地沢青少年センター）

◇学級別活動

＊公民館学級（コース制２１年目）

＜コース別活動＞

- ・イルカさかなコース
- ・ものコース
- ・やりたいことと暮らしを考えるコース
- ・ジャーニーオレンジコース
- ・さくらコース
- ・すまいるミュージカルコース

＜学級内代表活動＞

- ・班長会
- ・新聞委員会

＜行事＞

- ・クリスマス会
- ・忘年会

＊ひかり学級（コース制１４年目）

＜コース別活動＞

- ・おいしいたべものコース
- ・みんなでGO！！コース
- ・ダンス&ミュージックコース
- ・歩くんです。コース
- ・ザ・家庭と暮らしコース

＜学級内代表活動＞

- ・班長会
- ・つどい委員会

＜行事＞

- ・クリスマス会

＊土曜学級（班制９年目）

＜班別活動＞

- ・ハッスル班
- ・キネマゴーゴー班
- ・のりものでゴー！班

＜学級内代表活動＞

- ・班長会
- ・つどい委員会

＜行事＞

- ・忘年会
- ・新年会

- ・ F 班
- ・ ちっちゃいお店班

◇学級外のサークル活動

- ・ おなべの会
- ・ とびたつ会

担当者	63名
公民館職員	4名

2006年

(H.18)

☆ 生活づくり・文化創造

188名

☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

三十三年目

◇全体行事

- ・ 東京都障がい者スポーツ大会
- ・ 町田市障がい者スポーツ大会
- ・ 公民館まつり
- ・ 秋合宿（大地沢青少年センター）

◇学級別活動

*公民館学級（コース制22年目）

<コース別活動>

- ・ イルカキラキラソナタミュージカルコース
- ・ ものぷーさんコース
- ・ やりたいことと暮らしを考えるコース
- ・ 自然まんきつコース
- ・ みんなでGOコース

<学級内代表活動>

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

<行事>

- ・ クリスマス会

*ひかり学級（コース制15年目）

<コース別活動>

- ・ ライブクリップコース
- ・ みんなのものづくり隊コース
- ・ 自分で自分コース
- ・ レッツゴーハイキングコース

<学級内代表活動>

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

<行事>

- ・ 新年会

*土曜学級（班制10年目）

<班別活動>

- ・ ねこバス班
- ・ ドレミ班
- ・ グルメハイキング班
- ・ 夢新聞班
- ・ イルカ班

<学級内代表活動>

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

<行事>

- ・ 新年会

◇学級外のサークル活動

- ・ おなべの会
- ・ とびたつ会

担当者	63名
公民館職員	4名

2007年

(H.19)

☆ 生活づくり・文化創造

176名

☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

◇全体行事

- ・東京都障がい者スポーツ大会
- ・町田市障がい者スポーツ大会
- ・公民館まつり
- ・秋合宿（大地沢青少年センター）
- ・バスハイク（こどもの国）

◇学級別活動

*公民館学級（コース制23年目）

<コース別活動>

生活とやりたいことを考えるコース

ポンタコース

劇団キャッツアイ

みんなでチャレンジコース

つばめコース

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・クリスマス会

*ひかり学級（コース制16年目）

<コース別活動>

GO!GO!チャレンジコース

富士山コース

ひまわり・コスモスコース

ミュージックコース

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・クリスマス会

*土曜学級（班制11年目）

<班別活動>

ハッピー班

空色美術班

ホッとなごみ班

キラキラ班

レインボー班

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・新年会

◇学級外のサークル活動

- ・おなべの会
- ・とびたつ会

担当者	63名
（学級日当日担当者）	13名）
公民館職員	4名

※ 学級日当日担当者の制度を
新設しました

2008年

(H. 20)

☆ 生活づくり・文化創造

173名

☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

◇全体行事

- ・東京都障がい者スポーツ大会
- ・町田市障がい者スポーツ大会
- ・公民館まつり
- ・秋合宿（大地沢青少年センター）

◇学級別活動

*公民館学級（コース制24年目）

<コース別活動>

生活とやりたいことを考えるコース

<学級内代表活動>

- ・班長会

<行事>

- ・クリスマス会

パンダコース
ブルースコース
フレンズドリームコース
ものピカソコース

・つどい委員会

*ひかり学級（コース制１７年目）

<コース別活動>

スポガイGO!GO!コース

にじいろ・たいようコース

GO!GO!ハイキングコース

音楽&とびたとうコース

ひまわりコース

<学級内代表活動>

・班長会

・つどい委員会

<行事>

・クリスマス会

*土曜学級（班制１２年目）

<班別活動>

ドンドン班

アドベンチャー班

アリス班

ほしとひまわり班

うんどうすぽ一つ班

<学級内代表活動>

・班長会

・つどい委員会

<行事>

・新年会

◇学級外のサークル活動

・おなべの会

・とびたつ会

担当者	67名
（学級日当日担当者）	19名
公民館職員	3名

2009年

(H. 21) ☆ 生活づくり・文化創造

169名 ☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

三十六年目

◇全体行事

・東京都障がい者スポーツ大会

・公民館まつり

・秋合宿（大地沢青少年センター）

◇学級別活動

*公民館学級（コース制２５年目）

<コース別活動>

ROBOTコース

作品づくりコース

ドリームレインボーコース

生活とやりたいことを考えるコース

ルーキーズコース

<学級内代表活動>

・班長会

・つどい委員会

<行事>

・クリスマス会

*ひかり学級（コース制１８年目）

<コース別活動>

みんなの手コース

元気あいじょうコース

ステージJコース

フラワー・ヤッホーコース

企画チャレンジコース

<学級内代表活動>

・班長会

・つどい委員会

<行事>

・クリスマス会

*土曜学級（班制13年目）

<班別活動>

ラッキー班

あるくものづくり班

ピッピスポーツ班

チャレンジ班

キラキラげんき班

<学級内代表活動>

・班長会

・つどい委員会

<行事>

・新年会

◇学級外のサークル活動

・おなべの会

・とびたつ会

担当者	81名
（学級日当日担当者）	13名
公民館職員	3名

2010年

(H. 22)

☆ 生活づくり・文化創造

178名

☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

三十七年目

◇全体行事

- ・ 東京都障がい者スポーツ大会
- ・ 町田市障がい者スポーツ大会
- ・ 公民館まつり
- ・ 秋合宿（大地沢青少年センター）

◇学級別活動

* 公民館学級（コース制26年目）

<コース別活動>

- ・ スターウォーズコース
- ・ ひまわりコース
- ・ オールスターコース
- ・ ゆめをみようコース
- ・ ミュージカルインストルメンツコース

<学級内代表活動>

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

<行事>

- ・ クリスマス会

* ひかり学級（コース制19年目）

<コース別活動>

- ・ スポーツドリームコース
- ・ 冒険散歩コース
- ・ 星のつばさコース
- ・ ラベンダーのかなたへコース
- ・ あじさいコース

<学級内代表活動>

- ・ 班長会

<行事>

- ・ 20周年記念イベント

* 土曜学級（班制14年目）

<班別活動>

- ・ ビクトリー班
- ・ ステップでどん班
- ・ ニコニコお祭り班
- ・ ぞうさんのあくび班

<学級内代表活動>

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

<行事>

- ・ 新年会

◇学級外のサークル活動

- ・ とびたつ会
- ・ おなべの会

担当者	73名
（学級日当日担当者）	21名
公民館職員	3名

2011年

(H. 23)

186名

三十八年目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)

◇全体行事

- ・ 町田市障がい者スポーツ大会
- ・ 公民館まつり
- ・ 秋合宿 (大地沢青少年センター)

◇学級別活動

* 公民館学級 (コース制27年目)

<コース別活動>

- ・ ハピネスクローバー コース
- ・ ダンシングミュージカル コース
- ・ 銀河鉄道999 コース
- ・ みんなのあかり コース
- ・ きずな コース

<学級内代表活動>

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

<行事>

- ・ クリスマス会

* ひかり学級 (コース制20年目)

<コース別活動>

- ・ 探検ハト コース
- ・ 健康スポーツ コース
- ・ レッドビッキーズ
- ・ パンダ コース
- ・ パフォーマンスアカデミー コース

<学級内代表活動>

- ・ 班長会

<行事>

- ・ クリスマス会

* 土曜学級 (班制15年目)

<班別活動>

- ・ ひまわり 班
- ・ げきだんランランロック 班
- ・ ハッピーミュージック 班
- ・ ワクワク体験 班
- ・ お陽さまごつつんこ 班

<学級内代表活動>

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

<行事>

- ・ 新年会

◇学級外のサークル活動

- ・ とびたつ会
- ・ おなべの会

担当者	82名
(学級日当日担当者)	23名)
公民館職員	3名

2012年

(H. 24)

183名

三十九年目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)

◇ 全体行事

- ・ 東京都障がい者スポーツ大会
- ・ 町田市障がい者スポーツ大会
- ・ 生涯学習センターまつり
- ・ 秋合宿 (大地沢青少年センター)

◇ 学級別活動

＊ 公民館学級（コース制 2 8 年目）

＜コース別活動＞

- ・ コンサート♪ コース
- ・ みんなのあかり コース
- ・ 健康・体力づくり コース
- ・ 劇団 宇宙のかがやき コース
- ・ ギブア・ハピネススクローバー・トゥ・ビーナス コース

＜学級内代表活動＞

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

＜行事＞

- ・ クリスマス会

＊ ひかり学級（コース制活動 2 1 年目）

＜コース別活動＞

- ・ 笑顔&ミュージカル コース
- ・ スマイル コース
- ・ ひまわりものづくり コース
- ・ 愛情料理 コース
- ・ さんぽ コース

＜学級内代表活動＞

- ・ 班長会

＜行事＞

- ・ クリスマス会

＊ 土曜学級（班制 1 6 年目）

＜班別活動＞

- ・ はくちょうで野球しようぜ 班
- ・ ラビットグルメ 班
- ・ なんでもチャレンジ 班
- ・ やったねストライク 班
- ・ ムーンランド♥ドラエモンバンド 班

＜学級内代表活動＞

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

＜行事＞

- ・ 新年会

◇ 学級外のサークル活動

- ・ とびたつ会
- ・ おなべの会
- ・ スケッチ・ルーム

担当者	7 7 名
（学級日当日担当者）	3 2 名）
生涯学習センター職員	3 名

2 0 1 3 年
(H. 2 5)
1 8 3 名

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

◇全体行事

- ・ 東京都障害者スポーツ大会（フットベースボール）
- ・ 町田市障がい者スポーツ大会
- ・ 生涯学習センターまつり（展示・舞台）

◇学級別活動

※ 公民館学級（コース制 2 9 年目）

＜コース別活動＞

- ・ みんなのゆめ コース
- ・ みんなのあかりコース 2 0 1 3
- ・ ヘルス・パワーアップ コース
- ・ 夢よびたい コース
- ・ ものづくり コース

＜学級内代表活動＞

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

＜行事＞

- ・ 合宿
（大地沢青少年センター）
- ・ クリスマス会

※ ひかり学級（コース制活動 2 2 年目）

＜コース別活動＞

- ・ みんなのいのち コース
- ・ ハッピースポーツ探検さんぽ コース
- ・ メニーハンズ コース
- ・ うさぎのダンス コース
- ・ ふれあいのぞみ コース

＜学級内代表活動＞

- ・ 班長会

＜行事＞

- ・ バスハイク
（こどもの国）
- ・ クリスマス会

※ 土曜学級（班制 17 年目）

<班制活動>

- ・みどりのはっぱとたんぽぽ 班
- ・じえじえじえ！あじさいだー 班
- ・ラビット・ミッフィー・ドルフィン 班
- ・ひまわり 班
- ・住・行（考） 班

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・合宿
（大地沢青少年センター）
- ・新年会

◇ 学級外のサークル活動

- ・ とびたつ会
- ・ おなべの会
- ・ スケッチ・ルーム

担当者	73 名
（うち学級日当日担当者	26 名）
生涯学習センター職員	4 名

2014 年

（H. 26）
182 名

四
十
一
年
目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

◇全体行事

- ・東京都障害者スポーツ大会（フットベースボール）
- ・町田市障がい者スポーツ大会
- ・生涯学習センターまつり（展示・舞台）
- ・青年学級 40 周年記念式典

◇学級別活動

※ 公民館学級（コース制 30 年目）

<コース別活動>

- ・こころ夢 コース
- ・はれの日 コース
- ・わたしたちのみらい コース
- ・スマイルヘルスアップ コース
- ・カリビアン コース

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・合宿
（大地沢青少年センター）
- ・クリスマス会

※ ひかり学級（コース制 23 年目）

<コース別活動>

- ・世界にひとつだけの花 コース
- ・江ノ島かもがわ水族館 コース
- ・元気はつらつ夏椿 コース
- ・トトロミュージック コース
- ・イベント・ドリーム コース

<学級内代表活動>

- ・班長会

<行事>

- ・バスハイク
（よこはま動物園ズーラシア）
- ・新年会

※ 土曜学級（班制 18 年目）

<班制活動>

- ・青空クローバー 班
- ・ギターとラップと夢とともだち 班
- ・健康グルメ 班
- ・あまちゃん 班
- ・生活まじめ 班

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・日帰り旅行
（江ノ島）
- ・新年会

◇ 学級外のサークル活動

- ・ とびたつ会
- ・ おなべの会
- ・ スケッチ・ルーム

担当者	71 名
（うち学級日当日担当者	22 名）
生涯学習センター職員	4 名

2015年

(H. 27)

174名

四十二年目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

◇全体行事

- ・町田市障がい者スポーツ大会
- ・生涯学習センターまつり（展示・舞台）

◇学級別活動

※ 公民館学級（コース制31年目）

<コース別活動>

- ・楽器大好き コース
- ・ものづくり コース
- ・わたしたちのみらい コース
- ・ケンカラ コース
- ・劇・ミュージカル コース

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・合宿
（大地沢青少年センター）
- ・クリスマス会

※ ひかり学級（コース制24年目）

<コース別活動>

- ・にじスマイル コース
- ・強くて負けないスーパー電車
スポーツコース1・2・3
- ・小さなしあわせ すみれ コース
- ・ミュージカル・ダンス コース
- ・おでかけ料理 コース

<学級内代表活動>

- ・班長会

<行事>

- ・日帰り旅行
（江ノ島）
- ・新年会

※ 土曜学級（班制19年目）

<班制活動>

- ・ハッピーブルー 班
- ・みんな元気スポーツ 班
- ・楽しいイベント 班
- ・あじさいものづくり48 班

<学級内代表活動>

- ・班長会

<行事>

- ・合宿
（大地沢青少年センター）
- ・新年会

◇ 学級外のサークル活動

- ・ とびたつ会
- ・ おなべの会
- ・ スケッチ・ルーム

担当者	71名
（うち学級日当日担当者	22名）
生涯学習センター職員	5名

2016年

(H. 28)

171名

四十三年目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

◇全体行事

- ・町田市障がい者スポーツ大会
- ・生涯学習センターまつり（展示・舞台）

◇学級別活動

※ 公民館学級（コース制32年目）

<コース別活動>

- ・抱きしめたい心 コース
- ・ものづくり コース
- ・生活とくらしを考える コース
- ・炎のファイト！ 健康からだづくり コース
- ・あおのなかま コース

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・合宿
（大地沢青少年センター）
- ・クリスマス会

※ ひかり学級（コース制25年目）

<コース別活動>

- ・ふれあいをつくっていく コース

<学級内代表活動>

- ・班長会

<行事>

- ・日帰り旅行

- ・無敵最強スポーツ コース
- ・ひまわり味彩大作戦 コース
- ・コスマリッパ劇ダンス コース

- (藤野芸術の家)
- ・クリスマス会

※ 土曜学級（班制20年目）

<班制活動>

- ・ハッピーブルー 班
- ・みんな元気スポーツ 班
- ・楽しいイベント 班
- ・あじさいものづくり48 班

<学級内代表活動>

- ・班長会

<行事>

- ・日帰り旅行
(みなとみらい)
- ・新年会

◇ 学級外のサークル活動

- ・とびたつ会
- ・おなべの会
- ・スケッチ・ルーム

担当者	64名
(うち学級日当日担当者	26名)
生涯学習センター職員	6名

2017年

(H. 29)

171名

四
十
四
年
目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

◇全体行事

- ・町田市障がい者スポーツ大会
- ・生涯学習センターまつり（展示・舞台）

◇学級別活動

※ 公民館学級（コース制33年目）

<コース別活動>

- ・なでしこ コース
- ・たんぽぽ コース
- ・よりみち コース
- ・エビカニクス コース
- ・自由カンガルー コース

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・合宿
(大地沢青少年センター)
- ・クリスマス会

※ ひかり学級（コース制26年目）

<コース別活動>

- ・花 コース
- ・虹ドリームアンド創作 コース
- ・何でも最強スポーツ コース
- ・お出かけ料理 コース

<学級内代表活動>

- ・班長会

<行事>

- ・日帰り旅行
(みなとみらい)
- ・クリスマス会

※ 土曜学級（班制21年目）

<班制活動>

- ・ハワイと虹 班
- ・トーマスレインボースポーツ 班
- ・一刀両断 班
- ・トレンドィものづくり 班

<学級内代表活動>

- ・班長会

<行事>

- ・合宿
(大地沢青少年センター)
- ・新年会
- ・20周年記念式典

◇ 学級外のサークル活動

- ・とびたつ会
- ・おなべの会
- ・スケッチ・ルーム

担当者	64名
(うち学級日当日担当者	27名)
生涯学習センター職員	4名

2018年

(H. 30)

166名

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

◇全体行事

- ・町田市障がい者スポーツ大会
- ・生涯学習センターまつり（展示・舞台）

◇学級別活動

※ 公民館学級（コース制３４年目）

<コース別活動>

- ・わかそよづくり コース
- ・みんなのたいせつなことば コース
- ・ひわまり コース
- ・くらし コース
- ・ハッピー生き生き！スポーツ コース
- ・夢のあかり コース

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・合宿
（大地沢青少年センター）
- ・クリスマス会

※ ひかり学級（コース制２７年目）

<コース別活動>

- ・エクスポ コース
- ・おまかせ芸術 コース
- ・レッドスターズ
- ・みんなの未来 コース

<学級内代表活動>

- ・班長会

<行事>

- ・日帰り旅行
（相模原公園）
- ・クリスマス会

※ 土曜学級（班制２２年目）

<班制活動>

- ・流れ星💫ダンス 班
- ・スマイルイベント 班
- ・ものづくりブリヂストン 班
- ・秋桜 班

<学級内代表活動>

- ・班長会

<行事>

- ・日帰り旅行
（小田原）
- ・新年会

◇ 学級外のサークル活動

- ・とびたつ会
- ・おなべの会
- ・スケッチ・ルーム

担当者	73名
（うち学級日当日担当者	30名）
生涯学習センター職員	4名

2019年

(H. 31)

163名

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

◇全体行事

- ・生涯学習センターまつり（展示・舞台）

◇学級別活動

※ 公民館学級（コース制３５年目）

<コース別活動>

- ・みんなのしあわせづくり コース
- ・まあるいゆめ コース
- ・さくら コース
- ・ハッピーハッピーくらし コース
- ・さくらんぼスポーツ体づくり コース
- ・ゆめのつづき コース

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・合宿
（大地沢青少年センター）
- ・クリスマス会

※ ひかり学級（コース制２８年目）

<コース別活動>

- ・イトチョコパイ青空 コース
- ・サルビアダンス コース
- ・GoGo みずいろスターズ コース
- ・あじさい コース

<学級内代表活動>

- ・班長会

<行事>

- ・日帰り旅行
（江の島）
- ・クリスマス会

※ 土曜学級（班制２３年目）

<班制活動>

- ・星空ドルフィンスポーツ 班
- ・みんなのイベント 班
- ・あじさい 班
- ・青空いなずま 班

<学級内代表活動>

- ・班長会

<行事>

- ・日帰り旅行
(横浜)
- ・新年会

◇ 学級外のサークル活動

- ・とびたつ会
- ・おなべの会
- ・スケッチ・ルーム
- ・風になる会

担当者	6 6 名
(うち学級日当日担当者	1 6 名)
生涯学習センター職員	4 名

2020年

(R. 2)

164名

四十七年目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)

◇全体行事

- ・生涯学習センターまつり (インターネット会場)

◇学級別活動

※ 公民館学級 (コース制36年目)

<コース別活動>

- ・みんなのしあわせづくり コース
- ・まあるいゆめ コース
- ・さくら コース
- ・ハッピーハッピーくらし コース
- ・さくらんぼスポーツ体づくり コース
- ・ゆめのつづき コース

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・クリスマス会

※ ひかり学級 (コース制29年目)

<コース別活動>

- ・エールハイキング コース
- ・スイートゆめいろ創作 コース
- ・ゆかいなフラワー コース
- ・ライブダンス 2020 コース

<学級内代表活動>

-

<行事>

-

※ 土曜学級 (班制24年目)

<班制活動>

- ・星空ドルフィンスポーツ 班
- ・みんなのイベント 班
- ・あじさい 班
- ・青空いなずま 班

<学級内代表活動>

-

<行事>

-

◇ 学級外のサークル活動

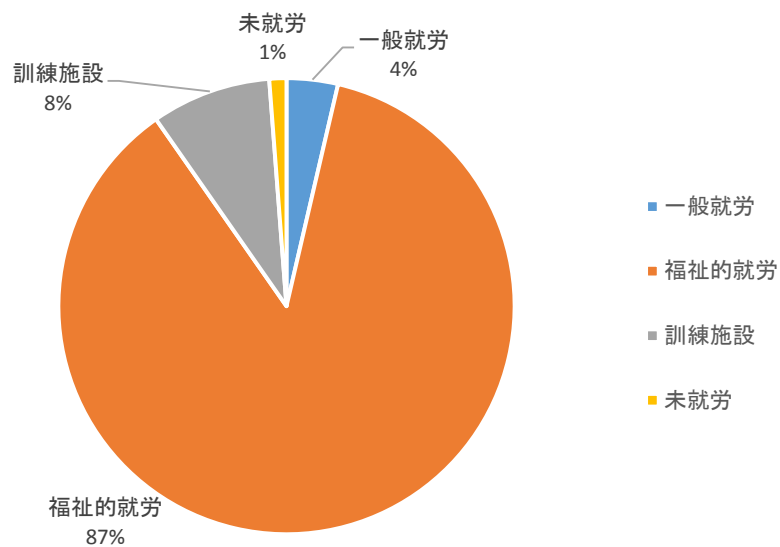
- ・とびたつ会
- ・おなべの会
- ・スケッチ・ルーム
- ・上を向く会 (気流)

担当者	4 7 名
生涯学習センター職員	4 名

☆学級生の就労状況

未就労	2	福祉的就労		町田かたつむりの家		7
		赤い屋根	7	町田リス園		2
一般就労		大賀藕絲館	16	メイク2		1
菓子工場	1	かがやき	20	森工房		1
紙器	1	喫茶けやき	2	ゆめ工房		1
特例子会社	2	共働学舎	6	ラ・まの		6
理容・美容	1	くず葉学園	1	ラック		1
老人ホーム	1	こころみ農園	3			
		サポートセンター町田とも	5	訓練施設		
		シャロームの家	5	島田療育センター		1
		スワンカフェ＆ベーカリー	2	ひかり療育園		2
		地の星ベロニカ苑	10	町田生活実習所		4
		つるかわ学園	3	町田福祉園		5
		デンマーク牧場	1	わさびだ療育園		2
		なないろ	11			
		ニーズセンター花の家	12			
		花の郷	6			
		美術工芸館	3			
		プラスアルファ	7			
		ベネッセソシアス	1			
		ボワ・アルモニー	1			
		町田おかしの家	2			

就労・通所状況



☆学級生の持っている手帳

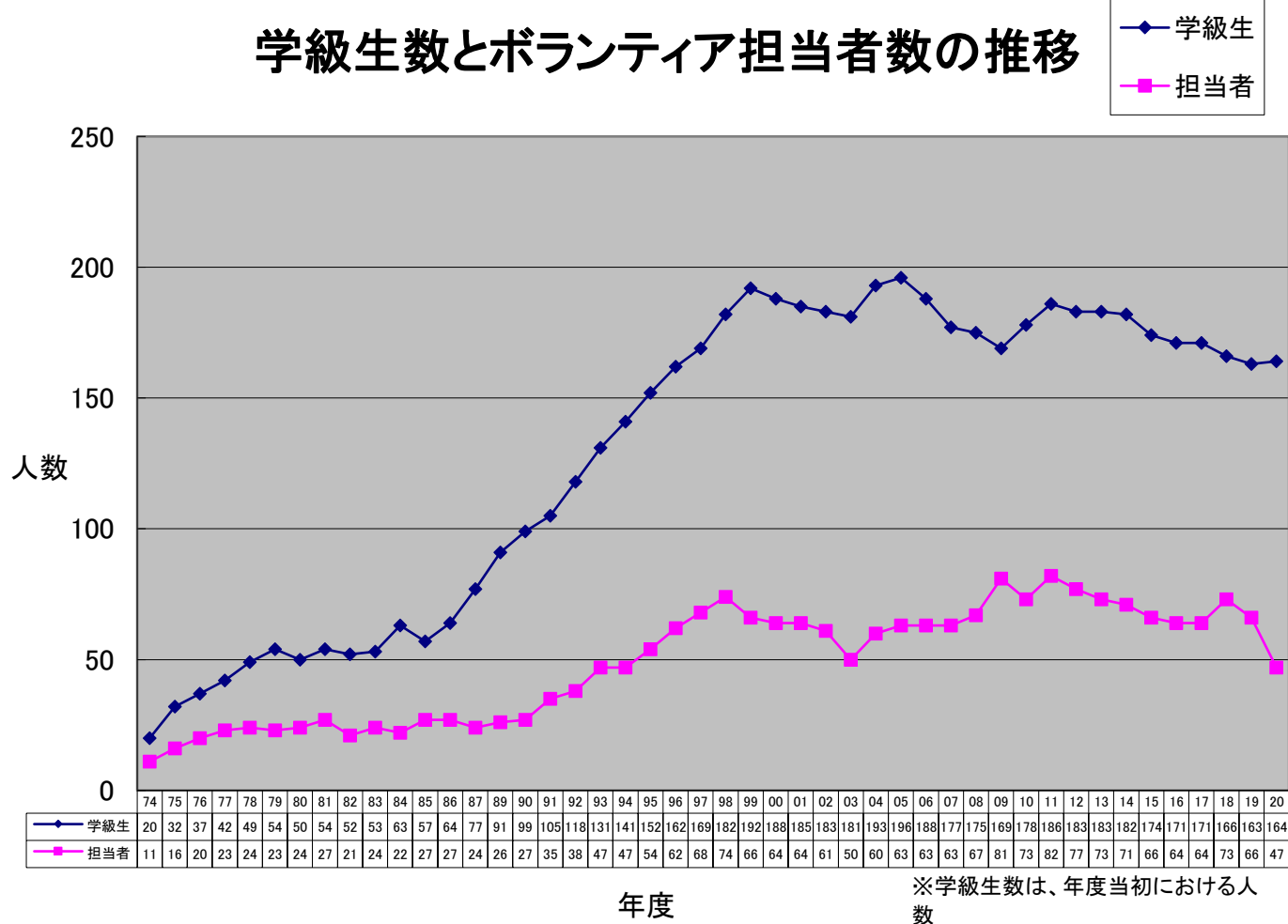
愛の手帳(療育手帳)

		1度	2度	3度	4度	計
公民館学級	男	1	23	14	5	43
	女		9	10	3	22
ひかり学級	男	1	11	19	2	33
	女	1	12	4	1	18
土曜学級	男	1	14	15	4	34
	女		6	5	1	12
計	男	3	48	48	11	110
	女	1	27	19	5	52
総計		4	75	67	16	162

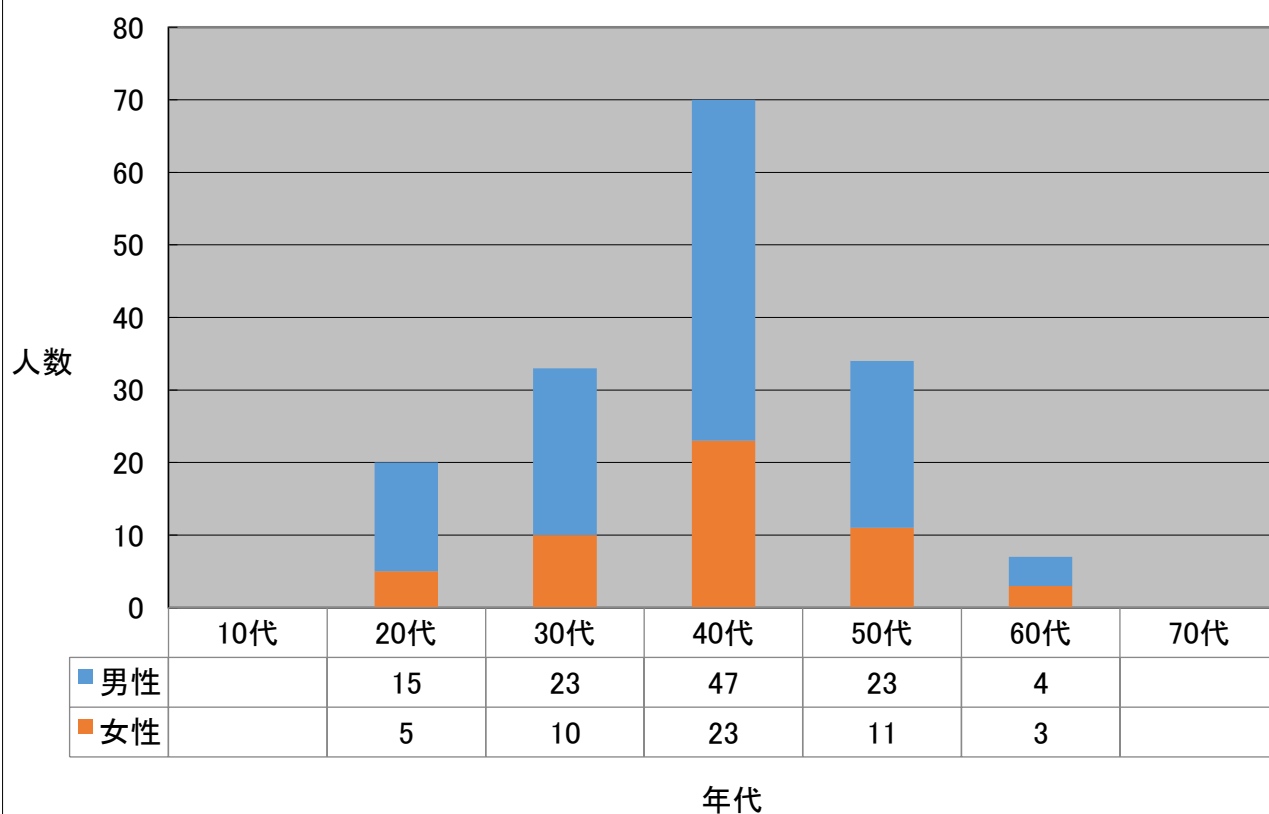
身体障害者手帳

		1級	2級	3級	4級	5級	6級	計
公民館学級	男	6	2	1	1	1	1	12
	女	2	2	1	1			6
ひかり学級	男	1	3	1			1	6
	女	7	5				1	13
土曜学級	男	3	2		1			6
	女	2						2
計	男	10	7	2	2	1	2	24
	女	11	7	1	1	0	1	21
総計		21	14	3	3	1	3	45

学級生数とボランティア担当者数の推移



学級生の年代・男女別構成比



担当者紹介（2020 年 4 月～2021 年 3 月）

公民館学級（27 名）

伊藤 美紀子
内田 桃香
遠藤 孝規
大毛 萌子
大高 綾音
梶原 拓人
加藤 沙耶香
唐木 照美
日下部 洋介
小島 道子
原子 昌平
斉藤 由衣
櫻井 明美
柴田 保之
末永 智美
鈴木 邦子
関水 末子
高井 大輔
富永 節子
春山 祥子
星野 芳朋
堀井 あすか
牧野 恵里香
山田 修平
山之内 敦郎
横田 靖子
若林 一哉

ひかり学級（7 名）

飯田 敏子
飯塚 葵
今泉 晴世
金子 大智
黒川 めぐみ
志賀 健二
酒匂 健太

土曜学級（13 名）

石橋 堯弥
井上 廣美
大島 菜々子
片岡 千栄子
日下部 哲
小山 京子
鈴木 幸江
瀧本 克芳
富沢 タツ子
西村 鎮男
彦根 睦
堀部 秀人
宮城 幸生

行政職員

（生涯学習センター）

☆ 岩田 武（16～）
☆ 戎谷 昭浩（18～）
☆ 河井 優幸（20～）
☆ 永井 里枝子（18～）

町田市障がい者青年学級 実践報告集 第46号

発行日 2022年3月

編集 町田市障がい者青年学級 担当者会

発行 町田市教育委員会生涯学習部生涯学習センター

〒194-0013 東京都町田市原町田6-8-1

TEL 042-728-0071

刊行物番号 21-90

この冊子は、100部作成し、1部あたりの単価は1,455円です。

（職員の人件費を含みます。）

2020年度

町田市障がい者青年学級実践報告集

46